

東京都国分寺市

# 恋ヶ窪遺跡調査報告VI

— 日立中央研究所研究棟・食堂・プール更衣室建設工事に伴う調査 —

1994. 3

国分寺市遺跡調査会  
国分寺市教育委員会



## 序

国分寺市内の先土器時代・縄文時代の遺跡は、市内東南部を流れる野川流域に沿った国分寺崖線上の武蔵野台地に集中しています。武蔵野台地は「恋ヶ窪谷」「さんや谷」「殿ヶ谷戸谷」「本多谷」などの谷によって大きく分割されており、遺跡はこうした谷に面した台地の縁辺部に作られ、崖線下には多くの湧水地があります。その中でも恋ヶ窪遺跡と羽根沢遺跡は古くから知られている遺跡で、過去に幾度も調査が行われてきました。

このたびの調査は、日立中央研究所構内における研究棟やその他の施設建設に伴う緊急調査の成果をまとめたものです。この調査により恋ヶ窪遺跡では集落の北東域の限界が明らかとなり、羽根沢遺跡については集落に関係した遺構が検出され、遺構の内容を把握するための貴重な資料が得られました。これらの資料は今後の調査・研究に大きく寄与するものと思われます。

この調査実施にあたりましては、文化庁・東京都教育委員会・国分寺市文化財保護審議会の皆様をはじめ、調査会の団長・役員の方々にご指導いただきながら進めてまいりました。また、調査にあたって終始深い御理解と御協力をいただきました日立中央研究所関係者の方々から感謝申しあげるものであります。

最後に、本報告書が恋ヶ窪の古代文化、国分寺の歴史の解明に少しでも供することができれば幸いです。すでに刊行されました恋ヶ窪報告書Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳと合わせて広く活用されることを願ってやみません。

平成4年2月29日

調査会長 星野亮勝





## 例 言

1. 本書は、日立中央研究所構内における研究棟、食堂棟、プール更衣室の建設工事に伴う発掘調査報告である。
2. 本調査は、朝日中央研究所から恋ヶ窪遺跡調査会ならびに国分寺市遺跡調査会に委託されたものである。
3. 発掘調査は、第1期研究棟昭和58年2月14日から同年9月6日、プール更衣室昭和61年9月8日から同年10月23日、第2期研究棟・食堂棟平成2年5月21日から同年11月1日まで行い、整理および報告書作成は平成4年2月29日まで国分寺市遺跡調査会恋ヶ窪事務所で行った。
4. 調査は広瀬昭弘が第1期研究棟・プール更衣室の建設を、板倉敏之が第2期研究棟・食堂棟の建設に専従した。
5. 本書の執筆・編集は、滝口宏・永峯光一・大川清・坂詰秀一の監修のもとに上村昌男・上敷頼久の各調査員が分担した。執筆文担は下記のとおりである。

上村昌男 I、II、III、IV

上敷頼久 IV-1～4の(2)石器一覽

6. 発掘調査から報告書作成に至る過程で、次の方々から御教示、御協力をいただいた。(敬称略、順不同)  
有吉重蔵、福田信夫、早川泉、河内公夫、秋山道生、砂田佳弘、山崎和巳
7. 発掘および整理参加者(敬称略、五十音順)

### 発掘作業

芥浩、阿部聖昭、飯村敏也、石井隆、石川恭彦、磯野義孝、市川政史、福井亮、井上利明、井深雅彦、上村純一、海野毅史、岡村幸男、太田立也、刑部康雄、尾崎勝人、櫻村三浩、加藤淳也、門田公文、金子浩二、川島寿則、木村博文、久保輪直樹、佐藤一也、佐藤秀樹、塩原俊郎、品田圭二、島田寿夫、関博文、関谷靖久、千石洋、田中祥介、田中哲也、谷本美毅、鳥越伸一、中川一昭、中田一夫、成田靖、西山和成、畑山豊、福井健二、福田敏文、堀野孝志、松沢修、湯瀬慎彦

### 整理作業

石田美恵子、井村みゆき、内田勝巳、遠藤佐、大城戸玲子、岡島チツエ、加藤はす、木村初江、小菅将夫、小松明美、佐野潤代、島崎恵美子、助川剛栄、須崎幸子、鈴木麻弥、関欣子、外谷悦子、千葉則子、内藤真由美、中村宜弘、長崎潤一、檜岡ゆう子、西田絢子、長谷川光子、原俊二、原田瑞枝、東清子、深瀬恵津子、本多俊朗、間室幸仁、翠川泰弘、皆川洋一、三巻良子、三宅良明、村井ユキ子、村山資子、森川康子、森安敦子、山縣素子、山岸加寿子、渡辺かおる

# 凡 例

## 本文

1. 国分寺市内の遺跡は、武蔵国分寺跡を除いて、頭に「K」を冠し次に遺跡の番号と調査次数を記入する。例えば「K 2-35」の場合は恋ヶ窪遺跡の35次調査、「K 5-2」は羽根沢遺跡の2次調査を示す。
2. 遺構は、各遺構毎に発見順に連続番号を付したが、整理工程の事由により必ずしも調査次数順とはなっていない。
3. 遺物の記述は全て一覧表によった。表記方法について説明する。
  - ① 遺物番号は、図面番号と対照にした。例えば「26-1」とあれば「図面26-1」を示す。
  - ② 出土位置の内、「101住」は101号住居跡、「1埋」は1号屋外埋室、「62土」は62号土坑、「20集」は20号集石土坑、「23磔」は23号磔集中部分、「遺構外」は遺物包含層を示す。
  - ③ 計測値の内、記号なしは完形数値、( ) は復原数値、( ) は残存数値、— は計測不可を表わす。単位はcm・gである。

## 図面・図版

### 1. 遺構

- ① 遺構配置図表示の数字は、国家座標第9系を用いて距離を表わしている。X軸が南北ライン、Y軸が東西ラインを示す。尚、K 2-39次調査は建築建物の設計方向を発掘の基準線として使用した。
- ② 断面図表示の数字は水糸レベルで、海拔高を示す。
- ③ スクリーントーンの指示は次のとおりである。

 ローム層  焼土・炉  集石

- ④ 縮尺は次のとおり統一した。

遺跡の位置図 1/25000 調査地位置図 1/10000・1/15000 調査区全体図 1/200・1/400 住居跡 1/60 炉 1/30 埋室 1/20 土坑 1/50 集石 1/20・1/30・1/60 遺物分布図 1/45・1/400

### 2. 遺物

- ① 石器類におけるスクリーンパターンの指示は次の通りである。

 磨面

- ② 写真図版の内、出土遺物は図面番号と対照にした。例えば「26-1」とあれば「図面26-1」のことを示す。
- ③ 縮尺は次のとおり統一した。

図面 土器 1/3・1/6 土製品 1/3 石器 2/3・1/3・1/6・1/8

図版 土器 1/3・1/4・1/6 土製品 1/1・1/3 石器 1/1・1/3・  
1/6

## 本文目次

序  
例 言

凡 例

I 調査に至る経過 .....	1
II 調査地区の概観 .....	4
1. 調査地区の位置・立地 .....	4
2. 層 序 .....	4
III 発掘経過 .....	8
IV 調査地の概要 .....	11
1. K 2-35次調査 .....	11
(1) 検出遺構 (2) 出土遺物 (3) 小 結	
2. K 2-39次調査 .....	29
(1) 検出遺構 (2) 出土遺物 (3) 小 結	
3. K 5-2次調査 .....	45
(1) 検出遺構 (2) 出土遺物 (3) 小 結	
4. K 5-5次調査 .....	58
(1) 検出遺構 (2) 出土遺物 (3) 小 結	
参考文献 .....	59

## 挿 図 目 次

第1図 遺跡の位置 (1/25000)	6
第2図 基本層序	7

## 表 目 次

第1表 調査工程表	9・10
第2表 K 2-35次調査 遺物一覧表	14
}	
第15表 //	27
第16表 K 2-39次調査 遺物一覧表	36
}	
第24表 //	44
第25表 K 5-2次調査 遺物一覧表	48
}	
第34表 //	57
第35表 K 5-5次調査 遺物一覧表	58

## 図 面 目 次

図面1 K 2-35次調査 調査地全体図	図面16 K 2-39次調査 64・65・67・68号土坑
図面2 K 2-35次調査 遺物分布図	図面17 K 2-39次調査 61・66・69・70号土坑
図面3 K 2-35次調査 101号住居跡	図面18 K 2-39次調査 62・63・71・72・73号土坑
図面4 K 2-35次調査 102・103号住居跡	図面19 K 2-39次調査 74・75・76・77号土坑
図面5 K 2-35次調査 130・131・132・133・134号土坑	図面20 K 2-39次調査 23号集集中部分遺物分布図
図面6 K 2-35次調査 135・136・137・138号土坑	図面21 K 5-2次調査 調査地全体図
図面7 K 2-35次調査 20・21号集石土坑	図面22 K 5-2次調査 1・2・3号埋篋
図面8 K 2-39次調査 調査地全体図	図面23 K 5-2次調査 1・2・3・4・5・6号土坑
図面9 K 2-39次調査 遺物分布図(土器)	図面24 K 5-2次調査 1・2・3・4号集石
図面10 K 2-39次調査 遺物分布図(石器)	図面25 K 5-5次調査 調査地全体図
図面11 K 2-39次調査 78号住居跡	図面26 K 2-35次調査 101・102・103号住居跡、20号集石土坑出土土器
図面12 K 2-39次調査 79・80号住居跡	図面27 K 2-35次調査 21号集石土坑出土土器
図面13 K 2-39次調査 81号住居跡	図面28 K 2-35次調査 21号集石土坑出土土器
図面14 K 2-39次調査 82号住居跡	
図面15 K 2-39次調査 83・84号住居跡	

図面29	K 2-35次調査	21号集石土坑出土土器
図面30	K 2-35次調査	21号集石土坑、ビット7、 遺構外出土土器
図面31	K 2-35次調査	遺構外出土土器
図面32	K 2-35次調査	遺構外出土土器
図面33	K 2-35次調査	遺構外出土土器、土製品
図面34	K 2-35次調査	21号集石土坑出土土器
図面35	K 2-35次調査	21号集石土坑出土土器
図面36	K 2-35次調査	21号集石土坑出土土器
図面37	K 2-35次調査	21号集石土坑出土土器
図面38	K 2-35次調査	21号集石土坑、遺構外出土 土器
図面39	K 2-39次調査	78・80・81号住居跡出土土 器
図面40	K 2-39次調査	81・82号住居跡出土土器
図面41	K 2-39次調査	82・83号住居跡出土土器
図面42	K 2-39次調査	84号住居跡、62号土坑、23 号雑集中部分、遺構外出土 土器
図面43	K 2-39次調査	遺構外出土土器、土製品
図面44	K 2-39次調査	78・80・81号住居跡出土石 器
図面45	K 2-39次調査	83号住居跡出土土器
図面46	K 2-39次調査	82・84号住居跡、 23号雑集中部分出土土器
図面47	K 2-39次調査	23号雑集中部分、遺構外出 土土器
図面48	K 5-2次調査	1・2・3号埋篋、3号土 坑出土土器
図面49	K 5-2次調査	3・4号土坑、1・3号集 石、ビット25・26、遺構外 出土土器
図面50	K 5-2次調査	遺構外出土土器
図面51	K 5-2次調査	遺構外出土土器
図面52	K 5-2次調査	遺構外出土土器、土製品
図面53	K 5-2次調査	1号埋篋、2・3号土坑、 1号集石出土土器
図面54	K 5-2次調査	遺構外出土土器
図面55	K 5-2次調査	遺構外出土土器
図面56	K 5-2次調査	遺構外出土土器
図面57	K 5-2次調査	遺構外出土土器
図面58	K 5-2次調査	遺構外出土土器
図面59	K 5-2・5次調査	遺構外出土土器

## 図 版 目 次

- 図版1 K 2・K 5 遺跡調査
1. 調査地透景 (南から)
  2. 調査地透景 (北から)
- 図版2 K 2-35次調査
1. 調査地全景  
(ラジコンヘリコプターによる撮影)
  2. 作業風景 包含層掘削
  3. 作業風景 遺物実測
  4. 作業風景 写真測量
  5. 作業風景 先土器深掘り
- 図版3 K 2-35次調査
1. 101号住居跡完掘全景 (東から)
  2. 101号住居跡南北土層断面南側 (東から)
  3. 101号住居跡南北土層断面北側 (東から)
  4. 101号住居跡東西土層断面西側 (南から)
  5. 101号住居跡東西土層断面東側 (南から)
- 図版4 K 2-35次調査
1. 102号住居跡完掘全景 (東から)
  2. 102号住居跡南北土層断面南側 (東から)
  3. 102号住居跡南北土層断面北側 (東から)
  4. 102号住居跡東西土層断面西側 (南から)
  5. 102号住居跡東西土層断面東側 (南から)
- 図版5 K 2-35次調査
1. 103号住居跡完掘全景 (東から)
  2. 103号住居跡南北土層断面 (東から)
  3. 103号住居跡東西土層断面 (南から)
  4. 103号住居跡遺物出土状態 (南から)
- 図版6 K 2-35次調査
1. 130号土坑全景 (東から)
  2. 130号土坑東西土層断面 (南から)
  3. 131号土坑全景 (東から)
  4. 131号土坑東西土層断面 (南から)
  5. 132号土坑全景 (東から)
  6. 132号土坑南北土層断面 (東から)
  7. 133号土坑全景 (西から)
  8. 133号土坑南北土層断面 (西から)
- 図版7 K 2-35次調査
1. 134号土坑全景 (北から)
  2. 134号土坑東西土層断面 (北から)
  3. 135号土坑全景 (東から)
  4. 135号土坑南北土層断面 (東から)
  5. 136号土坑全景 (南から)
  6. 136号土坑東西土層断面 (南から)
  7. 137号土坑全景 (南から)
  8. 137号土坑東西土層断面 (南から)
- 図版8 K 2-35次調査
1. 138号土坑全景 (南から)
  2. 138号土坑東西土層断面 (南から)
  3. 20号集石土坑全景 (東から)
  4. 20号集石土坑完掘全景 (南から)
  5. 20号集石土坑東西土層断面 (南から)
  6. 21号集石土坑全景 (東から)
  7. 21号集石土坑完掘全景 (東から)
  8. 21号集石土坑南北土層断面 (東から)
- 図版9 K 2-39次調査
1. 調査地全景 (南から)
  2. 調査地南部 (北から)
- 図版10 K 2-39次調査
1. 深掘り土層断面全景 (北から)
  2. 作業風景 包含層掘削
  3. 作業風景 遺物実測
  4. 作業風景 先土器深掘り
  5. 作業風景 先土器深掘り
- 図版11 K 2-39次調査
1. 78号住居跡完掘全景 (南から)
  2. 79号住居跡完掘全景 (北から)
- 図版12 K 2-39次調査
1. 80号住居跡完掘全景 (南から)
  2. 80号住居跡炉跡全景 (南から)
  3. 80号住居跡遺物出土状態 (南から)
- 図版13 K 2-39次調査
1. 81号住居跡完掘全景 (南から)
  2. 81号住居跡炉跡全景 (東から)
  3. 81号住居跡埋燵炉土層断面 (東から)
  4. 81号住居跡埋燵炉完掘全景 (東から)
- 図版14 K 2-39次調査
1. 82号住居跡完掘全景 (北から)
  2. 82号住居跡土層断面 (北から)

3. 82号住居跡埋戻り土層断面 (東から)
  4. 82号住居跡埋戻り完掘全景 (北から)
  5. 82号住居跡遺物出土状態 (北から)
- 図版15 K 2-39次調査
1. 83号住居跡完掘全景 (北から)
  2. 83号住居跡土層断面 (北から)
  3. 83号住居跡が跡土層断面 (南から)
  4. 83号住居跡が跡完掘全景 (南から)
- 図版16 K 2-39次調査
1. 84号住居跡完掘全景 (北から)
  2. 84号住居跡が跡土層断面 (西から)
  3. 84号住居跡が跡土層断面 (南から)
  4. 84号住居跡が跡完掘全景 (東から)
- 図版17 K 2-39次調査
1. 64号土坑全景 (北から)
  2. 64号土坑土層断面 (北から)
  3. 65号土坑全景 (西から)
  4. 65号土坑土層断面 (東から)
  5. 67号土坑全景 (北から)
  6. 67号土坑土層断面 (北から)
  7. 68号土坑全景 (南から)
  8. 68号土坑土層断面 (南から)
- 図版18 K 2-39次調査
1. 69号土坑全景 (南から)
  2. 69号土坑土層断面 (南から)
  3. 66号土坑全景 (北から)
  4. 66号土坑全景 (東から)
  5. 66号土坑土層断面 (東から)
  6. 70号土坑全景 (西から)
  7. 70号土坑全景 (南から)
  8. 70号土坑土層断面 (南から)
- 図版19 K 2-39次調査
1. 61号土坑全景 (北から)
  2. 61号土坑土層断面 (北から)
  3. 62号土坑全景 (南から)
  4. 62号土坑東西土層断面 (北から)
  5. 62号土坑南北土層断面 (西から)
  6. 63号土坑全景 (南から)
  7. 71号土坑全景 (南から)
  8. 72号土坑全景 (北から)
- 図版20 K 2-39次調査
1. 72号土坑土層断面 (南から)
  2. 73号土坑全景 (北から)
  3. 74号土坑全景 (南から)
  4. 74号土坑土層断面 (南から)
  5. 75号土坑土層断面 (東から)

6. 76号土坑全景 (南から)
  7. 77号土坑全景 (南から)
  8. 77号土坑土層断面 (西から)
- 図版21 K 2-39次調査
1. 23号機集中部分全景 (東から)
  2. 23号機集中部分全景 (南から)
- 図版22 K 5-2次調査
1. 調査地近景 (北から)
  2. 調査地全景 (東から)
- 図版23 K 5-2次調査
1. 調査地全景 (西から)
  2. 発掘作業風景 (東から)
- 図版24 K 5-2次調査
1. 1号埋戻全景 (北から)
  2. 1号埋戻全景 (東から)
  3. 2号埋戻全景 (北から)
  4. 2号埋戻土層断面 (北から)
  5. 3号埋戻全景 (南から)
  6. 3号埋戻土層断面 (南から)
  7. 1号土坑全景 (南から)
  8. 1号土坑土層断面 (南から)
- 図版25 K 5-2次調査
1. 2号土坑全景 (南から)
  2. 2号土坑土層断面 (東から)
  3. 3号土坑全景 (南から)
  4. 4号土坑全景 (南から)
  5. 4号土坑土層断面 (南から)
  6. 5号土坑全景 (東から)
  7. 5号土坑土層断面 (南から)
  8. 6号土坑土層断面 (西から)
- 図版26 K 5-2次調査
1. 1号集石全景 (北から)
  2. 1号集石全景 (南から)
  3. 2号集石全景 (北から)
  4. 2号集石全景 (東から)
  5. 3号集石全景 (北から)
  6. 3号集石全景 (西から)
  7. 4号集石全景 (西から)
  8. 4号集石全景 (北から)
- 図版27 K 5-5次調査
1. 調査地全景  
〔ラジコンヘリコプターによる撮影〕
  2. 配水管部分全景 (東から)
- 図版28 K 2-35次調査
- 101・102・103号住居跡、20号集石土坑出土土器



- 図版29 K 2-35次調査  
21号集石土坑出土土器
- 図版30 K 2-35次調査  
21号集石土坑出土土器
- 図版31 K 2-35次調査  
21号集石土坑出土土器
- 図版32 K 2-35次調査  
21号集石土坑、ビット7、遺構外出土器
- 図版33 K 2-35次調査  
遺構外出土器
- 図版34 K 2-35次調査  
遺構外出土器
- 図版35 K 2-35次調査  
遺構外出土器、土製品
- 図版36 K 2-35次調査  
21号集石土坑出土土器
- 図版37 K 2-35次調査  
21号集石土坑出土土器
- 図版38 K 2-35次調査  
21号集石土坑出土土器
- 図版39 K 2-35次調査  
21号集石土坑、遺構外出土器
- 図版40 K 2-39次調査  
78・80・81号住居跡出土土器
- 図版41 K 2-39次調査  
82・83号住居跡出土土器
- 図版42 K 2-39次調査  
83・84号住居跡、62号土坑、23号礫集中部分、遺構外出土器
- 図版43 K 2-39次調査  
遺構外出土器、土製品、  
78・80・81号住居跡出土土器
- 図版44 K 2-39次調査  
81・82・83号住居跡出土土器
- 図版45 K 2-39次調査  
84号住居跡、23号礫集中部分、  
遺構外出土器
- 図版46 K 5-2次調査  
1・2・3号埋壙、3・4号土坑、  
1・3号集石、ビット25・26、遺構  
外出土器
- 図版47 K 5-2次調査  
遺構外出土器
- 図版48 K 5-2次調査  
遺構外出土器
- 図版49 K 5-2次調査  
遺構外出土器、土製品
- 図版50 K 5-2次調査  
1号埋壙、2・3号土坑、1号集石、  
遺構外出土器
- 図版51 K 5-2次調査  
遺構外出土器
- 図版52 K 5-2次調査  
遺構外出土器
- 図版53 K 5-2次調査  
遺構外出土器
- 図版54 K 5-2・5次調査  
遺構外出土器



## I 調査に至る経過

昭和57年7月12日、株式会社日立製作所中央研究所より研究所構内において研究棟建設に伴う埋蔵文化財の取扱について照会があった。

研究所構内は過去に発掘調査<sup>(註1)</sup>を実施しており、住居跡や敷石住居跡、遺物の散布地が見られているが所在は明らかでなかった。また西武国分寺線を挟んで西側の西窓ヶ窪1丁目地内において窓ヶ窪遺跡の発掘調査を実施しており、調査成果から集落の範囲が研究所構内にまで延びている可能性があることより、事前調査を実施する方向で協議を行い以下の内容で合意した。

- ①表土は試掘の際全て搬出する。試掘深度は現地表面より約50cmで行う。
- ②縄文時代については原則として遺構確認にとどめ遺構精査は行わない。
- ③縄文時代調査終了後、先土器時代の調査を行う。
- ④遺構・遺物が検出された場合は協議により本調査へ移行する。

試掘調査は昭和58年2月14日から同年3月31日まで行い、その結果、住居跡、土坑、ピットが多数確認されたため本調査に移行し同年9月6日までに終了した。尚、現地調査実施時点においては、当該地域は日立中央研究所構内遺跡として扱われていたが、整理作業段階において遺跡範囲の見直しが行われ検出された遺構が窓ヶ窪遺跡の範疇と考えられることにより、窓ヶ窪遺跡(K2)の第39次調査に再登録した。

プール更衣室建設は、昭和61年7月25日付国教文収第312号にて羽根沢遺跡に所在するプール部分の更衣室を建て替える発掘届が市教委文化財課に提出された。当遺跡は遺構の分布状況が明らかでないため、研究棟と同じく試掘調査を行う方向で協議を行った。試掘調査は昭和61年9月8日に開始し、その結果、土坑や集石跡が検出されたため本調査に移行し同年10月23日に終了した。尚、この調査は羽根沢遺跡(K5)第2次調査として登録される。

平成元年5月18日付国教文収第50号にて窓ヶ窪遺跡に研究棟の増設、羽根沢遺跡に食堂棟の建設を行う発掘届が市教委文化財課に提出された。これまで日立中央研究所構内において、発掘調査を実施している2地区より多数遺構が検出されていることから、建物建設に伴う掘削範囲について本調査を実施することで協議を行い、以下の内容で合意した。

- ①発掘調査範囲は建築工事により影響を受ける範囲全域を対象とする。
- ②発掘深度は縄文時代の遺構確認面であるローム層上面とする。
- ③先土器時代の調査については調査地内にグリットを設定し試掘を行い、遺物が検出されたら拡張し本調査を行う。
- ④調査に係る準備工事、仮設工事、土木工事等は届出人が行う。
- ⑤発掘作業における作業員は労務提供をうける。

本調査は平成2年5月21日より食堂棟に着手し、同年9月13日に終了した。研究棟は平成2

年6月25日に開始し、同年11月1日に終了した。尚、研究棟は窓ヶ窪遺跡（K2）第35次調査、食堂棟は羽根沢遺跡（K5）第5次調査として登録される。

（註1）

日立中央研究所構内において実施された調査・報告は、大正11年12月の三輪善之助による「武蔵国分寺村  
発見の土器」人類学雑誌と昭和23年4月の市川健二郎指導による「武蔵国分寺窓ヶ窪敷石遺跡発掘調査」学  
智院史学会報の2つで、昭和34年に奥田直栄・大谷勉により発掘調査が行われる。

### 国分寺市遺跡調査会組織

（平成4年2月現在）

会 長	星 野 亮 勝	国分寺市文化財保護審議会委員長
副 会 長	滝 口 宏	東京都文化財保護審議会会長
理 事	永 峯 光 一	東京都文化財保護審議会委員
〃	坂 詰 秀 一	〃
〃	大 川 清	国士館大学教授
〃	本 多 良 雄	国分寺市長
〃	内 野 孝 治	国分寺市教育委員会委員長
〃	高 橋 俊 司	国分寺市教育委員会教育長
〃	星 野 亮 雅	国分寺市社会教育委員会議長
〃	藤 岡 恭 助	国分寺市文化財保護審議会委員
〃	本 田 寅 太 郎	〃
〃	吉 田 格	〃
〃	松 井 新 一	元国分寺市文化財保護審議会委員
〃	仲 地 聰	東京都教育庁生涯学習部文化課副参事
〃	関 隆 成	国分寺市教育委員会社会教育部長
監 事	榎 戸 潔	国分寺市社会教育委員会副議長
〃	市 橋 三 郎	東京都教育庁生涯学習部文化課埋蔵文化財係長
— 事務局 —		
事 務 局 長	野 口 武 夫	国分寺市教育委員会文化財課長
事 務 局 員	宇 都 宮 精 一	国分寺市教育委員会文化財課庶務係長
〃	鈴 木 晃	国分寺市教育委員会文化財課庶務係員
〃	松 澤 修	国分寺市遺跡調査会

— 調査団 —

調査団長	滝口 宏	東京都文化財保護審議会会長
主任調査員	有吉 重蔵	国分寺市教育委員会文化財課文化財保護係長
調査員	福田 信夫	国分寺市教育委員会文化財課文化財保護係員
〃	上村 昌男	〃 〃
〃	上敷領 久	〃 〃
〃	滝島 和子	〃 嘱託遺跡調査員
〃	板倉 歎之	〃 〃

## II 調査地区の概観

### 1. 調査地区の位置・立地

本調査を実施した地点は、恋ヶ窪遺跡と羽根沢遺跡であり、各々の遺跡の立地について説明する。

恋ヶ窪遺跡は、西恋ヶ窪1丁目と東恋ヶ窪1丁目日立中央研究所構内の一部に所在し、野川の源泉を見下ろす武蔵野台地上に立地する縄文時代中期の集落跡である。野川流域には該期の大規模遺跡が数多く認められるが、本遺跡はその中でも代表的な遺跡といえよう。そしてこの遺跡は北側を除く三方向を野川の開析谷に囲まれた舌状台地南西端に広がっており、同台地の南東縁には羽根沢遺跡が立地している。また谷をはさんだ南側の台地には日影山遺跡・恋ヶ窪南遺跡・多喜窪遺跡等が立地する。恋ヶ窪遺跡の立地する台地は、標高約76m、東西600m、南北400mの広さをもつ。崖線下低地との比高差は12m前後を測る。台地を刻む谷は南から西側に延びる恋ヶ窪谷と東から北側に延びるさんや谷の二つ谷で、台地東南で合わり近くの湧水を集め野川として南流する。恋ヶ窪谷は、比較的幅広い谷でその傾斜は緩やかである。一方さんや谷は、台地東側では幅の狭い急傾斜の谷となっているが、台地北側に回ると急激に浅い谷となり武蔵野台地に連なる。崖線下には埋没・枯渇したものも含め10箇所前後の湧泉地点が確認され、水利に恵まれた、遺跡立地に優れている地形といえる。

羽根沢遺跡は、東恋ヶ窪1丁目日立中央研究所構内に所在する遺跡である。恋ヶ窪遺跡と同一台地に立地しており、本遺跡は、台地南東部に占地し、台地中央部に入り込んだ小支谷をはさんで恋ヶ窪遺跡と対峙する。比高差12m程の崖線下には多くの湧泉地点があり、遺跡立地の好条件をそなえている。遺跡東側で台地を区切るさんや谷をはさんだ対岸には恋ヶ窪東遺跡・花沢西遺跡が立地している。

### 2. 層序

調査地は、日立中央研究所構内で武蔵野段丘に位置する。基本層序は、各調査地区の深掘り土層断面を使用した。

- I a 層 盛土 K 5-2・5次調査地にて検出される。旧建物による擾乱の層である。
- I b 層 表土耕作土 暗褐色で乾燥するとバサバサして崩れる。下部は、II層の黒褐色土がまじる部分がある。
- II 層 黒褐色土 K 2-39次調査地にて検出される。粒子が粗くボソボソした感じで粘性がない。歴史時代遺構内の堆積土に類似する。

- III b 層 暗茶褐色土 下部に行くほど茶褐色が強くなる。縄文時代の遺物包含層でK 5-2次調査地では屋外埋壘が本層の中位より検出されている。
- III c 層 茶褐色土 ローム漸移層である。縄文時代の遺構は該層上面にて検出することができる。
- IV 層 黄褐色土 ソフトローム層。K 5-5次調査地においては、該層の上面まで盛土による攪乱をうける。
- V 層 黄褐色土 ハードローム層。下層にいくにしたがい黄味が薄くなり黒色味が強くなる。混入物や色調によりa・bの2層に分層が可能である。
- VI 層 黄暗黒褐色土 立川ローム層の第1黒色帯に該当する。黒色スコリア粒子が多く含まれる。
- VII 層 黄褐色土 バミスが多く含み、削るとジャリジャリする。始良、丹沢火山灰(A T層)に該当する層と考えられる。
- VIII 層 黄暗黒灰褐色土 立川ローム層の第2黒色帯の上部に該当する層である。
- IX a 層 黒暗黄褐色土 VIII層より黒色味が強く、部分的に暗灰褐色土のブロックが散らばっている層である。
- IX b 層 黒暗茶褐色土 立川ローム層の第2黒色帯の下部に該当する層で、黒色味がさらに強く粘質な土層である。
- X a 層 黄褐色土 粒子が非常に細かく、粘質な土層である。
- X b 層 黄褐色土 X a層にくらべやや暗く、スコリア粒子が含まれる土層である。
- XI 層 明黄褐色土 X層にくらべさらに緻密で堅さを増す。
- XII 層 黄褐色土 色調はXI層に類似しており、下部には黄褐色ブロックがまじる。本層を境にして下が武蔵野ローム層と思われる。

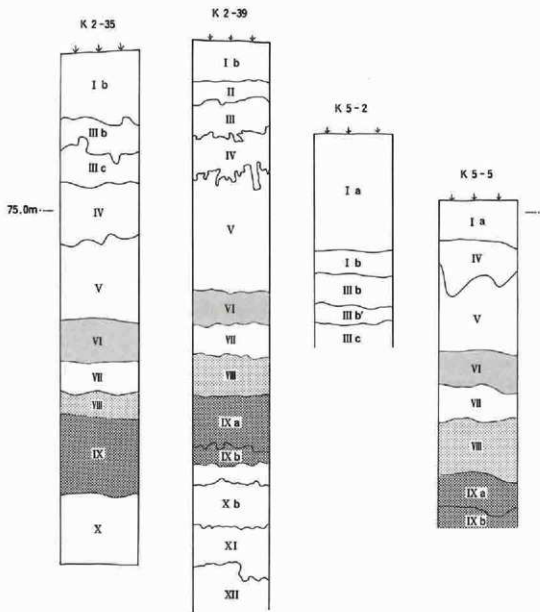
以上のような土層が各調査地で観察され、III層やIV層において縄文時代の遺構遺物が検出されている。傾向としては、K 2-39次調査地が一番高く、北と東へ傾斜して土層が堆積している様子である。



第1図 遺跡の位置

0 1000m





第2圖 基本層序

### Ⅲ 発掘経過

日立中央研究所構内における調査は、Ⅱ項で述べたように、縄文時代の遺構、遺物が存在することは明らかであったが、遺構の分布範囲や、遺物の包蔵量については不明であった。したがって、K2-39、K5-2次調査はまず試掘調査を行い、遺構遺物の量を明らかにしてから本調査を実施する方法がとられた。この2回の調査により本構内には多数の遺構や遺物が包蔵されていることがわかり、つぎに行ったK2-35とK5-5次調査は工事区域全体について最初より本調査を実施した。

以下、K2-39、K5-2、K2-35、K5-5次調査の概略を記すこととする。

#### K2-39次調査

試掘調査期間 昭和58年2月14日～同年3月31日 実働日数24日

試掘調査面積 1,077㎡

本調査期間 昭和58年4月1日～同年9月6日 実働日数78日

本調査面積 2,653.05㎡

試掘調査は、研究棟工事対象地域に格子状にトレンチを設定し調査を行う。遺構、遺物多数検出されたため、工事対象地域全体に拡張して本調査を行う。

#### K5-2次調査

試掘調査期間 昭和61年9月8日～同年9月中旬 実働日数6日

試掘調査面積 140㎡

本調査期間 昭和61年9月中旬～同年10月23日 実働日数18日

本調査面積 170.9㎡

試掘調査期間中に多数の遺構が確認されたために本調査に移行する。

#### K2-35、K5-5次調査

研究棟本調査期間 平成2年6月25日～同年11月1日 実働日数70日

本調査面積 1,678.03㎡

食堂棟本調査期間 平成2年5月21日～同年9月13日 実働日数38日

本調査面積 1,037.13㎡

平成2年5月中旬より6月中旬まで発掘調査に伴う重機掘削と既存建物の解体工事等の準備工事を行い、遺構確認作業も並行して実施した。本調査である遺構の調査は食堂棟5月21日、研究棟6月25日より開始した。調査にて検出される遺構の記録は写真測量を用いた。

各々調査地区の進行状況については次表にまとめてあるので参照されたい。





## IV 調査地の概要

### 1. K2-35次調査

研究棟建設予定地1,678.03㎡の本調査を実施した結果、住居跡3軒、築石土坑2基(内1基は近年に掘られた遺物留めである)、土坑9基、ピット61個が検出された。

#### (1) 検出遺構

##### 101号住居跡(図面3 図版3)

〈位置〉調査地の中央でやや東側に位置し、南に102号住居跡がある。〈形状〉長径6.08m、短径5.22mの楕円形を呈する。遺構確認面からの掘り込みは20~30cmでローム層を床面としている。壁の状況はゆるやかに立ち上り、周溝は廻っていない。〈覆土〉暗茶褐色土が主体に堆積しており、下位に行くほどスコリア粒子の混入が多くなる。〈炉〉なし〈埋壘〉なし〈柱穴〉住居跡の中央より西側に径0.6m、深さ16cmのピットが1個確認されている。〈出土遺物〉覆土中より勝坂式期Ⅱ・Ⅲ、阿玉台の土器破片が出土している。〈時期〉出土遺物が少なく時期決定が難しいが、勝坂式期の住居跡と思われる。

##### 102号住居跡(図面4 図版4)

〈位置〉調査地の中央よりやや南側にて検出され、すぐ北に101号住居跡があり、周辺には、132・134号土坑がある。〈形状〉長径4.9m短径4.28mの楕円形を呈する。遺構確認面からの掘り込みは20cmで、明確な床面は認められない。壁の状況はややゆるやかに立ちあがり、周溝は廻っていない。〈覆土〉ローム粒子、スコリア粒子が少量含まれる暗茶褐色土が堆積する。〈炉〉なし〈埋壘〉なし〈柱穴〉住居跡の南東部分に径0.4~0.9mで深さが10~20cm前後の浅いピットが5個確認されている。ピット内の土層は、ロームブロックを多く含む暗茶褐色土が充填される。〈出土遺物〉住居跡覆土中より勝坂式期Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、阿玉台の土器片が出土している。〈時期〉出土遺物が少ないため時期決定が難しいが、勝坂式期に該当する遺構と考えられる。

##### 103住居跡(図面4 図版5)

〈位置〉調査地の北側中央にて検出される。〈形状〉長径3.86m、短径3.26mの楕円形を呈する。遺構確認面からの掘り込みは20cmで、明確な床面は認められない。壁の状況はゆるやかに立ち上り、壁下には周溝の掘り込みは認められなかった。〈覆土〉暗茶褐色土でローム粒子・スコリア粒子が少量まじる土が堆積する。〈炉〉なし〈埋壘〉なし〈柱穴〉径0.6~0.8mで深さ20cm前後のピットが3個と、径0.2mで深さ20cmのピットが2個検出されている。ピット内の土層

は住居跡の覆土と同じ暗茶褐色土が充填される。〈出土遺物〉実測可能なものは阿玉台の1点で他は小破片である。〈時期〉出土遺物が少ないため時期不詳である。

#### 130号土坑 (図面5 図版6)

〈位置〉調査地の東側の中央に位置する。〈形状〉長径2.54m、短径2.0mで不整形を呈する。ローム面からの掘り込みは40~45cmで断面形は盤状である。覆土は暗茶褐色土が充填される。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 131号土坑 (図面5 図版6)

〈位置〉調査地東側中央に位置し、西側に101号住居跡がある。〈形状〉長径1.93m、短径1.75mの円形を呈する。ローム面からの掘り込みは26~39cmで断面形は盤状である。覆土は暗茶褐色土でロームブロック・スコリア粒子がまじる。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 132号土坑 (図面5 図版6)

〈位置〉調査地の中央南側に位置し、102号住居跡と21号集石の間にある。〈形状〉長径1.6m、短径1.27mで不整形を呈する。ローム面からの掘り込みは15cm、断面は不定形で底面は凸凹である。覆土はローム粒子・ロームブロックを多く含む暗茶褐色土が堆積する。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 133号土坑 (図面5 図版6)

〈位置〉調査地の中央に位置する。〈形状〉長径1.58m、短径1.28mで楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは28cmで断面形は盤状である。覆土はやや黒味が強い暗茶褐色土が堆積する。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 134号土坑 (図面5 図版7)

〈位置〉調査地中央で東側に101・102号住居跡がある。〈形状〉長径2.52m、短径1.38mで不整形楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは20cmで断面形は皿状である。覆土は暗茶褐色土に黒色の土がまじって堆積している。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 135号土坑 (図面6 図版7)

〈位置〉調査地北東隅に位置し、すぐ南に136号土坑がある。〈形状〉長径2.0m、短径1.1mで楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは10cmで非常に浅く、断面形は皿状である。覆土は暗茶褐色土が堆積する。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 136号土坑 (図面6 図版7)

〈位置〉調査地北東隅に位置し、隣に135号土坑がある。〈形状〉長径1.3m、短径0.88mで楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは20cmで断面形は盤状である。覆土は暗茶褐色土が堆積する。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 137号土坑 (図面6 図版7)

〈位置〉調査地北側中央に位置する。〈形状〉長径2.06m、短径1.76mで楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは20cmで断面形は皿状である。覆土は暗茶褐色土が充填される。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 138号土坑 (図面6 図版8)

〈位置〉調査地の北西に位置する。〈形状〉長径1.6m、短径1.22mで楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは14cmで非常に浅い皿状である。覆土は暗茶褐色土が堆積する。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 20号集石土坑 (図面7 図版8)

〈位置〉調査地中央の東側に位置する。〈形状〉長径0.96m、短径0.65m、厚さ14cmの範囲に礫の集中が認められる。集石下には土坑を持ち、その規模は長径1.19m、短径0.88mで深さは20cmの不整形を呈する。〈礫の状態〉石質は砂岩が主体で大半が被熱され、灰白色が赤茶褐色に変色している。また少量ではあるが土器片も含まれる。〈時期〉集石内より(図面26-25~28)の土器片が出土しており、これらは阿玉台期に属する。

#### 21号集石土坑 (図面7 図版8)

〈位置〉調査地の南側中央にて検出される。〈形状〉土器、石器、礫が長径1.92m、短径1.58m、深さ70cmの範囲に集中して認められる。土坑は長径2.24m、短径1.84m、深さ180cmと深い。〈遺物の状態〉土坑内の上層に集中して遺物が検出された。土坑内の覆土は暗褐色土で表土層である。〈時期〉本遺構は縄文時代の遺構ではなく、近年に畑作業や土木工事にて採集された遺物を廃棄するための穴であると考えられる。出土している遺物の時期は、勝坂式期から加曾利E式期で、これらの遺物は、中央研究所内の窓ヶ窪遺跡の集落を形成している他の遺構の遺物と考えられる。

#### ピット (図面1 図版2)

〈位置〉調査地内においてピットは61個が検出され、これらは北側に集中している傾向がある。〈形状〉径0.3～0.8mで深さ30～70cmの円形または楕円形を呈し、覆土は暗茶褐色土が主体で堆積している。〈時期〉ピット7より(図面30-5)の前期諸磯Cの破片が出土しているが、他からは出土していない。おそらく中期の所産であろう。

### 遺構外遺物(図面2)

ここで取り上げた遺物は、遺物包含層中より検出された遺物である。分布状態は調査地全体に均一に出土している傾向である。土器類は勝坂式期が主体で、加曾利E式期が非常に少ない。石器類は非常に少なく僅かに石鎌と石弁が検出されたのみで、大半が焼跡である。

### (2) 出土遺物

遺物は、3軒検出された住居跡と、集石土坑、遺構外の遺物包含層より出土している。図示が可能なものを一覧表にて記述した。出土した総量はコンテナ66箱である。

第2表 K2-35土器一覧表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
26-1 図版28	深鉢	101住	( 8.1 )	胴部の破片でキャリバー形を呈する。	文様は重三角文で区画され、隆帯に沿って2列の連続爪形文・キョクピラ文が施される。	勝坂II
26-2 図版28	深鉢	101住	( 3.2 )	口縁部の破片。	口縁部に隆帯をはりつけ、キョクピラ文が施される。	勝坂II
26-3 図版28	深鉢	101住	( 3.0 )	胴部の破片。	隆帯をはりつけた後、隆帯に沿ってキョクピラ文と爪形文を施す。	勝坂II
26-4 図版28	深鉢	101住	( 2.7 )	胴部の破片。	半截竹管による押引きが施される。	勝坂II
26-5 図版28	深鉢	101住	( 4.0 )	胴部の破片。	波状沈線に沿って竹管文による押引きと、RLの縄文が施される。	勝坂II
26-6 図版28	深鉢	101住	( 4.0 )	胴部の破片。	隆帯に沿って一部浅い爪形文が施される。	勝坂
26-7 図版28	深鉢	101住	( 4.6 )	口縁部の破片。	沈線文の区画の中に縦方向の条線文が施される。	勝坂III
26-8 図版28	深鉢	101住	( 5.6 )	頸部の破片。	隆帯の上に竹管による押引きを施す。	勝坂III
26-9 図版28	深鉢	101住	( 4.7 )	胴部の破片。	横方向の爪形文を施す。	阿玉台
26-10 図版28	深鉢	101住	( 3.0 )	胴部の破片。	隆帯に沿って沈線を施し、隆帯の上に刺突を施す。	勝坂III



第3表 K2-35土器一覧表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
26-11 図版28	深鉢	101住	( 2.8 )	胴部の破片。	隆帯と条線文が施される。	勝坂II
26-12 図版28	深鉢	101住	( 3.6 )	胴部の破片。	横方向の爪形文を施す。	阿玉台
26-13 図版28	深鉢	101住	( 3.8 ) (12.6)	底部の破片で平底を呈する。		勝坂
26-14 図版28	深鉢	102住	( 4.6 )	口縁部の破片。	隆帯による重三角文で区画され、区画内に竹管による押し引きとヘラによるキザミ・刺突を施す。	勝坂I
26-15 図版28	深鉢	102住	( 4.3 )	胴部の破片。	隆帯に沿ってキャタビラ文が施される。	勝坂II
26-16 図版28	深鉢	102住	( 4.0 )	口縁部の破片。	口縁部下端に波状の沈線が施される。	勝坂III
26-17 図版28	深鉢	102住	( 3.5 )	胴部の破片。	隆帯の上と区画内に条線文が施される。	勝坂III
26-18 図版28	深鉢	102住	( 3.0 )	胴部の破片。	隆帯に沿ってヘラによる押し引きが施される。	勝坂II
26-19 図版28	深鉢	102住	( 2.7 )	胴部の破片。	沈線による区画内に竹管による押し引きが施される。	勝坂III
26-20 図版28	深鉢	102住	( 2.3 )	胴部の破片。	隆帯に沿って沈線がめぐり、条線文が施される。	勝坂III
26-21 図版28	深鉢	102住	( 5.1 )	口縁把手部分の破片。	把手部分に爪形文を施す。	勝坂III
26-22 図版28	深鉢	102住	( 5.6 )	波状口縁の破片。	把手部分の隆帯上に棒状工具による押し込みが施され、隆帯に沿って有節線文がめぐる。	阿玉台
26-23 図版28	深鉢	102住	( 2.4 ) (10.2)	底部の破片。		阿玉台
26-24 図版28	深鉢	103住	( 3.5 )	胴部の破片。	隆帯と沈線の区画を行い、隆帯の上に一部分ヘラによる押し込みを施す。	阿玉台 出土より
26-25 図版28	深鉢	20集	(35.2) ( 8.8 )	4つの大波状口縁で胴部は円筒状になると考えられる。	4単位の把手隆帯上に棒状工具による刺突・押し込みが施され、2条の有節線文がめぐる。	阿玉台
26-26 図版28	深鉢	20集	(23.8) (15.2)	平縁の口縁と頸部の破片。	口縁部中央と頸部の境に横方向の爪形文が施される。	阿玉台
26-27 図版28	深鉢	20集	( 7.2 )	頸部と胴部の破片。	隆帯による横円区画に横方向の爪形文を施す。	阿玉台

第4表 K2-35土器一覽表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
26-28 図版28	深鉢	20集	— ( 5.8 )	口縁把手部分の破片。	2本の隆帯に棒状工具の押圧があり、刺突と2条の押引きが施され、爪形文がめぐる。	阿玉台
27-1 図版29	深鉢	21集	(29.6) ( 6.0 )	口縁部の破片。	隆帯による重三角文で区画され、隆帯に沿って竹管による押引きがなされ、波状の沈線文が配されている。	勝坂II
27-2 図版29	深鉢	21集	(29.0) (12.4)	口縁部と頸部の破片。	口縁部・頸部に2条の沈線がめぐり、その間に3条の弧線文と1条の波状文が施される。地文は棒状工具による条線である。	加EIV
27-3 図版29	深鉢	21集	— (17.6)	口縁部・頸部・胴部の破片。	沈線による3条の弧線文が施される。地文はLの捺糸文である。	加EIV
27-4 図版29	深鉢	21集	— ( 6.1 )	胴部の破片。	隆帯による重三角区画文と楕円区画内にキャタピラ文と角押文を施す。	勝坂I
27-5 図版29	深鉢	21集	— ( 7.1 )	頸部の破片でキャタピラ形を呈する。	隆帯による楕円区画内にキャタピラ文・角押文と円形・半截竹管の刺突文が施される。	勝坂II
27-6 図版29	深鉢	21集	— ( 9.2 )	口縁部・頸部の破片でラッパ状に開く口縁である。	頸部に隆帯がめぐりその上にヘラ状工具によるキザミが入る。	勝坂II
27-7 図版29	深鉢	21集	— ( 9.7 )	口縁部の破片。	隆帯に沿って沈線が施される。	勝坂III
27-8 図版29	深鉢	21集	— ( 6.2 )	口縁部の破片。	隆帯に沿って沈線がめぐり隆帯の上に竹管による押引き、隆帯間には条線が施される。地文はRLrの多条の縄文である。	勝坂III
27-9 図版29	深鉢	21集	— ( 4.8 )	口縁部の破片。	隆帯と棒状工具による沈線の間にLの捺糸文が施される。	勝坂III
27-10 図版29	深鉢	21集	— ( 4.7 )	口縁部の破片。	沈線の区画の中にヘラ状工具による押引きが施される。	勝坂III
27-11 図版29	深鉢	21集	— ( 4.7 )	口縁部の破片。	隆帯に沿って沈線がめぐり、その上をヘラ状工具による押圧を行う。	勝坂III
27-12 図版29	深鉢	21集	— ( 6.8 )	口縁把手部分の破片。	隆帯により把手を作出し、一部分棒状工具により押圧を行う。	勝坂III
27-13 図版29	深鉢	21集	— ( 6.3 )	口縁部の破片。	隆帯と沈線により口縁部を作出する。	加E I
27-14 図版29	深鉢	21集	— ( 5.9 )	胴部の破片。	隆帯の上に沈線を施す。	阿玉台

第5表 K2-35土器一覽表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
27-15 図版29	深鉢	21集	( 5.1 )	頸部の破片。	隆帯に沈線または押圧が行われ、へら状工具によるY字状のキザミを施す。	勝坂Ⅲ
27-16 図版29	深鉢	21集	( 5.7 )	胴部の破片。	平行する2本の隆帯の上にへら状工具による押圧が施される。	勝坂Ⅲ
27-17 図版29	深鉢	21集	( 4.8 )	口縁部の破片。	2条の沈線による区画内に条線と円形竹管文が施される。	勝坂Ⅲ
28-1 図版30	深鉢	21集	(10.3)	胴部の破片。	隆帯と沈線による区画が行われ、隆帯の上に棒状工具によりキザミが入る。	勝坂Ⅲ
28-2 図版30	深鉢	21集	( 6.2 )	胴部の破片。	隆帯による区画がおこなわれ、隆帯の上にへら状工具による押圧が施される。	勝坂Ⅲ
28-3 図版30	深鉢	21集	( 6.6 )	波状口縁の把手部分。	隆帯による区画の中に2条の竹管による押印が施される。	阿玉台
28-4 図版30	深鉢	21集	( 5.8 )	口縁部の破片。	隆帯による区画の中にLRの縄文が施される。	加EⅡ
28-5 図版30	深鉢	21集	( 5.6 )	口縁部の破片。	2条の沈線をめぐらし中に波状沈線とRLの縄文が施される。	加EⅢ
28-6 図版30	深鉢	21集	( 6.7 )	口縁部の破片。	隆帯による過巻文を施す。	加EⅡ
28-7 図版30	深鉢	21集	( 8.0 )	口縁部・頸部の破片。	隆帯による区画の中にLRの縄文を施す。	加EⅢ
28-8 図版30	深鉢	21集	( 5.5 )	口縁部の破片。	隆帯による区画内にLの燃糸文を施す。	加EⅡ
28-9 図版30	深鉢	21集	( 5.0 )	口縁部の破片。	隆帯による区画内にLの燃糸文を施す。	加EⅡ
28-10 図版30	深鉢	21集	( 4.5 )	口縁部の破片。	隆帯による過巻文とLの燃糸文が施される。	加EⅡ
28-11 図版30	深鉢	21集	( 5.5 )	胴部の破片。	隆帯とRの燃糸文を施す。	加EⅣ
28-12 図版30	深鉢	21集	( 7.0 )	口縁部の破片。	沈線による区画の中にLの燃糸文が施される。	加EⅢ
28-13 図版30	深鉢	21集	( 7.6 )	胴部下端部分の破片。	2条の沈線が垂下し条線が施される。	加EⅣ
28-14 図版30	深鉢	21集	( 5.5 )	胴部の破片。	2本の隆帯による槽内区画内に条線が施される。	加EⅣ
28-15 図版30	深鉢	21集	( 5.7 )	胴部の破片。	2本単位の沈線による懸垂文・蛇行懸垂文とLRの縄文を施す。	加EⅢ
28-16 図版30	深鉢	21集	( 5.1 )	頸部下端の破片。	竹管による2・3条の平行沈線が垂下し、LRの縄文が施される。	加EⅢ

第6表 K2-35土器一覽表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
28-17 図版30	深鉢	21集	( 4.5 )	胴部の破片。	沈線による3本単位の懸垂文・1本の蛇行懸垂文とLRの縄文が施される。	加EIII
28-18 図版30	深鉢	21集	( 3.6 )	胴部上端の破片。	沈線とLRの縄文が施される。	加EIII
29-1 図版31	深鉢	21集	( 6.0 )	口縁部の破片。	3条の沈線による弧線文と条線文が施される。	加EIV
29-2 図版31	深鉢	21集	( 6.3 )	口縁部の破片。	3条の沈線による弧線文と条線文が施される。	加EIV
29-3 図版31	深鉢	21集	( 6.9 )	胴部の破片。	3条の沈線による弧線文に蛇行沈線が交差し条線文が施される。	加EIV
29-4 図版31	深鉢	21集	( 6.7 )	口縁部の破片。	沈線による区画内に条線文が施される。	加EIV
29-5 図版31	深鉢	21集	( 5.7 )	口縁部から頸部の破片。	3条の沈線による弧線文に条線文が施される。	加EIV
29-6 図版31	深鉢	21集	(10.2)	口縁部の破片。	口縁部上面に沈線が入り隆帯による区画内に条線が施される。	加EV
29-7 図版31	深鉢	21集	( 7.5 )	口縁部の破片。	隆帯による楕円形の区画内にLRの縄文が施される。	加EV
29-8 図版31	深鉢	21集	( 7.7 )	口縁部の破片。	口縁部に沈線がめぐり柵状工具による条線が施される。	加EVI
29-9 図版31	深鉢	21集	( 7.0 )	口縁部の破片。	口縁部に沈線がめぐりLRの縄文が施される。	加EVI
29-10 図版31	深鉢	21集	(10.6)	胴部の破片。	LRの縄文に2本単位の懸垂文が施される。	加EV
29-11 図版31	深鉢	21集	(11.0)	胴部中位の破片。	LRの縄文に2本単位の懸垂文と1本単位の蛇行懸垂文が施される。	加EIV
29-12 図版31	深鉢	21集	( 5.7 )	口縁部の破片。	隆帯による渦巻文と楕円区画の中にRLの縄文が施される。	加EV
29-13 図版31	深鉢	21集	( 6.4 )	胴部の破片。	LRの縄文を地文とし、沈線による区画内を磨消す。	加EV
29-14 図版31	深鉢	21集	( 5.5 )	胴部上端の破片。	沈線による蛇行懸垂文に条線が施される。	加EV
29-15 図版31	深鉢	21集	( 7.4 )	口縁部の破片。	波状条線と平行条線がめぐり粘土紐の貼付が施される。	曾利
29-16 図版31	深鉢	21集	( 3.6 )	頸部の破片。	2本の沈線をめぐらし波状の粘土紐の貼付が施される。	曾利
30-1 図版32	深鉢	21集	( 6.0 )	胴部の破片。	隆帯による区画とLの燃糸文が施される。	曾利
30-2 図版32	深鉢	21集	( 5.4 )	胴部の破片。	粘土紐が波状に貼付され条線が施される。	曾利

第7表 K2-35土器一覽表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
30-3 図版32	深鉢	21集	( 5.0 )	胴部の破片。	波状に貼付した粘土紐が垂下し条線が施される。	曾利
30-4 図版32	深鉢	21集	( 4.6 )	口縁部の破片。	平行条線がめぐり波状に貼付した粘土紐が施される。	曾利
30-5 図版32	深鉢	ピット7	( 2.7 )	口縁部下端の破片。	平行沈線に突起状とボタン状の貼付文が施される。	諸磯C
30-6 図版32	深鉢	遺構外	(18.4) (16.6)	口縁部・胴部の破片でキャリバー型を呈する。	LRの縄文に沈線による渦巻文と2本の懸垂文と1本の蛇行沈線が施される。	加EⅢ
30-7 図版32	深鉢	遺構外	15.2 16.0 6.8	ほぼ完形品でキャリバー型を呈し胴部上端に突起がある。	頸部に3〜4本の沈線がめぐり胴部には条線が施される。	曾利
30-8 図版32	浅鉢	遺構外	(30.0) ( 6.2 )	口縁から胴部の破片で「く」の字状に内彎する。	棒状工具による押し引きにより2条の角押文が施される。	勝坂I
30-9 図版32	深鉢	遺構外	( 4.0 )	口縁部の破片。	隆帯と沈線による区画にベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
30-10 図版32	深鉢	遺構外	( 4.2 )	口縁部の破片。	粘土紐の貼付による波状文・渦巻文に沿ってベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
30-11 図版32	浅鉢	遺構外	( 8.1 )	口縁から胴部の破片で「く」の字状に内彎し口縁部は外反する。	口縁部の上に棒状工具の押圧が施され、その下に押し引きによる角押文がめぐる。	勝坂I
30-12 図版32	深鉢	遺構外	( 6.8 )	口縁部の破片。	隆帯の重三角区画文に沿ってベン先状・棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
30-13 図版32	浅鉢	遺構外	( 4.9 )	口縁部の破片。	隆帯による口縁部に棒状工具による押圧と押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
30-14 図版32	深鉢	遺構外	( 6.5 )	口縁部の破片。	隆帯による楕円区画文にベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
30-15 図版32	深鉢	遺構外	( 4.8 )	口縁部の破片。	粘土紐の貼付による把手に沿って2条の棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
30-16 図版32	深鉢	遺構外	( 5.2 )	口縁部の破片。	隆帯の重三角区画文に沿ってベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I

第8表 K2-35土器一覽表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
30-17 図版32	深鉢	遺構外	( 4.6 )	口縁部の破片。	竹管の押しきによる角押文・波状文が施される。	勝坂II
30-18 図版32	浅鉢	遺構外	( 4.3 )	口縁部の破片。	隆帯による区画内に棒状工具の押圧とペン先状工具の押しきによる角押文が施される。	勝坂I
30-19 図版32	深鉢	遺構外	( 2.7 )	口縁部の破片。	隆帯による重三角区画文に沿って棒状工具の押しきによる角押文が施される。	勝坂I
30-20 図版32	深鉢	遺構外	( 6.5 )	口縁部の破片。	隆帯による区画内にペン先状工具の押しきによる角押文と波状文が施される。	勝坂I
30-21 図版32	深鉢	遺構外	( 5.7 )	口縁部の破片。	波状の沈線にペン先状工具の押しきによる角押文を施す。	阿玉台
30-22 図版32	深鉢	遺構外	( 5.3 )	胴部の破片。	棒状工具の押しきによる角押文が施される。	勝坂I
30-23 図版32	深鉢	遺構外	( 4.1 )	胴部の破片。	隆帯による区画内にヘラ状工具の押しきによる角押文と条線が施される。	勝坂I
30-24 図版32	深鉢	遺構外	( 3.8 )	口縁部の破片。	粘土紐による把手を貼付し隆帯による区画内にペン先状工具の押しきによる角押文が施される。	勝坂I
30-25 図版32	深鉢	遺構外	( 3.8 )	胴部の破片。	ペン先状工具の押しきによる角押文と波状文にLRの縄文が施される。	勝坂I
30-26 図版32	深鉢	遺構外	( 3.0 )	胴部の破片。	隆帯に沿ってペン先状工具の押しきによる角押文が施される。	勝坂I
31-1 図版33	深鉢	遺構外	( 5.6 )	口縁部の破片。	竹管の押しきによる角押文が施される。	勝坂II
31-2 図版33	深鉢	遺構外	( 5.3 )	口縁部の破片。	隆帯による区画内に角押文が施される。	勝坂II
31-3 図版33	浅鉢	遺構外	( 3.8 )	口縁部の破片。	棒状工具の押しきによる角押文が施される。	勝坂I
31-4 図版33	浅鉢	遺構外	( 3.1 )	口縁部の破片。	棒状工具による押圧と押しきによる角押文が施される。	勝坂I
31-5 図版33	深鉢	遺構外	(10.1)	口縁部の破片。	隆帯による区画内に竹管の押しきによる角押文が施される。	阿玉台
31-6 図版33	深鉢	遺構外	( 5.5 )	口縁部の破片。	隆帯による区画内に半截竹管の押しきによる角押文と棒状工具の刺突が施される。	勝坂I
31-7 図版33	深鉢	遺構外	( 4.5 )	口縁部の破片。	隆帯による楕円区画内にペン先状工具の押しきによる角押文が2条施される。	阿玉台

第9表 K2-35土器一覽表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
31-8 図版33	深鉢	遺構外	(12.7)	胴部の破片。	隆帯による区画内に竹管とペン先状工具の押しきによる角押文が施される。	勝坂II
31-9 図版33	深鉢	遺構外	(4.2)	胴部の破片。	隆帯による区画内に角押文と波状沈線が施される。	勝坂II
31-10 図版33	深鉢	遺構外	(3.1)	胴部の破片。	竹管による沈線に刺突文と条線が施される。	勝坂II
31-11 図版33	深鉢	遺構外	(2.4)	胴部の破片。	竹管による沈線の区画内に条線と波状沈線が施される。	勝坂II
31-12 図版33	深鉢	遺構外	(6.3)	胴部の破片。	隆帯による楕円区画内に竹管の押しきによる角押文が施される。	勝坂II
31-13 図版33	深鉢	遺構外	(5.1)	胴部の破片。	隆帯による区画内に竹管の押しきによる角押文と波状沈線が施される。	勝坂II
31-14 図版33	深鉢	遺構外	(5.0)	胴部の破片。	隆帯に沿って棒状・ヘラ状工具の押しきによる角押文が施される。	勝坂II
31-15 図版33	深鉢	遺構外	(6.6)	胴部の破片。	隆帯に沿って棒状・ペン先状工具の押しきによる角押文が施される。	勝坂II
31-16 図版33	深鉢	遺構外	(5.2)	胴部の破片。	隆帯による区画内に竹管による沈線と刺突がおこなわれる。	勝坂II
31-17 図版33	深鉢	遺構外	(3.9)	胴部の破片。	隆帯による区画内に角押文が施される。	勝坂II
31-18 図版33	深鉢	遺構外	(3.3)	胴部の破片。	ヘラ状工具の押しきを楕円におこない周囲を波状沈線がめぐる。	勝坂II
31-19 図版33	深鉢	遺構外	(6.4)	把手部分の破片。	隆帯により渦巻文を施し、ヘラ状工具による刺突文・ペン先状工具の押しきによる角押文がめぐる。	勝坂III
31-20 図版33	深鉢	遺構外	(5.7)	把手部分の破片。		阿玉台
31-21 図版33	深鉢	遺構外	(6.8)	口縁部の破片。	口縁部下に沈線とRLの縄文が施される。	勝坂III
31-22 図版33	深鉢	遺構外	(4.1)	口縁部の破片。	隆帯による区画内にLの燃糸文が施される。	勝坂III
31-23 図版33	深鉢	遺構外	(5.2)	口縁部の破片。	棒状工具の押しきによる角押文と波状文が施される。	勝坂III
31-24 図版33	深鉢	遺構外	(5.0)	把手部分の破片。	隆帯と沈線を施す。	勝坂III
31-25 図版33	深鉢	遺構外	(3.7)	把手部分の破片。	竹管による沈線と刺突が施される。	勝坂III
31-26 図版33	浅鉢	遺構外	(3.7)	口縁部の破片。	棒状工具の押しと押しきによる角押文が施される。	勝坂III

第10表 K 2-35土器一覽表

図 面 図 版	種 別 器 形	出 土 位 置	口 径 器 高 底 径 cm	器形の特徴・部位	文 様 構 成	備 考
31-27 図版33	深鉢	遺構外	( 2.6 )	口縁部の破片。	竹管による沈線に刺突が施される。	勝坂Ⅲ
32-1 図版34	深鉢	遺構外	(10.1)	把手部分の破片。	棒状工具による刻目と糸線が施される。	勝坂Ⅲ
32-2 図版34	深鉢	遺構外	( 4.1 )	把手部分の破片。	隆帯による渦巻文にヘラ状工具による刻目が施される。	勝坂Ⅲ
32-3 図版34	深鉢	遺構外	( 3.4 )	口縁部の破片。	棒状工具の押し引きによる角押文とペン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂Ⅲ
32-4 図版34	小壺	遺構外	( 2.7 )	胴部の破片。	半截竹管による刺突文とヘラ状工具による押し引きが施される。	勝坂Ⅰ
32-5 図版34	深鉢	遺構外	( 5.2 )	把手部分の破片。	竹管による刺突を施す。	勝坂Ⅱ
32-6 図版34	深鉢	遺構外	( 5.3 )	胴部の破片。	竹管による平行・波状沈線としの墨糸文が施される。	勝坂Ⅲ
32-7 図版34	深鉢	遺構外	( 5.7 )	胴部の破片。	隆帯の区画に沿って沈線がめぐり竹管による刺突と波状沈線が施される。	勝坂Ⅱ
32-8 図版34	深鉢	遺構外	( 4.9 )	胴部の破片。	沈線による渦巻文を施す。	勝坂Ⅱ
32-9 図版34	深鉢	遺構外	( 4.4 )	胴部の破片。	隆帯の上に刺突が行われRLの縄文が施される。	勝坂Ⅱ
32-10 図版34	深鉢	遺構外	( 3.6 )	胴部の破片。	沈線による横門区画内に糸線を施す。	勝坂Ⅱ
32-11 図版34	深鉢	遺構外	( 3.0 )	胴部の破片。	竹管による押し引きと沈線が施される。	勝坂Ⅱ
32-12 図版34	深鉢	遺構外	( 2.7 )	胴部の破片。	竹管による沈線と棒状工具の刺突文が施される。	勝坂Ⅱ
32-13 図版34	深鉢	遺構外	( 7.8 )	口縁部の破片。	隆帯の区画に沿って棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	阿玉台
32-14 図版34	深鉢	遺構外	( 3.1 )	口縁部の破片で平縁を呈する。	口縁部下に有筋線文が施される。	阿玉台
32-15 図版34	深鉢	遺構外	( 3.3 )	口縁部の破片で平縁を呈する。	口縁部下に半截竹管による刺突文が施される。	阿玉台
32-16 図版34	深鉢	遺構外	( 4.0 )	口縁部の破片。	口縁部隆帯に沿って2条の有筋線文が施される。	阿玉台
32-17 図版34	深鉢	遺構外	( 3.8 )	口縁部の破片。	隆帯に沿って棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	阿玉台
32-18 図版34	深鉢	遺構外	( 5.1 )	口縁部の破片。	棒状工具による刺突文が施される。	阿玉台



第11表 K2-35土器一覧表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
32-19 図版34	深鉢	遺構外	( 5.5 )	口縁部の破片。	隆帯による区画内に半截竹管による押引きと円形竹管による刺突文が施される。	阿玉台
32-20 図版34	深鉢	遺構外	( 5.3 )	口縁部の破片。	隆帯による区画に棒状工具による押圧と押引きによる角押文が施される。	阿玉台
32-21 図版34	深鉢	遺構外	( 5.5 )	胴部の破片。	隆帯による楕円区画の中に竹管による刺突文と波状沈線が施される。	勝坂II
32-22 図版34	深鉢	遺構外	(10.2)	胴部の破片。	棒状工具による刺突文が施される。	阿玉台
32-23 図版34	深鉢	遺構外	( 6.0 )	胴部の破片。	隆帯と沈線による区画が行われ棒状工具による刺突文が施される。	阿玉台
32-24 図版34	深鉢	遺構外	( 6.2 )	胴部の破片。	隆帯に沿って波状沈線が3本施される。	阿玉台
32-25 図版34	深鉢	遺構外	( 4.2 )	胴部の破片。	隆帯に沿って棒状工具の押引きによる角押文が施される。	阿玉台
33-1 図版35	深鉢	遺構外	( 4.2 )	胴部の破片。	波状沈線を施す。	阿玉台
33-2 図版35	深鉢	遺構外	( 3.9 )	口縁部の破片。	隆帯による渦巻文とRLの縄文が施される。	加EII
33-3 図版35	深鉢	遺構外	( 5.0 )	口縁部の破片。	口縁部下端より3本の沈線が垂下する。	加 E
33-4 図版35	深鉢	遺構外	( 3.3 )	口縁部の破片。	隆帯の貼付が施される。	加EII
33-5 図版35	深鉢	遺構外	( 3.6 )	口縁部の破片。	隆帯による渦巻文とRLの縄文が施される。	加EII
33-6 図版35	深鉢	遺構外	( 3.7 )	口縁部の破片。	隆帯による区画内にRLの縄文が施される。	加EII
33-7 図版35	深鉢	遺構外	( 4.2 )	口縁部の破片。	隆帯に沿って沈線がめぐりLの燃余文が施される。	加EII
33-8 図版35	深鉢	遺構外	( 3.4 )	口縁部の破片。	隆帯による区画内にRLの縄文が施される。	加EIII
33-9 図版35	深鉢	遺構外	( 4.2 )	胴部の破片。	Lの燃余文に2条の沈線が施される。	加EIV
33-10 図版35	深鉢	遺構外	( 4.4 )	胴部の破片。	Lの燃余文に平行・波状沈線が施される。	加 E
33-11 図版35	深鉢	遺構外	( 3.7 )	胴部の破片。	2条の波状沈線と条線が施される。	加 E
33-12 図版35	深鉢	遺構外	( 5.3 )	口縁部の破片。	隆帯とRLの縄文が施される。	加EV

第12表 K 2-35土器・石器一覧表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
33-13 図版35	深鉢	遺構外	( 6.3 )	頸部の破片。	沈線による区画内に破杉文が施される。	曾利
33-14 図版35	深鉢	遺構外	( 4.4 )	口縁部の破片。	沈線による重弧文と破杉文が施される。	曾利
33-15 図版35	深鉢	遺構外	( 3.4 )	頸部の破片。	粘土紐の貼付が波状に施される。	曾利
33-16 図版35	深鉢	遺構外	( 5.9 )	口縁部の破片。	櫛状工具による条線が施される。	加EVI
33-17 図版35	深鉢	遺構外	( 4.8 )	口縁部の破片。	沈線が垂下する。	加EVI
33-18 図版35	深鉢	遺構外	( 4.3 )	底部の破片。	罫 2本漕り 1本超え、経 1本超え 2本漕りの網代である。	
33-19 図版35	深鉢	遺構外	( 5.7 )	把手部分の破片。	沈線と刺突が施される。	称名寺
33-20 図版35	深鉢	遺構外	(10.2)	胴部の破片。	沈線と RL の縄文が施される。	称名寺
33-21 図版35	深鉢	遺構外	( 3.8 )	口縁部の破片。	2条の沈線が施される。	堀ノ内
33-22 図版35	深鉢	遺構外	( 3.5 )	頸部の破片。	櫛状工具による沈線が施される。	堀ノ内
33-23 図版35	深鉢	遺構外	( 3.7 )	口縁部の破片。	口縁部下に隆帯をめぐらし押圧を おこない沈線による区画内に LR の縄文が施される。	堀ノ内
33-24 図版35	深鉢	遺構外	( 4.0 )	胴部の破片。	沈線による区画内に LR の縄文が 施される。	堀ノ内
33-25 図版35	器台	遺構外	(10.9) ( 1.8 )	台部の破片。	上面に櫛状の圧痕がある。	
33-26 図版35	壺形	遺構外	( 2.7 )	口縁部の破片。	口縁部下に櫛状工具による条線を 行い LR の縄文が施される。	北陸系
33-27 図版35	土鉢	遺構外	2.9 0.7	両側面に挟入され ている。	磨耗して不明。	
図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
34-1 図版36	打製石斧	21集	片岩	13.6 10.0 1.8	290	片面調整で、階段状剥離によって抉りを施し押圧剝離によって刃部を形成する。刃部は円刃で両平刃である。
34-2 図版36	打製石斧	21集	砂岩	14.25 9.85 2.65	300	片面調整で裏面には横方向から剝離した際の主剝離面がそのまま残り、摩擦が認められた。両側縁部は丁寧な磨きによって調整され、刃部は円刃で弱凸強凸刃である。

第13表 K 2-35石器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
34-3 図版36	打製石斧	21集	玄武岩	15.65 8.9 2.7	270	両面調整で基部と刃部は深い切りによって分けられている。刃部は円刃を呈すると考えられる。
34-4 図版36	打製石斧	21集	砂岩	11.1 5.5 1.85	190	片面調整で表面には左右横方向からの剥離面を残す。側縁部調整は階段状剥離の後に嵌きによって調整され、わずかに潰れが認められる。刃部はやや円刃の両凸刃で刃潰れが認められる。
34-5 図版36	打製石斧	21集	玄武岩	9.9 5.5 1.7	90	両面調整で丁寧な剥離によって仕上げている。側縁部は階段状剥離によって調整され、潰れ痕が認められる。刃部は直刃で弱凸強凸刃である。
34-6 図版36	打製石斧	21集	砂岩	9.65 5.5 2.05	100	片面調整で裏面には横方向からの大きな主剥離面を残し、側縁部は階段状剥離によって調整される。刃部は直刃で両平刃である。
34-7 図版36	打製石斧	21集	砂岩	10.7 5.45 1.7	95	両面調整で表面には右横方向からの主剥離面を残し、側縁部は階段状剥離によって調整され潰れ痕が認められる。刃部は円刃で両平刃である。
34-8 図版36	打製石斧	21集	砂岩	10.0 5.45 1.5	70	片面調整で裏面には横方向からの大きな剥離面を残し、側縁部は階段状剥離によって調整される。刃部は直刃の弱凸強凸刃で斜方位の研磨を施す。
34-9 図版36	打製石斧	21集	玄武岩	9.6 5.5 1.5	80	両面調整で裏面には右横方向からの大きな剥離面を残し、側縁部は階段状剥離によって調整され摩擦痕が認められる。刃部は直刃の両平刃で使用による刃こぼれがある。
35-1 図版36	打製石斧	21集	砂岩	10.35 5.7 1.8	105	片面調整で左右横方向からの連続した小剥離面を残し、側縁部は階段状剥離によって調整される。刃部は偏刃で両平刃である。
35-2 図版37	打製石斧	21集	玄武岩	8.1 4.9 1.7	65	片面調整で表面は不定方向からの小剥離面を残し、側縁部は階段状剥離によって調整される。刃部は直刃で弱凸強平刃である。
35-3 図版37	打製石斧	21集	凝灰岩	9.0 4.5 1.6	65	両面調整で裏面は不定方向からの小剥離面を残し、側縁部は階段状剥離によって調整される。刃部は「V」字形の両平刃で著しく摩耗している。
35-4 図版37	打製石斧	21集	砂岩	13.9 6.05 2.1	185	片面調整で表面には横方向からの主剥離面を残し、側縁部は階段状剥離によって調整され、潰れ痕が認められる。刃部は円刃の弱凸強平刃で刃こぼれと摩擦痕が認められる。

第14表 K 2-35石器一覽表

図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
35-5 図版37	打製石斧	21集	玄武岩	12.2 5.9 2.2	190	片面調整で裏面には不定方向からの剥離が行われる。側縁部は階段状剥離によって調整される。刃部は直刃で両凸刃である。
35-6 図版37	打製石斧	21集	砂岩	15.8 4.6 2.6	225	両面調整で側縁部は階段状剥離によって調整され、潰れが認められる。刃部は円刃の両平刃であり、研磨痕が認められる。
35-7 図版37	打製石斧	21集	玄武岩	11.0 5.1 2.0	120	両面調整で裏面には横方向からの主剥離面を残し、側縁部は階段状剥離によって調整される。刃部は直刃の両凸刃で表面には研磨痕が認められる。
35-8 図版37	粗製石器	21集	砂岩	13.0 4.8 1.9	100	右側縁部は表裏面から交互の連続する刃部調整を行い、左側縁部に階段状剥離が施されている。柄部にはわずかながら摩擦痕が認められる。
35-9 図版37	打製石斧	21集	砂岩	13.85 5.9 2.3	215	両面調整で裏面に左右横方向からの剥離が行われる。側縁部は階段状剥離によって調整される。刃部は直刃で両凸刃である。
35-10 図版37	石槍	21集	砂岩	12.3 3.85 2.4	100	両面調整で表面は中央部から基部に大きな剥離を施し、裏面は不定方向の剥離を施す。両側縁部には階段状剥離が施される。刃部は両凸刃である。
35-11 図版37	打製石斧	21集	砂岩	10.2 4.1 1.4	65	両面調整で大きな剥離が表裏面に残り、両側縁部には階段状剥離が施される。刃部は両凸刃である。
36-1 図版37	スクレーパー	21集	砂岩	7.2 7.05 1.9	138	剥片を素材として、周縁に表裏面からの刃部調整を施して円盤状に整形している。
36-2 図版37	スクレーパー	21集	緑泥片岩	7.5 6.85 1.3	97.5	
36-3 図版38	磨製石斧	21集	凝灰岩	(9.9) (5.25) (2.65)	153.5	全体に丁寧な研磨が施され、刃部は円刃で鋭凸強凸平刃を呈する。さらに基部欠損部分からの刃部調整を行い、打製石斧に転用している。
36-4 図版38	磨製石斧	21集	凝灰岩	(8.35) (5.35) (3.3)	205	全体に丁寧な研磨が施され、刃部は円刃で片平刃を呈する。
36-5 図版38	磨製石斧	21集	砂岩	(16.85) (8.0) (5.0)	900	全体に丁寧な研磨が施され、端部が円刃で鋭凸強凸平刃を呈する。磨石の可能性もある。
36-6 図版38	叩き石	21集	砂岩	9.5 5.9 2.8	235	両側縁部と下部に敲打痕が認められる。

第15表 K2-35石器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
36-7 図版38	叩き石	21集	砂岩	9.1 4.4 3.2	170	拳大の礫に不定方向からの剝離を施している。剥皮面を除去する段階の未製品かあるいは石鏢の可能性もある。
36-8 図版38	磨石	21集	花崗岩	(11.2) (6.5) (3.0)	325	表裏面に磨面を持ち、研磨の方向は一定しておらず、先端部には剝離痕と敲打痕が認められる。
37-1 図版38	磨石	21集	砂岩	(8.1) (3.45) (3.3)	275	平坦部に磨面を持ち、研磨の方向は長軸方向に一定している。
37-2 図版38	凹石	21集	花崗岩	11.8 6.8 3.9	515	表裏面の長軸方向に並列する2個の小孔が穿たれている。
37-3 図版38	凹石	21集	緑泥片岩	(16.5) (10.45) (4.15)	850	大型剥片の片面に4個の小孔が不規則に穿たれている。
37-4 図版38	磨石	21集	砂岩	(8.6) (6.65) (2.6)	165	全面に磨面を持つ。スタンプ形石器に類似している。
37-5 図版38	磨石	21集	花崗岩	(9.4) (3.4) (3.3)	340	スタンプ型石器に類似している。全面に磨面を持ち、両端部には敲打痕が認められる。
38-1 図版39	磨石	21集	花崗岩	13.2 16.4 5.3	1,870	平坦部に磨面を持ち、研磨の方向は斜方向に一定している。
38-2 図版39	石鏢	遺構外	黒曜石	(3.1) (1.7) 0.42	1.7	表裏面に丁寧な細部調整が施されており、両側縁部は先端部から脚端部まで連続する微調整によってやや鋸歯状に仕上げる。
38-3 図版39	打製石斧	遺構外	玄武岩	10.5 7.4 2.1	160	両面調整で裏面は左横方向からの主剝離面を残し、側縁部は階段状剝離によって調整される。刃部は円刃で両凸刃である。
38-4 図版39	打製石斧	遺構外	砂岩	17.5 9.2 2.5	435	両面調整で表面基部に両側からの剝離が及び裏面は左右横方向からの主剝離面が残る。側縁部は階段状剝離によって調整される。刃部は円刃で両凸刃である。
38-5 図版39	打製石斧	遺構外	砂岩	12.0 4.55 2.3	150	片面調整で裏面に左右交互の剝離面を残す。左側縁部は階段状剝離の後敲打調整を施す。刃部は偏刃で両平刃で研磨痕が認められる。
38-6 図版39	打製石斧	遺構外	砂岩	12.2 5.2 2.8	230	両面調整で表裏とも不定方向の剝離面を残す。両側縁部は階段状剝離が施され、潰れがあり、刃部は円刃の両凸刃で使用による刃潰れが認められる。
38-7 図版39	打製石斧	遺構外	凝灰岩	14.0 3.8 2.0	160	片面調整で裏面には縦方向の主剝離面を残す。刃部は片平刃で研磨と微調整が施され、使用による刃潰れが認められる。

### (3) 小結

今回の調査において、住居跡3軒、土坑9基、集石土坑2基とピット61個が検出され、恋ヶ窪遺跡の北東域の遺構の分布状況が明らかとなった。

検出されている3軒の住居跡は、覆土中より勝坂式期や阿玉台の土器片が出土していることから縄文時代中期中葉の遺構と考えられる。しかし、いずれの住居跡も炉跡を持たず柱穴となるピットもないことから堅穴状遺構として解釈したほうが妥当かもしれない。また住居跡に近接して20号集石土坑がある。集石内から阿玉台の土器が出土しており、住居跡と同じ時期の遺構と考えられる。これらの遺構周辺には、出土遺物がないため時期不詳の土坑・ピット等がある。

恋ヶ窪遺跡におけるこれまでの調査成果として、北方部分を調査した折の状況は集石・土坑・ピット等が分布していることが明らかになっている。したがって今回検出された遺構は集落の外郭を形成する一群と考えられる。

次に調査地南側で検出された21号集石土坑について述べる。この遺構は前述したように後世に掘り出された土器・石器・礫・瓦片などを集積したものと考えられ、コンテナ50箱ほどの量が採集された。縄文土器では勝坂式期から加曾利E式期までのものであり、打製石斧も380点ほどある。これらは研究所構内で出土したものと考えられ、本調査地以外に恋ヶ窪遺跡の集落を形成する遺構が多数存在することを物語る資料である。

#### (註1)

恋ヶ窪遺跡第13次調査で集落の北方に位置し、集石1基に土坑やピットが多数検出され、集落居住域の外郭地域と考えられている。

## 2. K2-39次調査

研究棟建設予定地2,653.05㎡の本調査を実施した結果、住居跡7軒、土坑17基、礫集中部分1面、ピット154個が検出された。

### (1) 検出遺構

#### 78号住居跡 (図面11 図版11)

〈位置〉調査地の南西隅に位置し、北側に79号住居跡がある。〈形状〉調査地が旧建物の基礎により攪乱されているため住居跡の東壁部分は推定による計測である。長径5.6m、短径4.8mの楕円形を呈し、遺構確認面からの掘り込みは12cmで、ローム面を床面として使用しており、床面は軟弱である。壁の状況はゆるやかに立ち上り、周溝は廻っていない。〈覆土〉暗茶褐色土のローム粒子やスコリア粒子が含まれる上層で、床面近くはロームブロックや茶褐色土が堆積している。〈炉〉なし 〈埋壘〉なし 〈柱穴〉住居跡の中に8個と壁に1個検出された。規模は径0.3~0.6mで床面からの深さは20~40cmを測る。〈出土遺物〉住居跡の覆土中より(図面39-1~5)の土器口縁部・胴部破片と(図面44-1)の砥石が出土している。〈時期〉出土遺物が少ないので時期の決定は困難であるが、中期勝坂式期の住居跡と考えられる。

#### 79号住居跡 (図面12 図版11)

〈位置〉調査地の南西隅に位置し、南に78号住居跡、北に80・84号住居跡がある。〈形状〉旧建物の基礎による攪乱のため住居跡の立ち上がりは検出されず推定による計測である。長径4.6m、短径4.5mの円形を呈し、住居跡覆土の厚さは約15cm前後である。ローム面を床面として使用しておりやや硬質な部分が認められた。〈覆土〉暗茶褐色土が堆積しており炉跡周辺部分には炭化物が散っている。〈炉〉中央部分に地床炉が検出される。規模は長径0.7m、短径0.6mの楕円形を呈し、床面からの掘り込みは30cmを計る。充填土は赤茶褐色の焼土層で、底面は被熱し硬化している。〈埋壘〉なし 〈柱穴〉住居跡内において主柱穴4個と他7個の計11個が検出された。主柱穴の規模は径0.4~0.6mで床面からの掘り込みは80cm前後である。〈出土遺物〉なし 〈時期〉住居跡内より遺物が検出されていないため不詳である。

#### 80号住居跡 (図面12 図版12)

〈位置〉調査地西側中央よりやや南に位置し、隣接して84号住居跡、北側に66・67号土坑がある。〈形状〉住居跡の南側壁は旧建物の基礎により攪乱を受けており検出されなかった。したがって住居跡の規模については推定による値である。長径4.36m、短径3.84mの円形を呈し、遺構確認面からの掘り込みは16cmで、ローム面を床として使用しほぼ平坦である。壁の状況はゆるやかに立ち上がり、周溝は廻っていない。〈覆土〉暗茶褐色土で床面近くはロームブロック

を多く含む茶褐色土が堆積しており、炉跡近くは焼土粒子や炭化物が含まれている。〈炉〉住居跡中央に2箇所の焼土堆積部分があり地床炉である。規模は北側のものは径0.3m、深さ9.6cmとちいさく、中央のものは長径0.56m、短径0.46m、深さ9.1cmである。堆積土層は茶褐色土で、床面は被熱されローム粒子が硬化している。中央の大型の炉跡内より(図面39-9)の勝坂式期Ⅱの口縁部破片が出土している。〈埋壘〉なし〈柱穴〉住居跡内において主柱穴6個と他14個の計20個が検出された。主柱穴の規模は径0.4~0.65m、深さ60~85cmである。他の柱穴は壁に沿って配置されており径0.15~0.35m、深さ20~35cmを計る。〈出土遺物〉(図面39-6~17)の勝坂式期Ⅱ・Ⅲ、阿玉台の土器片と(図面44-2・3)の打製石斧などが出土している。〈時期〉炉跡内より出土している土器が勝坂式期Ⅱであることにより該期の住居跡である。また炉跡が2個あることや主柱穴が各々2組あることにより1回の建て替えが行われたと考えられる。

#### 81号住居跡 (図面13 図版13)

〈位置〉調査地南側中央に位置し、東に82号住居跡、北に83号住居跡と61号土坑がある。〈形状〉住居跡の大半が攪乱を受けており規模は推定による値である。長径5.7m、短径4.9mの楕円形を呈し、遺構確認面からの掘り込みは28cmで、ローム面を床として使用し、中央部に向かいゆるく傾斜していると考えられる。壁はゆるやかに立ち上がり、周溝は廻っていない。〈覆土〉暗茶褐色土のスコリア粒子が含まれた土層で、壁近くは茶褐色土やロームブロックがまじる。〈炉〉住居跡の中央に2個検出される。炉跡が検出された部分は床面が攪乱により削平されているため、炉跡も大部分が削平されている。北側の炉跡は長径0.4m、短径0.28m、深さ36cmで炉体土器は(図面39-19・20)の勝坂式期Ⅱの胴部と底部の破片が検出される。南側は径0.5mの円形を呈し深さ20cmの地床炉と考えられる。炉跡内の堆積土は焼土粒子が多く含まれる暗茶褐色土層で、底面は両方ともかなり被熱され硬化している。〈埋壘〉なし。〈柱穴〉住居跡内に23個の柱穴があり、このうち主柱穴は炉跡を中心に内側4本柱で、その外側に7本柱が廻る。規模は径0.26~0.68m、深さ48~76cmの円形か楕円形を呈する。その他の柱穴としては両側に径0.4~0.6m、深さ15~70cmの規模のものが5個集中して検出されている。おそらく入口部に関係するものと考えられる。〈出土遺物〉炉跡内に埋壘が2個体と、両側の覆土中に集中して出土している。土器は(図面39-18~20、40-1~13)で勝坂式期Ⅱが主体であるが、他に(図面43-16・18・19)の土製円板、器台なども出土している。石器は(図面44-4~12)で打製石斧が多いが石鏃やピエス・エスキュー、叩き石、磨石なども出土している。〈時期〉炉跡内より出土している土器が勝坂式期Ⅱであることより該期の住居跡である。また本住居跡は炉跡が2個あることや、主柱穴が各々2組あることにより建て替えが行われたと考えられる。

#### 82号住居跡 (図面14 図版14)



〈位置〉調査地南側中央のやや東に位置し、近接して75号土坑がある。〈形状〉他の住居跡に比べ擾乱を受けていないため遺存状態はよい。長径4.8m、短径4.2mのほぼ円形を呈し、確認面からの掘り込みは40cmと深い。床面はローム面で、中央がやや低くなっており、その部分が固く踏み固められて堅緻である。壁の状況は垂直よりやや開きぎみに立ち上がり、周溝は廻っていない。〈覆土〉住居跡の上層部分は黒色味が強い茶褐色土で、床面に近くなるにつれてロームブロックを含む茶褐色土が堆積している。〈炉〉住居跡の中央にあり、土器の口縁部・胴部を用いた埋甕炉で（図面40-14）の勝坂式期Ⅱの深鉢が検出されている。規模は径0.46mで円形を呈し、床面からの掘り込みは20cmである。堆積土層は茶褐色土で埋甕内には焼土がほとんどなく、掘り込みの底面や周囲に僅かに焼成を受けた痕跡が認められた。〈埋甕〉なし。〈柱穴〉住居跡内には10個の柱穴がありこのうち5個が主柱穴で、規模は径0.35～0.45m、床面からの深さは53～58cmを計る。南側部分に深さ20cm前後の柱穴が4個ありこれは住居跡の入口部に關係するものと考えられる。〈出土遺物〉炉跡内の埋甕が1個体と、炉跡周辺の覆土中より多く出土している。土器は（図面40-14～16、41-1～8）の勝坂式期Ⅱ・Ⅲで、石器は（図面46-1～3）の打製石斧が出土している。〈時期〉炉跡内より出土している土器が勝坂式期Ⅱであることより該期の住居跡であると考えられる。

#### 83号住居跡（図面15 図版15）

〈位置〉調査地南側の中央よりやや北にあり、西に61号土坑、南に81・82号住居跡と75号土坑がある。〈形状〉住居跡の1/3が既存建物の基礎により擾乱を受けている。長径4.74m、短径4.0mの楕円形を呈し、遺構確認面からの掘り込みは20cmで、ローム面を床として使用しており平坦である。壁はゆるやかに立ち上がり、周溝は廻っていない。〈覆土〉暗茶褐色土が主体に堆積しており炉跡周辺には焼土粒子や炭化物が散り、壁近くはロームブロックがまじっている。〈炉〉住居跡の中央に石囲いの埋甕炉がある。炉石は南東縁に長さ0.6mほどの物が1個埋設されているだけである。炉体土器は（図面41-9）の勝坂式期Ⅲの胴部破片が1個体出土している。掘り込みの規模は径0.7mで床面からの深さは23cmを計る。堆積土は暗赤褐色土で焼土粒子や焼土ブロックを多く含み、掘り込みの底面は被熱により硬化している。〈埋甕〉なし。〈柱穴〉住居跡内に20個の柱穴があり、主柱穴は炉跡を中心に2組の5本柱である。規模は径0.24～0.5mの円形や楕円形の形状で、床面からの掘り込みは60～70cmである。その他、壁に沿って径0.2m前後で深さ5～25cmの小穴がある。〈出土遺物〉炉跡内に埋甕が1個体と、炉跡周辺の覆土中に集中しており、土器は（図面41-9～18）の勝坂式期Ⅱ・Ⅲで、石器は（図面45-1～7）の打製石斧、スクレーパー、石皿、石匙がある。〈時期〉炉跡内より出土している土器が勝坂式期Ⅲであることにより、該期の住居跡と考えられる。また主柱穴が2組存在することにより1回の建て替えが行われた可能性がある。

#### 84号住居跡 (図面15 図版16)

〈位置〉調査地の南西隅よりやや北側に位置し、西隣に80号住居跡、南側に79号住居跡がある。また63号土坑と重複関係にある。〈形状〉住居跡の南側半分は既存建物の基礎により攪乱を受けており規模は推定による値である。径4.4mの円形を呈し、確認面からの掘り込みは5cmと非常に浅く、ローム面を床として使用しており平坦である。壁は北西部のみ検出されており、ゆるやかに立ち上がる。周溝は廻っていない。〈覆土〉茶褐色土でロームブロックが多くまじる土層が堆積している。〈炉〉住居跡の中央に地床炉がある。規模は径0.54m、床面からの掘り込みは8cmを計る。堆積土は焼土粒子を含む茶赤褐色土で、掘り込みの底面は部分的に被熱され硬化している。〈埋壘〉なし〈柱穴〉住居跡内に6個の柱穴がありこのうち4個が主柱穴と考えられる。規模は径0.3~0.4mで床面からの掘り込みは60~70cmである。〈出土遺物〉覆土より少量検出された。土器は(図面42-1~4)の勝坂式期Ⅰや阿玉台の破片で、石器は(図面46-4~6)の石鏃、打製石斧などがある。〈時期〉炉跡内や床面上より遺物が出土していないため時期は明確にできないが、覆土中より勝坂期の土器片が出土していることにより該期の住居跡と考えられる。

#### 61号土坑 (図面17 図版19)

〈位置〉調査地南側に位置し、83号住居跡の西側である。〈形状〉上面長1.84m、上面幅1.02m、底面長1.5m、底面幅0.66mの隅丸長方形を呈し、陥し穴状の土坑である。ローム面からの掘り込みは38.5cmを測る。覆土は暗茶褐色土が充填される。〈主軸方向〉N-37°-E 〈出土遺物〉なし 〈時期〉中期の可能性ある。

#### 62号土坑 (図面18 図版19)

〈位置〉調査地の中央に位置し、北側に64号土坑がある。〈形状〉長径2.66m、短径2.34mで楕円形を呈し、ローム面からの掘り込みは20cmと非常に浅い。断面は皿状をなし、覆土は暗茶褐色土に茶褐色土ブロックがまじる。〈出土遺物〉勝坂・阿玉台の土器片がある。〈時期〉勝坂式期Ⅱに該当する。

#### 63号土坑 (図面18 図版19)

〈位置〉調査地の西側に位置し、84号住居跡と重複しており、新旧関係は不明である。〈形状〉長径1.28m、短径1.1mの円形を呈する。ローム面からの掘り込みは30cmで断面形は逆台形である。覆土は暗茶褐色土が充填される。〈出土遺物〉なし 〈時期〉中期の可能性ある。

#### 64号土坑 (図面16 図版17)

〈位置〉調査地中央に位置する。〈形状〉上面長2.72m、上面幅0.5m、底面長2.9m底面幅0.18mの細長い溝状を呈するTピットである。ローム面からの掘り込みは80cmを測る。覆土は黒褐色土と茶褐色土が充填される。〈主軸方向〉N-21°-W 〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 65号土坑 (図面16 図版17)

〈位置〉調査地西側の中央に位置し、すぐ南に66号土坑がある。〈形状〉上面長2.96m、上面幅0.76m、底面長3.28m、底面幅0.16mの細長い溝状を呈するTピットである。ローム面からの掘り込みは90cmを測る。覆土はロームブロックを含む暗茶褐色土が充填される。〈主軸方向〉N-75°-W 〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 66号土坑 (図面17 図版18)

〈位置〉調査地西側の中央に位置し、北に65号土坑、西に67号土坑がある。〈形状〉上面長1.64m、上面幅0.7m、底面長1.24m、底面幅0.4mの隅丸長方形を呈する陥し穴状の土坑である。ローム面からの掘り込みは73cmを測る。断面形は逆台形で、覆土はスコリア粒子を含む茶黒褐色土が充填される。〈主軸方向〉N-7°-E 〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 67号土坑 (図面16 図版17)

〈位置〉調査地の中央西側に位置し、東に66号土坑がある。〈形状〉上面長2.50m、上面幅1.18m、底面長2.46m、底面幅0.26mの細長い溝状を呈するTピットである。ローム面からの掘り込みの深さは100cmを測る。覆土は茶褐色土が主体である。〈主軸方向〉N-13°-W 〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 68号土坑 (図面16 図版17)

〈位置〉調査地の北東に位置し東側に69号土坑がある。〈形状〉上面長2.44m、上面幅0.65m、底面長2.24m、底面幅0.1mの細長い溝状を呈するTピットである。ローム面からの掘り込みは60~100cmで底面にピットが1個認められる。覆土はスコリア粒子を含む暗茶褐色土が堆積する。〈主軸方向〉N-20°-W 〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 69号土坑 (図面17 図版18)

〈位置〉調査地の北東に位置し西に68号土坑がある。〈形状〉上面長2.54m、上面幅0.9m、底面長2.34m、底面幅0.22mの細長い溝状を呈するTピットである。覆土は暗茶褐色土が堆積する。〈主軸方向〉N-7°-W 〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 70号土坑 (図面17 図版18)

〈位置〉調査地の北東隅で西側に71号土坑がある。〈形状〉長径1.4m、短径0.94mの楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは96cmで断面形は逆台形である。覆土はローム粒子を含む暗茶褐色土が主体に堆積する。〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 71号土坑 (図面18 図版19)

〈位置〉調査地の北東隅で東に70号土坑がある。〈形状〉長径1.34m、短径1.03mの楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは39cmで断面形は半円形である。覆土は暗茶褐色土が堆積する。〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 72号土坑 (図面18 図版19・20)

〈位置〉調査地北側中央で73号土坑が西にある。〈形状〉長径1.78m、短径1.20mの楕円形でローム面からの掘り込みは38cmである。断面形は皿状で覆土はスコリア粒子を含む暗茶褐色土が堆積する。〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳であり。

#### 73号土坑 (図面18 図版20)

〈位置〉調査地の北側中央で東に72号土坑がある。〈形状〉長径1.04m、短径0.80mの楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは27cmで断面形は逆台形である。覆土は暗茶褐色土が堆積する。〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 74号土坑 (図面19 図版20)

〈位置〉調査地の北東隅で北側に76号土坑がある。〈形状〉長径1.0m、短径0.94mのほぼ円形を呈する。ローム面からの掘り込みは52cmで断面形は逆台形である。覆土は暗茶褐色土でロームブロック等が含まれる。〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 75号土坑 (図面19 図版20)

〈位置〉調査地の南側中央に位置し、83号住居跡に隣接する。〈形状〉長径1.6m、短径1.2mの楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは39cmで断面形は溜鉢状である。覆土は暗茶褐色土が充填される。〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 76号土坑 (図面19 図版20)

〈位置〉調査地北東隅に位置し、南側に74号土坑がある。〈形状〉長径1.28m、短径0.98mで

楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは39cmで逆台形である。底面に径0.2mと0.26mのピットが認められる。覆土は茶褐色土でスコリア粒子がまじる。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 77号土坑 (図面19 図版20)

〈位置〉調査地北西に位置する。〈形状〉長径1.9m、短径1.5mで楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは46cmで断面形は不整形である。壁の上面に径0.35mのピットが認められる。覆土はスコリア粒子を多く含む暗茶褐色土が堆積する。〈出土遺物〉なし〈時期〉不詳である。

#### 23号礫集中部分 (図面20 図版21)

〈位置〉調査地の中央よりやや西に位置する。〈形状〉東西9m、南北7m、厚さ20cmの範囲に礫の集中が認められる。集中下には土坑等の掘り込みは検出されなかった。集石の周辺や下面などに被熱された痕跡も認められていない。〈礫の状態〉1200個以上の礫で構成されており、大半が焼成を受けている。石質は砂岩系のものが主体で拳大程度の大きさである。集石中より(図面42-14~16)の勝板式期の土器片と(図面46-7~10、47-1)の打製石斧やスタンプ型石器が出土している。〈時期〉勝板式期の土器片が出土しているため、該期の所産であると考えられる。

#### ピット (図面8 図版9)

〈位置〉調査地全域に検出され総数は154個である。〈形状〉径0.3~0.7mで、深さ30~70cmの円形や楕円形を呈し、覆土は暗茶褐色土でローム粒子・スコリア粒子が含まれる土層が充填されている。〈時期〉ピット内より遺物が出土していないため時期不詳であるが、住居跡の時期より中期の所産と考えられる。

#### 遺構外遺物 (図面9・10)

調査地内の包含層の遺物分布状況は、住居跡が検出されている部分とその外縁部分、土坑が検出される北東部に集中している。これらの内容は、土器類は勝板式期のものが多く後期の堀之内式期も少量含まれている。石器類は打製石斧が多く、石鏃や磨製石斧も出土している。

#### (2) 出土遺物

遺物は縄文土器、石器、礫があり、コンテナ43箱が出土している。これらの中で住居跡、土坑、礫集中部分より検出されたものと、遺構外の遺物包含層より出土し図示が可能なものを一覽表にして記述した。

第16表 K 2 -39土器一覽表

図面 図版	種別	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
39-1 図版40	深鉢	78住	(3.1)	胴部の破片。	隆帯に沿って棒状工具による刺突文と波状沈線がめぐる。	勝坂
39-2 図版40	深鉢	78住	(3.1)	胴部の破片。	隆帯に沿って沈線をめぐらし棒状工具の押圧が施される。	勝坂III
39-3 図版40	深鉢	78住	(3.7)	口縁部の破片。	2条の平行沈線が施される。	阿玉台
39-4 図版40	深鉢	78住	(5.7)	口縁部の破片。	棒状工具による押し引きが施される。	阿玉台
39-5 図版40	深鉢	78住	(7.7)	胴部の破片。	LRの縄文が施される。	
39-6 図版40	浅鉢	80住	(8.2) (12.0)	頸部・胴部の破片。	無文。	
39-7 図版40	浅鉢	80住	(13.0) (12.4)	胴部の破片。	無文。	
39-8 図版40	深鉢	80住	(16.8) (21.4)	口縁部・胴部。	口縁部と胴部に平行沈線がめぐり内側は沈線による重三角区画文で、その下にLRの縄文が施される。	勝坂III
39-9 図版40	深鉢	80住 炉内	(8.6)	口縁部の破片で内側する。	斜方向にRLrの縄文が施され円盤状の貼付がおこなわれる。	勝坂II
39-10 図版40	深鉢	80住	(5.5)	口縁部の破片。	隆帯に棒状工具による押しと牽引が施される。	勝坂III
39-11 図版40	深鉢	80住	(5.5)	口縁部の破片。	口縁部上面の竹管による刺突・ペン先状工具の押し引きによる角押文の区画内に円盤状の貼付が施される。	勝坂III
39-12 図版40	深鉢	80住	(8.8)	胴部の破片。	ヘラ状工具による刺突が施される。	勝坂III
39-13 図版40	深鉢	80住	(4.3)	胴部の破片。	沈線による区画内に竹管による刺突が施される。	勝坂III
39-14 図版40	深鉢	80住	(3.9)	胴部の破片。	半截竹管による沈線・刺突が施される。	勝坂III
39-15 図版40	深鉢	80住	(3.5)	胴部の破片。	荒い爪形文が施される。	阿玉台
39-16 図版40	深鉢	80住	(3.3)	胴部の破片。	微隆起の隆帯に沿って2条の沈線が施される。	阿玉台
39-17 図版40	深鉢	80住	(3.5)	胴部の破片。	隆帯に沿って竹管の押し引きによる角押文と波状沈線がめぐりRLの縄文が施される。	勝坂II
39-18 図版40	深鉢	81住	(11.0)	口縁部の破片で内側する。	粘土塊の貼付が施され地文は多条RLの縄文である。	勝坂II

第17表 K 2-39土器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	口径 器高 底径 cm	胴形の特徴・部位	文様構成	備考
39-19 図版40	深鉢	81住 炉内	(9.2)	胴部の破片。	隆帯による区画に沿って沈線がめぐり刺突と押圧が施される。	勝坂II 炉体土器
39-20 図版40	深鉢	81住 炉内	(12.6) 12.4	胴部・底部。	胴部下端までRLの縄文が施される。	勝坂 炉体土器
40-1 図版40	深鉢	81住	(4.5)	口縁部の破片。	ベン先状工具の押し引きによる角押文と縦方向の波状沈線が施される。	勝坂II
40-2 図版40	深鉢	81住	(3.0)	口縁部の破片。	隆帯に沿ってベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂
40-3 図版40	浅鉢	81住	(3.0)	口縁部の破片。	棒状工具の押圧と押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
40-4 図版40	深鉢	81住	(2.4)	胴部の破片。	竹管の押し引きによる角押文が施される。	勝坂
40-5 図版40	深鉢	81住	(3.5)	胴部の破片。	沈線による区画内に条線が施される。	勝坂II
40-6 図版40	深鉢	81住	(7.5)	胴部の破片。	沈線による区画内に条線が施される。	勝坂II
40-7 図版40	深鉢	81住	(5.0)	胴部の破片。	半截竹管による沈線と刺突が施される。	勝坂II
40-8 図版40	深鉢	81住	(3.1)	胴部の破片。	半截竹管による沈線と刺突が施される。	勝坂II
40-9 図版40	深鉢	81住	(3.0)	胴部の破片。	沈線と半截竹管による刺突が施される。	勝坂II
40-10 図版40	深鉢	81住	(3.8)	胴部の破片。	隆帯に沿って沈線がめぐり棒状工具による押圧・押し引きが施される。	勝坂II
40-11 図版40	深鉢	81住	(3.9)	胴部の破片。	棒状工具による刺突が施される。	勝坂II
40-12 図版40	深鉢	81住	(3.2)	胴部の破片。	棒状工具の押し引きによる角押文が波状に施される。	勝坂I
40-13 図版40	深鉢	81住	(7.1)	胴部の破片。	RLの縄文が施される。	勝坂
40-14 図版41	深鉢	82住 炉内	(29.4) 19.8	口縁部・頸部の破片でキャリバー形を呈する。	隆帯による楕円区画文の内側に沈線による重三角文と渦巻文が施される。	勝坂II 炉体土器
40-15 図版41	浅鉢	82住	(4.4)	口縁部の破片。	口縁部上に棒状工具による押圧、その下に棒状工具による角押文が施される。	勝坂I
40-16 図版41	深鉢	82住	(9.9)	口縁部の破片。	隆帯に棒状工具による刺突が施される。	勝坂III
41-1 図版41	深鉢	82住	(5.9)	口縁部の破片。	隆帯による楕円区画内に沈線による渦巻文が施され隆帯の上に刺突が行われる。	勝坂II

第18表 K 2-39土器一覽表

図面 図版	種別	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
41-2 図版41	深鉢	82住	(5.1)	口縁部の破片。	隆帯による楕円区画内に沈線が施される。	勝坂II
41-3 図版41	深鉢	82住	(3.9)	口縁部の破片。	口縁部下に竹管による押し引きが施される。	勝坂II
41-4 図版41	深鉢	82住	(4.8)	口縁部の破片。	沈線による区画内に刺突文が施される。	勝坂II
41-5 図版41	深鉢	82住	(3.8)	口縁部の破片。	隆帯による区画内に竹管の押し引きによる角押文と刺突文が施される。	勝坂II
41-6 図版41	深鉢	82住	(6.8)	胴部の破片。	沈線による渦巻文と刺突文が施される。	勝坂III
41-7 図版41	深鉢	82住	(7.6)	胴部の破片。	隆帯に沿って竹管の押し引きによる角押文と波状の沈線が施される。	勝坂III
41-8 図版41	深鉢	82住	(8.0)	胴部の破片。	押し込まれた隆帯による区画内に沈線文が施される。地文はLRの縄文である。	勝坂III
41-9 図版41	深鉢	83住 炉内	(13.4)	胴部の破片。	隆帯による楕円区画内に条線が施され、隆帯の上を竹管による刺突がめぐる。	勝坂III *体土器
41-10 図版41	深鉢	83住	(11.8) 12.0	胴部下端と底部。	胴部下端までRLの縄文が施される。	勝坂
41-11 図版41	深鉢	83住	(30.4) (19.8)	頸部・胴部の破片。	隆帯と沈線による区画を行ない隆帯上に棒状工具の押し込みが施される。地文はRLの縄文である。	勝坂III
41-12 図版41	深鉢	83住	(3.4)	口縁部の破片。	ペン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂II
41-13 図版41	深鉢	83住	(4.6)	胴部の破片。	隆帯に沿ってペン先状工具による角押文が施される。	勝坂II
41-14 図版41	深鉢	83住	(4.6)	胴部の破片。	隆帯に沿って竹管の押し引きによる角押文が施される。	勝坂II
41-15 図版41	深鉢	83住	(7.6)	口縁部の破片。	頸部よりLRの縄文が施される。	勝坂
41-16 図版42	深鉢	83住	(10.9)	胴部の破片。	押し込まれた隆帯による区画文の中に沈線と竹管による刺突が施される。	勝坂II
41-17 図版42	深鉢	83住	(7.7)	胴部の破片。	隆帯の上に竹管による刺突が行われ、沈線とLの燃糸文が施される。	勝坂II
41-18 図版42	深鉢	83住	(6.5)	胴部の破片。	隆帯の上に棒状工具の押し込みがおこなわれ、ヘラ状工具による条線と刺突が施される。	勝坂II
42-1 図版42	深鉢	84住	(3.7)	口縁部の破片。	棒状工具による押し込み・押し引き・刺突と沈線が施される。	勝坂I



第19表 K2-39土器一覽表

圖面 圖版	種別	出土 位置	口径 器高 底径cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
42-2 図版42	深鉢	84住	(4.8)	胴部の破片。	隆帯による区画内に竹管の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
42-3 図版42	深鉢	84住	(6.0)	胴部の破片。	隆帯に沿って竹管の押し引きによる角押文が施される。	阿玉台
42-4 図版42	深鉢	84住	(8.4)	胴部の破片。	隆帯にベン先状工具の押し引きと沈線が施される。	阿玉台
42-5 図版42	深鉢	62土	(3.0)	口縁部の破片。	粘土紐の貼付が行われ、棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
42-6 図版42	深鉢	62土	(3.4)	胴部の破片。	隆帯に沿って棒状工具の押し引きが施される。	阿玉台
42-7 図版42	深鉢	62土	(3.7)	胴部の破片。	沈線と棒状工具の押し引きが施される。	阿玉台
42-8 図版42	深鉢	62土	(5.0)	口縁部の破片。	隆帯による区画を行い、隆帯の上に棒状工具による押圧が施される。	勝坂II
42-9 図版42	深鉢	62土	(5.9)	胴部の破片。	沈線文が施される。	勝坂II
42-10 図版42	深鉢	62土	(5.2)	胴部の破片。	棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	阿玉台
42-11 図版42	深鉢	62土	(5.9)	胴部の破片。	隆帯に沿って竹管の押し引きによる角押文が施される。	阿玉台
42-12 図版42	浅鉢	62土	(6.8)	口縁部の破片。	ベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
42-13 図版42	浅鉢	62土	(5.3)	口縁部の破片。	口縁部の上にベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
42-14 図版42	浅鉢	23離	(3.7)	口縁部の破片。	棒状工具の押し引きによる角押文と円形竹管による刺突文が施される。	勝坂I
42-15 図版42	浅鉢	23離	(3.6)	口縁部の破片。	竹管による沈線文と糸線が施される。	勝坂III
42-16 図版42	浅鉢	23離	(3.2)	口縁部の破片。	隆帯と沈線による連環状文が施される。	勝坂I 有孔
42-17 図版42	深鉢	遺構外	19.4 21.4 (6.6)	完形品。 キャリバー形を呈する。	沈線による重弧文と粘土紐の貼付が波状に行われ、竹管による沈線と糸線が施される。	曾利
42-18 図版42	深鉢	遺構外	(5.6)	胴部の破片。	5本単位の棒状工具による糸線とLの捺糸文が施される。	諸、磯
42-19 図版42	深鉢	遺構外	(3.9)	胴部の破片。	隆帯に棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
42-20 図版42	深鉢	遺構外	(4.0)	胴部の破片。	隆帯にベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂III

第20表 K 2-39土器一覽表

図面 図版	種別	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
42-21 図版42	深鉢	遺構外	(5.2)	胴部の破片。	隆帯の区画に棒状・ベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂II
42-22 図版42	深鉢	遺構外	(4.6)	胴部の破片。	隆帯の区画に竹管による押し引き・刺突が施される。	勝坂I
42-23 図版42	深鉢	遺構外	(4.0)	胴部の破片。	隆帯による区画内にベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂I
42-24 図版42	深鉢	遺構外	(7.7)	口縁部の破片。	隆帯による横凹区画内に棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂III
42-25 図版42	深鉢	遺構外	(9.3)	胴部の破片。	隆帯による横凹区画内に竹管による刺突・押圧・押し引きが施される。	勝坂III
42-26 図版42	深鉢	遺構外	(5.6)	口縁部の破片。	隆帯による区画を行い、竹管による沈線文・刺突文・押し引き文を施す。	勝坂II
43-1 図版42	深鉢	遺構外	(3.4)	口縁部の破片。	口縁部下に竹管による押し引きと波状沈線が施される。	勝坂II
43-2 図版42	深鉢	遺構外	(5.3)	口縁部の破片。	口縁部下に竹管による押し引きと2本の波状沈線が施される。	勝坂II
43-3 図版42	深鉢	遺構外	(6.1)	胴部の破片。	ベン先状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂II
43-4 図版42	深鉢	遺構外	(5.0)	胴部の破片。	沈線による渦巻文が施され、隆帯にへら状工具による刺突が行われる。	勝坂II
43-5 図版43	深鉢	遺構外	(7.9)	頸部の破片。	波状・平行沈線とLの燃糸文が施される。	加EIV
43-6 図版43	深鉢	遺構外	(4.5)	胴部の破片。	沈線による2本の懸垂文とLRの縄文が施される。	加EIII
43-7 図版43	深鉢	遺構外	(4.5)	口縁部の破片。	隆帯に沿って棒状工具の押し引きによる角押文がめぐり、RLの縄文が施される。	勝坂
43-8 図版43	深鉢	遺構外	(4.0)	口縁部の破片。	微隆起の隆帯に沿って棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	阿玉台
43-9 図版43	深鉢	遺構外	(5.3)	口縁部の破片。	口縁部の隆帯に沿って棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	阿玉台
43-10 図版43	深鉢	遺構外	(5.7)	胴部の破片。	へら状工具による刺突文と有筋線文が施される。	阿玉台
43-11 図版43	深鉢	遺構外	(5.4)	口縁部の破片でカギ状を呈する。	無文。	堀ノ内
43-12 図版43	深鉢	遺構外	(4.2)	口縁部の破片。	微隆起の隆帯に棒状工具による押し引きが施される。	堀ノ内
43-13 図版43	深鉢	遺構外	(2.8)	口縁部の破片。	口縁部下に微隆起の隆帯と押し引き・平行沈線が施される。	堀ノ内

第21表 K2-39土器・石器一覧表

図 版	種 別	出 土 位 置	口 径 器 高 底 径 cm	器形の特徴・部位	文 様 構 成	備 考
43-14 図版43	深鉢	遺構外	(4.9)	胴部の破片。	沈線による区画内にLRの縄文が施される。	堀ノ内
43-15 図版43	深鉢	遺構外	(3.1)	胴部の破片。	沈線が施される。	堀ノ内
43-16 図版43	土製円板	81住	3.8 0.9	胴部の破片を使用。	無文。	側面を打欠いたのみ。
43-17 図版43	土製円板	遺構外	4.3 1.2	胴部の破片を使用。	隆帯に竹管による押引きが施される。	側面を打欠いたのみ。
43-18 図版43	土製円板	81住	3.2 1.5	胴部の破片を使用。	Lの摺糸文が施される。	側面に擦痕有。
43-19 図版43	器台	81住	(6.4) 2.5	円盤状を呈する。	無文。	

図 版	種 別	出 土 位 置	石 質	長 さ 幅 厚 さ cm	重 量 g	備 考
44-1 図版43	砥石	78住	砂岩	(7.0) (7.1) (4.1)	232	表裏面に研磨痕が認められ、片側縁部に対して調整を行っている。
44-2 図版43	打製石斧	80住	砂岩	(7.3) (5.6) 1.4	70	両面調整で主刺離面を残し、両側縁部は階段状刺離が施されている。
44-3 図版43	打製石斧	80住	砂岩	(4.6) (3.7) 1.1	22	両面調整で、側縁部には階段状刺離が施される。刃部は円刃で弱凸強片刃である。
44-4 図版43	石錐	81住	チャート	(1.8) (0.9) 0.2	0.6	丁寧な押圧刺離を両面に施し、先端部は鋭利に仕上げられ、両側縁部は鋸歯状を呈する。
44-5 図版43	ビエス・エスキーユ	81住	頁岩	5.0 2.4 0.7	11.9	長軸方向の両端に打面を持ち、表面に自然面を残し、側縁部から一部は裏面にまで自然面が残っている。
44-6 図版43	打製石斧	81住	砂質粘板岩	(6.8) (3.9) 0.9	25	裏面に横方向からの主刺離面を残し、片側縁部は部分的に階段状刺離が施されている。
44-7 図版43	打製石斧	81住	砂岩	(7.8) (4.5) 1.8	85	両面調整で、側縁部は階段状刺離が施されている。節理面で破損している。
44-8 図版43	打製石斧	81住	頁岩	7.6 3.3 0.9	26	両面調整で、表裏面に横方向からの主刺離面を残している。両側縁部は階段状刺離が施されている。刃部は直刃で両平刃である。

第22表 K 2-39石器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
44-9 図版43	打製石斧	81住	安山岩	(6.4) (4.5) 2.4	81	両面調整で、側縁部には階段状剥離が施される。刃部は「V」形に調整され両凸刃である。
44-10 図版43	打製石斧	81住	閃緑岩	13.1 6.7 2.8	266	両面調整で全体的に粗雑である。刃部は直刃の両凸刃で刃潰れが認められる。
44-11 図版43	叩き石	81住	凝灰岩	13.2 6.8 3.9	526	両側縁は敲打調整が施され、表表面には顕著な研磨痕が認められる。欠損部周辺に敲打痕が認められ、叩き石として利用されたと考えられる。
44-12 図版44	磨石	81住	砂岩	13.5 7.3 4.3	615	表表面に整形のための研磨痕が認められる。叩き部は叩き痕と研磨痕が認められ、被加工物を平坦面で叩き潰し、縁辺部で摺り潰した際の使用痕である。
45-1 図版44	打製石斧	83住	砂岩	13.4 4.5 2.0	102	片刃調整で剥離は両側縁部から中心に向け押圧によって剥離されている。側縁部調整は階段状剥離が施されている。刃部は直刃で片凸刃である。
45-2 図版44	打製石斧	83住	閃緑岩	(10.7) (4.6) 1.3	76	片面調整で裏面には主刺離面を残し、側縁部調整は押圧剥離が施される。
45-3 図版44	打製石斧	83住	砂岩	(9.7) 4.9 2.4	113	片面調整で、右側縁部は急角度の階段状剥離が施され、左側縁部は粗い階段状剥離が施される。
45-4 図版44	打製石斧	83住	砂岩	(8.5) 6.2 2.0	90	両面調整で、表表面には横方向からの主刺離面を残す。側縁部には階段状剥離が施される。刃部は偏刃で長平短平片刃である。
45-5 図版44	スクレーパー	83住	頁岩	(5.4) 4.8 1.2	26	深い抉りが入り、剥片の両側に刃部が作られている。
45-6 図版44	石皿	83住	砂岩	61.2 21.8 15.2	23,000	大型で三角形の縁を利用して表表面に磨面と敲打痕が認められる。
45-7 図版44	石匙	83住	砂質粘板岩	12.5 13.0 1.5	111	大型粗製石匙で、明瞭な刃部はなく、つまみ部を作るための両側からの抉りが浅く調整されている。
46-1 図版44	打製石斧	82住	砂岩	(5.1) (4.7) (2.2)	70	両面調整で、両側縁部は階段状剥離が施されている。
46-2 図版44	打製石斧	82住	砂岩	(8.0) (4.4) 2.4	90	両面調整で側縁部は階段状剥離が施されている。

第23表 K2-39石器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
46-3 図版44	打製石斧	82住	砂岩	(7.1) (6.1) (2.7)	132	片面調整で、側縁部には階段状刻離が施される。刃部は円刃で給刃である。
46-4 図版45	石鏃	84住	チャート	2.2 1.6 0.4	0.7	丁寧な押圧刻離を両面に施し、先端部および両脚端部は鋭利に仕上げられており先側縁部は鋸歯状を呈する。
46-5 図版45	打製石斧	84住	砂岩	(6.7) (4.4) (2.5)	66	両面調整で、側縁部は階段状刻離が施されている。
46-6 図版45	打製石斧	84住	砂岩	(9.5) 5.8 2.5	153	両面調整で、両側縁部から交互刻離が行われ、階段状刻離が施されている。刃部はやや偏刃で両凸刃である。
46-7 図版45	打製石斧	23跡	砂岩	12.0 4.6 2.7	195	片面調整で、両側縁部とも階段状刻離の後に敲打による刃潰しが行われている。刃部は円刃で給刃である。
46-8 図版45	打製石斧	23跡	砂質粘板岩	11.3 4.8 1.8	115	片面調整で側縁部は階段状刻離が施される。刃部は直刃の両凸刃で研磨痕が認められる。
46-9 図版45	スタンプ	23跡	砂岩	7.8 7.8 4.0	320	研磨による調整が認められ、底面平坦部の摩耗痕は顕著ではない。
46-10 図版45	スタンプ	23跡	砂岩	(13.1) (9.2) 4.9	705	両側縁部に敲打調整が施され、底面の平坦部はやや摩耗している。
47-1 図版45	スタンプ	23跡	閃緑岩	(11.2) (10.8) (5.2)	830	両側縁部に敲打調整が施される。底面の平坦部は、あまり磨耗していない。
47-2 図版45	石鏃	遺構外	黒曜石	(2.2) (1.4) (0.6)	1.2	粗い押圧刻離を両面に施し、先端部は再調整の痕跡が認められる。
47-3 図版45	石鏃	遺構外	黒曜石	1.9 1.2 0.5	0.7	丁寧な押圧刻離を両面に施し、先端部、両脚端部は鋭利に仕上げられ、基部に浅い抉りが入る。
47-4 図版45	有茎石鏃	遺構外	チャート	(1.5) 1.4 0.4	0.7	丁寧な押圧刻離を両面に施し、側縁部は鋸歯状を呈する。
47-5 図版45	打製石斧	遺構外	砂岩	10.3 5.7 2.1	150	両面調整で裏面には主刻離面を残し、側縁部は階段状刻離が施される。刃部は直刃で片凸刃である。
47-6 図版45	打製石斧	遺構外	砂質粘板岩	11.5 6.2 2.4	182	片面調整で、側縁部は階段状刻離を施し、屈曲部に潰れ痕が認められる。刃部は直刃で給刃である。

第24表 K2-39石器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
47-7 図版45	打製石斧	遺構外	砂岩	12.5 5.1 2.6	190	片面調整で表面には主刻離面を残し、側縁部は階段状刻離が施される。刃部は偏刃で使用のために潰れている。
47-8 図版45	打製石斧	遺構外	頁岩	13.3 4.9 2.4	143	両面調整で、左右横方向から中心に向けて大きな押圧によって剥離されている。側縁部調整は階段状刻離が施されている。
47-9 図版45	打製石斧	遺構外	頁岩	14.1 4.3 2.0	116	両面調整で、側縁部調整は階段状刻離が施され、その後に刃潰しが行われている。刃部は直刃で両凸刃である。
47-10 図版45	打製石斧	遺構外	砂岩	9.3 3.9 1.2	60	両面調整で表表面に横方向からの主刻離面を残し、両側縁部は階段状刻離が施されている。刃部は直刃で片凸刃である。
47-11 図版45	磨製石斧	遺構外	硬灰岩	(8.2) (4.6) (2.9)	156	丁寧な研磨が施され、定角式を呈する。
47-12 図版45	凹み石	遺構外	砂岩	(6.1) (6.8) (4.7)	208	被熱し、破損したために凹み部が一部残存し、周囲には研磨痕が認められる。

### (3) 小結

今回の調査では概述してきたような各種遺構が検出された。その遺構分布を見ると、調査地の南西部に住居跡群がまとまり、弧を描くように検出されている。この住居跡群の外側には土坑・ピット等が分布している。

住居跡群の広がりには西側方向に伸びており、西武園分寺線を挟んで隣接する恋ヶ窪遺跡の集落と結びつくと考えられる。このことから恋ヶ窪遺跡の集落の広がりが明らかとなり、本調査地がその東限を示すことが推測される。住居跡群の外側に分布する土坑・ピットの状況は、恋ヶ窪遺跡の第15次調査<sup>(註1)</sup>の遺構分布状態と類似しており、検出されているTピットは集落の外郭を画する機能を有する遺構と考えられる。尚、今回の調査成果により、当初日立中央研究所構内遺跡を1遺跡として登録していたものを、構内の東側が羽根沢遺跡、西側を恋ヶ窪遺跡に変更した。

次に出土遺物について概略を述べると、検出された住居跡より出土している土器は縄文中期勝坂式期Ⅱ・Ⅲが主体をなす。したがってこれらの住居跡の時期も該期の所産と考えられる。また遺構外より出土している土器についても勝坂式期のものが多い。中期以外の出土土器として前期の諸磯式、後期の堀之内式の破片が僅かではあるが検出されている。その他土製品として、器台・土製円板等がある。石器は縄文時代の各種石器があるが、打製石斧が圧倒的に多い。

(註1)

恋ヶ窪遺跡の西辺地域に位置し、住居跡2軒、土坑8基が検出され、この土坑の内5基はTピットである。

### 3. K5-2次調査

調査地は羽根沢遺跡の南東部に位置し、プール更衣室建築部分の170.9m<sup>2</sup>について調査を行った。検出遺構は、屋外埋壘3基、集石4基、土坑6基及びピット64個である。遺物の出土は調査地西側部分が攪乱を受けているため少なく、東側に偏っている。

#### 1号屋外埋壘 (図面22 図版24)

〈位置〉調査地の東南隅にあり、東側4mの地点に2号埋壘、北側5mの地点には3号埋壘が検出されている。〈出土状態〉壘と深鉢形土器2個体が斜位に並び、周囲には礫が散っていた。埋壘を埋設した掘り込みは明確にとらえられなかったが、径0.75mの範囲が周囲のⅢb層よりやや暗い暗茶褐色土を呈していた。〈出土遺物〉埋設土器は(図面48-1・2)の2個体で、内鉢形土器の内部より(図面53-1)の打製石斧が検出されている。壘はほぼ完形で、頸部に環状の把手がつく器形である。深鉢は胴部上半部分が欠失している。〈時期〉2点の埋設土器より加曾利E式期第VI段階である。

#### 2号屋外埋壘 (図面22 図版24)

〈位置〉調査地東南隅に位置し、東側に2号集石跡がある。〈出土状態〉深鉢形土器が重なり合い正位に埋設されている。遺存状態はあまり良好でなく、埋設土器の破片が内部に倒れ込んだ状態で検出された。埋壘を埋設した掘り込みは明確に検出できなかったが、径0.4mの範囲で1号埋壘と同じくやや暗い暗茶褐色土を呈していた。〈出土遺物〉埋設土器は(図面48-3・5)の深鉢形土器が2個体であり、内1個は底部から胴部の完形品で他は胴部の破片である。埋壘内からは他の遺物は出土していない。〈時期〉2個体ともに加曾利E式期第VI段階の遺物であり、該期と考えられる。

#### 3号屋外埋壘 (図面22 図版24)

〈位置〉調査地東側中央に位置し、北側には3号集石跡がある。〈出土状態〉深鉢形土器が正位に埋設されている。遺存状態はあまりよくなく埋設土器の破片が外側に倒れ込んだ状態で出土した。埋壘を埋設した掘り込みも明瞭には検出できず、1・2号と同じく周囲のⅢb層に比べやや暗い暗茶褐色を呈した掘り込みが認められた。〈出土遺物〉埋設土器は(図面48-4)で、口縁の一部と胴部下端と底部を欠失している。埋壘からは何も出土していない。〈時期〉加曾利E式期第VI段階であろう。

#### 1号土坑 (図面23 図版24)

〈位置〉調査地の北西にあり、4号集石と5号土坑に隣接する。〈形状〉西側部分が擾乱により損失している。残存規模は、長径1.1m、短径0.7mで楕円形を呈する形状であると考えられる。ローム面からの掘り込みは16cmと非常に浅い。断面形は皿状を呈し、覆土は暗茶褐色土でローム粒子が多く含まれる土層が堆積している。〈出土遺物〉本土坑内より(図面52-22)の耳栓と(図面54-3)の打製石斧が出土している。〈時期〉中期に該当すると考えられる。

#### 2号土坑(図面23 図版25)

〈位置〉調査地の西側中央にて検出される。〈形状〉土坑の半分を擾乱により破壊され、残存部分が長径1.1m、短径0.5mを測る。ローム面からの掘り込みは27cmで断面形は不定形である。覆土は暗茶褐色土にローム粒子・ロームブロックが含まれる二層が堆積している。〈出土遺物〉本土坑内より(図面53-5)の剝片石器が出土している。〈時期〉不詳である。

#### 3号土坑(図面23 図版25)

〈位置〉調査地の北東隅にて検出され、西側に4号土坑がある。〈形状〉2個の土坑が重複した形で検出された。長径1.8m、短径1.0mで楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは38cmで、断面形は皿状+盤形状である。東側の壁に径0.5m、底面からの深さ20cmのピットがある。覆土はローム粒子やロームブロックを多く含む暗茶褐色土が充填される。〈出土遺物〉土坑内より(図面48-6・7、49-1)の土器胴部破片3点と(図面53-2・3・4)の打製石斧3点が出土している。〈時期〉出土遺物より加曾利E式期第VI~VII段階と考えられる。

#### 4号土坑(図面23 図版25)

〈位置〉調査地東側に位置し、南に3号集石跡、東に3号土坑がある。〈形状〉長径1.7m、短径1.4mの楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは23cmで、断面形は不定形である。土坑の内部に径0.5mで深さ10cm、壁に径0.4mと0.3mで深さ40cm前後のピットがある。覆土はローム粒子やロームブロックを多く含む暗茶褐色土が堆積している。〈出土遺物〉土坑内より(図面49-2)の土器胴部破片が1点出土している。〈時期〉出土遺物より勝坂式期と考えられる。

#### 5号土坑(図面23 図版25)

〈位置〉調査地北西隅に位置し、土坑の上面にやや位置が西にずれて4号集石跡がある。また隣接して1号土坑が検出されている。〈形状〉長径1.2m、短径0.9mで楕円形を呈する。ローム面からの掘り込みは15cmで非常に浅く、断面形は皿状を呈する。覆土はロームブロックを含む暗茶褐色土が堆積している。〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。



#### 6号土坑 (図面23 図版25)

〈位置〉調査地西南隅に位置する。〈形状〉長径1.6m、短径1.0mでひょうたん形を呈する。ローム面からの掘り込みは20cmで断面形は皿状である。覆土はローム粒子・スコリア粒子を含む暗茶褐色土が堆積している。〈出土遺物〉なし 〈時期〉不詳である。

#### 1号集石 (図面24 図版26)

〈位置〉調査地の中央にて検出される。〈形状〉長径0.68m、短径0.53m、厚さ15cmの範囲に礫の集中が認められる。集石下には、径0.4mで厚さ7cmの焼土が堆積しており、その下にピットが検出される。ピットの規模は、長径0.6m、短径0.55mで隅丸菱形を呈する。IIIb層より掘り込まれ深さは65cmで断面形は逆台形である。覆土は、上部には焼土粒子が含まれる暗茶褐色土が、下位にいくにつれてロームブロックを含む茶褐色土が堆積している。〈礫の状態〉(図面53-6)の花崗岩の石皿破片が1点出土しており、他は砂岩質の礫で、被熱され赤茶褐色に変色している。〈時期〉集石内より時期を決定出来る遺物は出土しないため不詳である。

#### 2号集石 (図面24 図版26)

〈位置〉調査地の南東隅に位置し、西側に2号埋室がある。〈形状〉長径0.6m、短径0.45m、厚さ5cmの範囲に礫の集中が認められる。集石下に土坑等の掘り込みは検出されなかったが、礫の周辺は被熱された痕跡がある。〈礫の状態〉石質は砂岩が主体で大半が被熱され灰白色が赤茶褐色に変色して破砕している。〈時期〉集石内から遺物が検出されていないため不詳である。

#### 3号集石 (図面24 図版26)

〈位置〉調査地の東側中央に位置し、北側に4号土坑、南側に3号埋室がある。〈形状〉長径0.69m、短径0.58m、厚さ15cmの範囲に礫が集中している。集石下には土坑等の掘り込みは検出されていない。〈礫の状態〉石質は砂岩系のもので大型のものと小型のものが集中している。大半が被熱され赤茶褐色に変色し破砕し、礫の周辺や下面にも被熱された痕跡が認められる。集石内より(図面49-4)の土器胴部の破片が1点出土している。〈時期〉出土遺物より加曾利E式期第VI段階と考えられる。

#### 4号集石 (図面24 図版26)

〈位置〉調査地の北西隅で、1号土坑と5号土坑の上面にて検出された。〈形状〉長径0.72m、短径0.47m、厚さ5cmの範囲に礫の集中が認められる。集石下には土坑等の掘り込みは検出されなかったが、集石の周辺や下には被熱された痕跡が認められた。〈礫の状態〉砂岩系の礫が主体であり、他の集石に比べあまり被熱されておらず破砕したものが少ない。〈時期〉無文の

土器片が1点出土しており、おそらく加曾利E式期と考えられる。

### ビット (図版21 図版22・23)

〈位置〉調査地の東側に集中して検出されており、全体の総数は64個である。〈形状〉径0.3~1.0 mで、深さは30~70cmの円形や楕円形を呈し、覆土は暗茶褐色土でローム粒子やスコリア粒子が含まれる土層が充填されている。〈時期〉ビット25・26より(図版49-5・6)の勝坂式期IIの土器片が出土しているが、他のビットからは遺物が出土していない。おそらく勝坂式期から加曾利E式期の所産であろうと考えられる。

### 遺構外遺物

調査地内包含層の遺物分布状況は、西側地域に擾乱が多く、東側に偏って出土している。土器類は中期後半より後期前半で加曾利E式期第V・VI・VII段階のものと称名寺期のものが出土している。石器類では磨石が主体を占め、次に打製石斧で、磨製石斧、石匙などがある。特殊遺物として器台の破片が2点出土している。

### (2) 出土遺物

遺物は、縄文土器、石器があり、コンテナ12箱ほどの量が出土している。これらの中で屋外埋蔵や、土坑、集石、ビットより検出されたものと、遺構外である遺物包含層より出土し図示が可能なものを一覧表にして記述した。

第25表 K5-2 土器一覧表

図 面 図 版	種 別 器 形	出 土 位 置	口 径 器 高 底 径 cm	器 形 の 特 徴 ・ 部 位	文 様 構 成	備 考
48-1 図版46	甕	1埋	(32.8) 35.2 8.0	2対の環状把手が頸部につく器形である。	隆帯による楕円区画内はRLRの縄文で胴部下半には縦位の条線文が施される。	加EVI
48-2 図版46	深鉢	1埋	(18.1) 7.4	胴部・底部。	RLの縄文と沈線による懸垂文が施される。	加EVI
48-3 図版46	深鉢	2埋	(12.4)	胴部の破片。	櫛状工具によるタテ・ヨコ方向の条線文が施される。	加EVI
48-4 図版46	深鉢	3埋	(37.2) (27.0) (9.2)	口縁部・頸部・胴部。 キャリバー形を呈する。	沈線による「U」「Π」「S」状文と刺突文に回転方向がことなるRLの縄文が施される。	加EVI
48-5 図版46	深鉢	2埋	(34.0) 7.0	胴部・底部。	沈線による「U」「Π」状文とワラビ手状文にRLの縄文が施される。	加EVI

第26表 K5-2 土器一覧表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
48-6 図版46	深鉢	3土	(10.3)	胴部の破片。	隆帯に棒状工具の押圧による兩垂文が施される。	加EVI
48-7 図版46	深鉢	3土	(9.7)	胴部の破片。	沈線による2本の懸垂文に綾杉文が施される。	加EVI
49-1 図版46	深鉢	3土	(10.4)	胴部の破片。	隆帯にLrの縄文が施される。	加EVI
49-2 図版46	深鉢	4土	(6.5)	胴部の破片。	隆帯に沿ってヘラ状工具による刺突文と波状沈線が施される。	勝坂II
49-3 図版46	深鉢	1集	(4.4)	胴部の破片。	沈線による懸垂文とLRの縄文が施される。	加EVI
49-4 図版46	浅鉢	3集	(6.4) (12.8)	胴部・底部の破片。	条線が施される。	加EVI
49-5 図版46	深鉢	ピット25	(18.2) (18.8)	口縁部・胴部の破片。	口縁部に竹管による沈線をめぐらし、RLの縄文が施される。	勝坂II
49-6 図版46	深鉢	ピット26	(4.3)	胴部の破片。	隆帯に沿ってヘラ状・棒状工具の押し引きによる角押文が施される。	勝坂II
49-7 図版46	深鉢	遺構外	(16.5) (4.4)	口縁部・頸部の破片。	口縁部に沈線と棒状工具による刺突、頸部にヘラ状工具による刺突が施される。	加E I
49-8 図版46	深鉢	遺構外	(13.8) (4.0)	口縁部の破片。	隆帯とLの擦糸文が施される。	加E I
49-9 図版47	深鉢	遺構外	(6.9)	胴部の破片。	隆帯による懸垂文と条線が施される。	加EIV
49-10 図版47	深鉢	遺構外	(6.5)	口縁部の破片。	沈線による区画内にヘラ状工具による刺突が施される。	加E V
49-11 図版47	深鉢	遺構外	(10.9)	口縁部の破片。	沈線による楕円区画内にRLの縄文を施す。	加E V
49-12 図版47	深鉢	遺構外	(6.8)	口縁部の破片。	隆帯による楕円区画内にRLRの縄文を施す。	加E V
49-13 図版47	深鉢	遺構外	(5.0)	口縁部の破片。	沈線による区画内に条線が施される。	加E V
49-14 図版47	深鉢	遺構外	(8.0)	胴部の破片。	沈線による懸垂文とLRの縄文が施される。	加E V
49-15 図版47	深鉢	遺構外	(7.3)	胴部の破片。	沈線による区画内にLRの縄文が施される。	加E V
49-16 図版47	深鉢	遺構外	(8.4)	胴部の破片。	RLの縄文を施し、沈線の区画内を磨り消す。	加E V
49-17 図版47	深鉢	遺構外	(7.2)	胴部の破片。	沈線による懸垂文とRLの縄文を施し、磨り消しが行われる。	加E V
49-18 図版47	深鉢	遺構外	(7.0)	胴部の破片。	沈線による懸垂文とLRの縄文が施される。	加E V

第27表 K5-2 土器一覧表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
50-1 図版47	深鉢	遺構外	(8.8)	口縁部・頸部の破片。	隆帯の区画内に RL の縄文が施される。	加E V
50-2 図版47	深鉢	遺構外	(7.5)	胴部の破片。	RL の縄文に沈線による蛇行および2本単位の懸垂文が施される。	加E V
50-3 図版47	深鉢	遺構外	(6.0)	胴部の破片。	LR の縄文に沈線による懸垂文・蛇行懸垂文が施される。	加E V
50-4 図版47	深鉢	遺構外	(7.5)	胴部の破片。	沈線による懸垂文と綾杉文が行われ、LR の縄文が施される。	曾利
50-5 図版47	深鉢	遺構外	(4.0)	胴部の破片。	沈線による懸垂文と綾杉文が施される。	曾利
50-6 図版47	深鉢	遺構外	(5.4)	胴部の破片。	沈線による懸垂文と綾杉文が施される。	曾利
50-7 図版47	深鉢	遺構外	(6.1)	口縁部の破片。	LR の縄文に棒状工具による刺突文と沈線による「 $\Omega$ 」状文が施される。	加E VI
50-8 図版47	深鉢	遺構外	(5.2)	口縁部の破片。	RL の縄文に棒状工具による刺突文と沈線による「 $\Omega$ 」状文が施される。	加E VI
50-9 図版47	深鉢	遺構外	(4.9)	口縁部の破片。	LR の縄文に棒状工具による円形刺突文と沈線による「 $\Omega$ 」状文が施される。	加E VI
50-10 図版47	深鉢	遺構外	(5.2)	口縁部の破片。	棒状工具による円形刺突文と沈線が施される。	加E VI
50-11 図版47	深鉢	遺構外	(9.0)	口縁部の破片。	口縁部下に沈線がめぐり、RL の縄文と沈線による「 $\Omega$ 」状文が施される。	加E VI
50-12 図版47	深鉢	遺構外	(8.0)	口縁部の破片。	口縁部下に隆帯がめぐり LR の縄文が施される。	加E VI
50-13 図版47	深鉢	遺構外	(5.9)	口縁部の破片。	沈線による区画内に LR の縄文が施される。	加E VI
50-14 図版48	深鉢	遺構外	(7.2)	口縁部の破片。	口縁部より RL の縄文と沈線が施される。	加E VI
50-15 図版48	深鉢	遺構外	(9.2)	口縁部の破片。	RL の縄文と沈線による「 $\Omega$ 」状文が施される。	加E VI
50-16 図版48	深鉢	遺構外	(8.5)	口縁部の破片。	回転方向の異なる LR の縄文に沈線による「 $\Omega$ 」状文とワラビ手状文が施される。	加E VI
50-17 図版48	深鉢	遺構外	(4.0)	口縁部の破片。	回転方向の異なる LR の縄文と沈線による「 $\Omega$ 」状文が施される。	加E VI
50-18 図版48	深鉢	遺構外	(4.5)	口縁部の破片。	回転方向の異なる LR の縄文と沈線が施される。	加E VI

第28表 K5-2土器一覽表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
50-19 図版48	深鉢	遺構外	(2.9)	口縁部の破片。	沈線による「凵」状文が施される。	加EVI
51-1 図版48	深鉢	遺構外	(5.4)	口縁部の破片。	隆帯による楕円区画内に条線が施される。	加EVI
51-2 図版48	深鉢	遺構外	(3.6)	口縁部の破片。	口縁部下に沈線がめぐり回転方向の異なるLRの縄文が施される。	加EVI
51-3 図版48	深鉢	遺構外	(4.6)	胴部の破片。	RLの縄文と沈線が施される。	加EVI
51-4 図版48	深鉢	遺構外	(6.9)	胴部の破片。	RLの縄文と沈線による「凵」状文が施される。	加EVI
51-5 図版48	深鉢	遺構外	(8.2)	胴部上端の破片。	微隆起の隆帯による区画内にLRの縄文が施される。	加EVI
51-6 図版48	深鉢	遺構外	(6.0)	胴部の破片。	RLの縄文が施され2条の沈線が垂下する。	加EVI
51-7 図版48	深鉢	遺構外	(6.0)	胴部の破片。	LRの縄文と2条の沈線が施される。	加EVI
51-8 図版48	深鉢	遺構外	(5.3)	頸部の破片。	RLの縄文が施され2条の沈線がめぐる。	加EVI
51-9 図版48	深鉢	遺構外	(10.6)	胴部の破片。	LRの縄文が施され2条の沈線が垂下し、磨り消しが行われている。	加EVI
51-10 図版48	深鉢	遺構外	(8.2)	胴部の破片。	LRの縄文が施され3条の沈線が垂下する。	加EVI
51-11 図版48	深鉢	遺構外	(13.1)	胴部の破片。	微隆起の隆帯による区画内にLRの縄文が施される。	加EVI
51-12 図版48	深鉢	遺構外	(12.0)	胴部の破片。	RLの縄文が施され3条の沈線が垂下する。	加EVI
51-13 図版48	深鉢	遺構外	(4.5)	胴部の破片。	微隆起の隆帯による区画内にLRの縄文が施される。	加EVI
51-14 図版48	深鉢	遺構外	(4.8)	胴部の破片。	微隆起の隆帯による区画内にLの縄文が施される。	加EVI
51-15 図版48	深鉢	遺構外	(6.1)	胴部の破片。	微隆起の隆帯による区画内にLの縄文が施される。	加EVI
51-16 図版48	深鉢	遺構外	(5.8)	口縁部下の破片。	口縁部下に沈線がめぐり、LRの縄文が施される。	加EVI
51-17 図版48	深鉢	遺構外	(6.1)	口縁部の破片。	口縁部下に沈線がめぐり、櫛状工具による条線が施される。	加EVI
51-18 図版48	深鉢	遺構外	(6.5)	口縁部の破片。	縦方向の条線が施される。	加EVI
51-19 図版49	深鉢	遺構外	(6.8)	口縁部の破片。	斜め方向の条線が施される。	加EVI

第29表 K5-2 土器一覽表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
51-20 図版49	深鉢	遺構外	(5.5)	口縁部の破片。	斜め方向の条線が施される。	加EVI
51-21 図版49	深鉢	遺構外	(4.1)	口縁部の破片。	縦方向の条線が施される。	加EVI
52-1 図版49	深鉢	遺構外	(9.2)	胴部の破片。	櫛状工具による波状条線が施される。	加EVI
52-2 図版49	深鉢	遺構外	(7.2)	胴部の破片。	櫛状工具による波状条線が施される。	加EVI
52-3 図版49	深鉢	遺構外	(7.0)	胴部の破片。	櫛状工具による縦方向の条線が施される。	加EVI
52-4 図版49	深鉢	遺構外	(5.3)	胴部の破片。	櫛状工具による縦横方向の条線が施される。	加EVI
52-5 図版49	深鉢	遺構外	(5.0)	胴部の破片。	櫛状工具による円弧状の条線が施される。	加EVI
52-6 図版49	深鉢	遺構外	(6.3)	胴部の破片。	櫛状工具による波状条線が施される。	加EVI
52-7 図版49	深鉢	遺構外	(3.9)	胴部の破片。	櫛状工具による波状条線が施される。	加EVI
52-8 図版49	深鉢	遺構外	(3.5)	胴部の破片。	櫛状工具による波状条線が施される。	加EVI
52-9 図版49	深鉢	遺構外	(7.2)	胴部の破片。	沈線による蛇行懸垂文と条線が施される。	加EVI
52-10 図版49	深鉢	遺構外	(5.8)	胴部の破片。	斜め方向の平行条線と粘土紐の貼付が行われ、LRの縄文が施される。	曾利
52-11 図版49	深鉢	遺構外	(2.8)	胴部の破片。	山形の押し型文が施される。	早期
52-12 図版49	深鉢	遺構外	(5.8)	把手部分の破片。	隆帯と沈線による区画内に円形竹管による刺突文とRの縄文が施される。	称名寺
52-13 図版49	深鉢	遺構外	(4.3)	口縁部の破片。	沈線による区画内にLRの縄文が施される。	称名寺
52-14 図版49	深鉢	遺構外	(3.0)	口縁部の破片。	沈線による区画が施される。	称名寺
52-15 図版49	深鉢	遺構外	(2.7)	口縁部の破片。	沈線による区画が施される。	称名寺
52-16 図版49	深鉢	遺構外	(3.4)	胴部の破片。	沈線による区画内にLRの縄文が施される。	称名寺
52-17 図版49	深鉢	遺構外	(5.7)	胴部の破片。	沈線による区画内にLRの縄文が施される。	称名寺

第30表 K5-2土器・石器一覧表

図面 図版	種別 器形	出土 位置	口径 器高 底径 cm	器形の特徴・部位	文様構成	備考
52-18 図版49	深鉢	遺構外	(4.1)	胴部の破片。	沈線による区画内に棒状工具による刺突文が施される。	称名寺
52-19 図版49	深鉢	遺構外	(3.5)	胴部の破片。	LRの縄文と沈線が施される。	称名寺
52-20 図版49	有孔土器	遺構外	(8.5)	口縁部・頸部の破片。	頸部に沈線がめぐり縦方向の条線が施される。	口縁部 外側より有孔。
52-21 図版49	土製円板	遺構外	4.1 2.1	胴部の破片を使用。	LRの縄文が施される。	側面を 打欠いたのみ。
52-22 図版49	耳栓	1土	2.0 1.9	完形品。	孔径8mmの穴が貫通している。	両端に 朱が付着する。
52-23 図版49	器台	遺構外	(2.9) (10.4)	台部の破片。	側面部に有孔。	
52-24 図版49	器台	遺構外	(2.5)	台部の破片。	側面部に有孔。	
図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
53-1 図版50	打製石斧	1埋	砂岩	15.4 6.1 2.2	240	片面調整で、両側縁部は階段状剥離を施し、刃部は円刃で両平刃である。
53-2 図版50	打製石斧	3土	砂岩	14.2 4.9 2.1	145	両面調整で交互の横方向からの剥離が行われる。側縁部は階段状剥離によって調整され、右側縁部には潰れが認められる。刃部は円刃で両凸刃である。
53-3 図版50	磨石	3土	砂岩	14.4 5.4 2.9	400	敲打によって整形した後、丁寧な研磨が行われている。磨面は表裏面の全面におよび、方向は長軸に対してほぼ平行である。
53-4 図版50	打製石斧	3土	安山岩	9.5 5.3 1.4	80	片面調整で裏面は右横方向からの主剥離面を大きく残し、両側縁部は階段状剥離を施し、刃部は直刃の弱凸強凸平刃を呈する。
53-5 図版50	横刃型剥片石器	2土	砂質粘板岩	12.2 6.0 1.9	92.4	扇形の剥片を素材とし、刃部は剥片の鋭利な縁部部を利用している。
53-6 図版50	石皿	1集	花崗岩	19.1 20.5 10.4	4,400	大型で断面が三角形の縁を利用しているが、とくに顕著な磨面を持たない。
54-1 図版50	石鏃	遺構外	黒曜石	2.5 1.85 0.6	1.8	両側縁部の刃部調整は押圧剥離による。

第31表 K5-2 石器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備 考
54-2 図版50	打製石斧	遺構外	砂質粘 板 岩	14.2 9.9 1.9	275	両面調整で、表裏面に横方向からの主側縁面を残し、刃部、基部、袈り部は階段状剥離によって調整される。刃部は円刃で片平刃である。
54-3 図版50	打製石斧	1土	砂 岩	(11.0) 6.1 2.0	105	両面調整で基部と刃部の区別は浅い袈りによって分けられ、袈り部分は階段状剥離調整の後に敲きによって調整されて、摩滅が認められる。刃部は「V」字形を呈し、両平刃である。
54-4 図版50	打製石斧	遺構外	安山岩	(8.25) (4.25) 1.45	64.5	両面調整で裏面は右横方向からの主側縁面を大きく残す。両側縁部は階段状剥離を施す
54-5 図版51	打製石斧	遺構外	砂 岩	15.3 7.0 2.7	255	両面調整で表裏面とも左右横方向の剥離、両側縁部は階段状剥離を施す。刃部は円刃で両平刃である。
54-6 図版51	打製石斧	遺構外	砂 岩	12.3 5.4 2.3	158	両面調整で表裏面とも左右横方向の剥離が施される。両側縁部は階段状剥離を施し、刃部は偏刃で長平短片刃である。
54-7 図版51	打製石斧	遺構外	砂 岩	12.9 6.2 2.7	245	片面調整で裏面には横方向からの主側縁面を残す。側縁部調整は階段状剥離を施し、顕著な潰れ痕が認められる。刃部は偏刃の両平刃で剥離した部分に微調整を加えており、再調整の可能性はある。
54-8 図版51	打製石斧	遺構外	砂 岩	11.65 5.25 1.9	125	両面調整で表裏面とも不定方向からの剥離。両側縁部は階段状剥離を施し、刃部は偏刃で両平刃である。
54-9 図版51	打製石斧	遺構外	砂 岩	11.9 4.3 1.5	65	両面調整で表裏面とも左右横方向からの大きな剥離が施される。側縁部は押圧剥離で刃部は偏刃の両平刃である。
54-10 図版51	打製石斧	遺構外	砂 岩	11.7 4.9 1.8	110	片面調整で、裏面には左右横方向からの剥離が行われる。側縁部は階段状剥離によって調整される。刃部は「V」字形の弱平弦凸刃に仕上げる。
55-1 図版51	磨製石斧	遺構外	凝灰岩	(11.36) 5.0 3.2	345	定角式磨製石斧で両側縁および頭部が敲打、研磨調整されている。
55-2 図版51	粗製石匙	遺構外	砂 岩	8.8 9.9 1.3	85	不定形剥離を素材とし、縁辺部の表裏面に刃部調整を施す。つまみ部には両側から深い袈りが施され、そこに摩滅痕が認められる。
55-3 図版51	磨 石	遺構外	砂 岩	6.85 5.45 5.4	250	やや歪んだ球状で、全体に敲打調整。



第32表 K5-2 石器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備 考
55-4 図版52	磨石	遺構外	花崗岩	(9.85) 10.9 (4.3)	612	約1/2を欠損している。表裏面に磨面を持ち、 端部は斧状である。
55-5 図版51	磨石	遺構外	砂岩	9.55 7.0 5.65	530	横長の球状で、全体に敲打調整の後、部分的 に顕著な磨面を持つ。
55-6 図版52	磨石	遺構外	砂岩	10.0 3.5 3.0	120	磨面は部分的にあり、特にどの部分が著し いというわけではない。
55-7 図版52	磨石	遺構外	砂岩	9.2 2.75 1.9	70	磨面は左下側縁部で、浅く湾曲して扶れて いる。磨面の方向は側縁部と平行であるが、 他の面にも不定方向の磨面を持つ。
55-8 図版52	磨石	遺構外	泥岩	12.7 5.2 2.8	275	磨面は右側縁部で、中央部に集中し、浅く 湾曲して扶れている。磨面の方向は側縁部 方向と平行である。
55-9 図版52	磨石	遺構外	砂岩	12.7 4.3 2.8	205	磨面は右側縁部で屈曲部に集中する。磨面 の方向は側縁部方向に左下がりの斜方向で ある。
56-1 図版52	磨石	遺構外	砂岩	12.0 4.8 2.5	200	磨面は平坦面で、全面におよび中央部がや や浅く扶れる。磨面の方向は長軸に対し、 直交方向である。
56-2 図版52	磨石	遺構外	砂岩	15.0 5.2 2.8	275	磨面は平坦面にあり、全面におよぶ。磨面 の方向は長軸に対して左下がりの斜方向で ある。
56-3 図版52	磨石	遺構外	砂岩	17.0 5.0 3.2	360	磨面は平坦面にあり、ほぼ全面におよぶ。 磨面の方向は長軸に対して右下がりの斜方 向である。
56-4 図版52	磨石	遺構外	砂岩	12.7 5.0 2.6	235	磨面は平坦面にあり、磨面の方向は不定方 向である。
56-5 図版52	磨石	遺構外	砂岩	(14.8) 5.5 2.1	232	磨面は平坦面にあり、磨面の方向は長軸に 平行している。
56-6 図版52	磨石	遺構外	砂岩	13.2 5.7 2.4	275	磨面は平坦面と右側縁部にある。磨面の方 向は平坦面では不定方向で右側縁部は長軸 に平行している。
57-1 図版53	磨石	遺構外	砂岩	14.2 4.7 2.7	226	磨面は平坦面にあり、方向は長軸に平行し ている。
57-2 図版53	磨石	遺構外	砂岩	12.8 4.4 2.9	225	磨面は下面で、端部に敲打痕が認められる。 磨面の方向は長軸に対し、ほぼ直交方向で ある。

第33表 K5-2 石器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	材質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
57-3 図版53	磨石	遺構外	砂岩	10.8 4.0 3.0	200	各面に磨面があり、左側縁部に敲打痕が認められる。方向は長軸に対してほぼ直交方向である。
57-4 図版53	磨石	遺構外	砂岩	13.4 4.6 2.85	230	磨面は上面と下面で、磨面の方向は2面とも長軸に平行している。
57-5 図版53	磨石	遺構外	砂岩	15.3 4.7 3.7	325	各面に磨面があり、広端部に敲打痕が認められる。方向は長軸に対してほぼ直交方向である。
57-6 図版53	磨石	遺構外	砂岩	11.7 4.8 3.1	240	磨面は全体に認められるが、方向は不規則である。
57-7 図版53	磨石	遺構外	砂岩	10.8 4.4 3.4	235	磨面は全体に認められるが、方向は不規則である。
58-1 図版53	磨石	遺構外	砂岩	15.1 4.7 2.9	260	柄の部分は丁寧な研磨され先端部分は長軸にはほぼ直交方向に磨面が認められる。左側面に長軸に平行する磨面がある。
58-2 図版53	磨石	遺構外	砂岩	19.1 6.2 3.2	465	側縁部は敲打の後に丁寧な研磨によって調整し、磨面は表裏の平坦面で、方向は長軸に対してほぼ直交方向である。
58-3 図版53	磨石	遺構外	砂岩	12.35 3.05 2.2	125	敲打の後に丁寧な研磨によって棒状に整形し、磨面は2ヶ所で、長軸方向に対して右下がりである。
58-4 図版53	磨石	遺構外	千枚岩	13.8 3.3 1.1	80	側縁調整した後に研磨によって整形し、磨面は裏面の全面に認められる。2条の極めて浅い溝が平行して走る。
58-5 図版53	磨石	遺構外	砂岩	(6.25) (4.4) (1.6)	78	全面に丁寧な研磨痕が認められ、平坦部には長軸方向に対して平行な磨面が認められる。
58-6 図版54	磨石	遺構外	砂岩	15.3 4.2 2.0	150	敲打によって整形し、磨面は裏面の全面に認められ、方向は長軸に対して平行である。
58-7 図版54	磨石	遺構外	砂岩	14.8 4.4 3.8	377	両側の側縁面を敲打によって平坦に整形し、下端部は垂直に切断し研磨している。磨面は剥皮面を利用し、方向は長軸にほぼ平行である。
58-8 図版54	磨石	遺構外	砂岩	(12.75) (4.15) (2.4)	165	顕著な磨面は不明であるが、下端部は斜方位の切断が認められる。
58-9 図版54	磨石	遺構外	砂岩	12.0 4.7 2.0	125	敲打によって整形した後、研磨が行われている。

第34表 K5-2 石器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
59-1 図版54	剝片	遺構外	砂岩	8.6 5.65 1.8	60	先土器時代の縦長剝片であり、打面は礫打面で、バルブが発達している。刃部調整等は観察されない。
59-2 図版54	打素	遺構外	砂岩	11.95 8.05 3.9	405	礫の左側縁は交互剝離によって刃部を作り、右側縁には階段状剝離の後、敲打調整を行っている。
59-3 図版54	打素	遺構外	砂岩	5.85 3.6 1.5	35	両面調整で、裏面は短軸方向より両側からの剝離によって浅い溝状を呈する。刃部は直刃で両凸刃で研磨が施される。
59-4 図版54	礫器	遺構外	安山岩	13.3 12.3 5.3	880	先土器時代の礫で一部に両面からの連続的な剝離によってやや弧状の刃部を作り出している。

### (3) 小結

今回の調査で検出された遺構の主なものは屋外埋壘3基、集石4基、土坑6基および多数のピットである。このような遺構の分布状況について窓ヶ窪遺跡の調査例を用いて概要を述べることにする。

窓ヶ窪遺跡のこれまで実施してきた発掘調査において、今回と同じ傾向で遺構分布する調査地は第12次調査地で遺跡の中央に位置する。報告によると、<sup>(註1)</sup>「遺跡の中央域に位置し、土壌・集石・屋外埋壘といった遺構が主体をなしている。この地点は住居跡群の内側に当たること、土壌同士が重複することなく構築され硬玉製大珠や粗製石匙といった副葬品と考えられる遺物を伴っていること、屋外埋壘等葬送に関する遺構が存在することなどから集落内側に設けられた「墓域」と考えられる。」と述べられている。したがって窓ヶ窪遺跡の第12次調査地と同じ内容の遺構が分布して検出された本調査地も、羽根沢遺跡の集落の中央域で墓域的な性格を有する地域と考えられる。おそらく本調査地外に住居跡等の集落が存在する可能性が高い。

次に出土遺物について概略を述べる。検出された屋外埋壘の土器は加曾利E式期VI段階のものである。土坑や遺構外から出土している土器もほとんどが加曾利E式期V・VI段階のものである。したがって周辺に該期の集落が存在すると推測される。石器類については圧倒的に磨石が多いことが特徴で、これらの中の主体をなすものは棒状を呈する磨石である。

#### (註1)

窓ヶ窪遺跡第12次調査地において、住居跡3軒、屋外埋壘3基、集石5基、土坑17基が検出されている。

#### 4. K5-5次調査

食堂棟建設予定地1,037.13㎡の本調査を実施した結果、23個のピットが検出された。調査地は、旧研究棟等の基礎により大部分が攪乱を受けており、遺構・遺物の数が少ない。

##### (1) 検出遺構

###### ピット (図面25 図版27)

〈位置〉調査地の東南と東北の隅に多く確認されており、中央部分は旧建築物の基礎で攪乱され、遺構が検出されなかった。〈形状〉径0.3～0.7mで深さ10～30cm前後で円形や楕円形を呈する。覆土は暗茶褐色土が充填される。〈時期〉ピットより遺物が出土していないため不詳である。

##### (2) 出土遺物

遺物は、攪乱中より土器片や石器片がコンテナ0.1箱ほど出土している。図示出来るものは打製石斧1点のみで一覧表に記述した。

第35表 K5-5石器一覧表

図面 図版	種別	出土 位置	石質	長さ 幅 厚さ cm	重量 g	備考
59-5 図版54	打製石斧	攪乱	砂岩	13.6 6.6 2.5	195.2	側面調整で表面には横方向からの大きな剝離が連続し側縁部は階段状剝離を施す。刃部は押圧剝離で調整され直刃の片凸刃である。

##### (3) 小結

調査の結果、羽根沢遺跡の北西地域の遺構、遺物の分布状況が明らかになった。本調査地において検出された遺構は、ピットのみで他の遺構は検出されておらず、遺物も非常に少ない。これは調査地の大半が、旧建築物基礎による攪乱のために遺構確認面よりも深く削平されていることによると考えられる。しかしピットが検出されている部分では遺物包含層であるⅢ層が残っており、そこから遺物が検出されていないことから、おそらく遺構・遺物が希薄な地域であろう。このような状況は忍ヶ窪遺跡第8次調査地<sup>(註1)</sup>の遺構分布状態と類似しており、本遺跡における居住域の外縁部の様相を示していると考えられる。

##### (註1)

第8次調査地は、忍ヶ窪遺跡居住域の北側に位置し、検出されている縄文時代遺構は土坑2基とピットが11個で、出土遺物も土器片や石器が少量検出されただけである。

## 参 考 文 献

- 秋山道生 1990「野川流域の縄文時代」『多摩のあゆみ』61号
- 安孫子昭二・可见通宏ほか 1971「平尾遺跡調査報告Ⅰ」南多摩郡平尾遺跡調査会
- 安孫子昭二・秋山道生・中西充 1980「東京・埼玉における縄文中期後半の編年試案」神奈川考古10
- 安孫子昭二・谷井彪 1988「磨板式土器様式・阿玉台式土器様式」『縄文土器大観2』小学館
- 石岡憲雄・戸田哲也・西川博孝 1983「縄文原形」『縄文文化の研究』雄山閣
- 石岡憲雄 1980「所謂「Tピット」について」土曜考古2号
- 市川健二郎 1949「武蔵国分寺恋ヶ窪敷石遺跡発掘調査報告」学習院史学会報1
- 木下亀城・小川留太郎 1967「岩石鉱物」保育社
- 国分寺市 1986「国分寺市史 上巻」
- 小暮伸之 1991「野川流域における縄文時代中期後半の集団移動」東京考古9
- 末木隆 1988「曾利式土器様式」『縄文土器大観3』小学館
- 滝口宏 1985「武蔵国分寺跡発掘調査概報Ⅶ」武蔵国分寺遺跡調査会
- 滝口宏 1988「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅳ」国分寺市遺跡調査会
- 谷口康浩 1989「磨板式土器様式」『縄文土器大観1』小学館
- 永峯光一 1979「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅰ」恋ヶ窪遺跡調査会
- 永峯光一 1980「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅱ」恋ヶ窪遺跡調査会
- 永峯光一 1982「恋ヶ窪遺跡調査報告Ⅲ」恋ヶ窪遺跡調査会
- 広瀬昭弘・秋山道生・砂田佳弘・山崎和巳 1985「縄文時代集落の研究-野川流域の中期を中心として-」東京考古3
- 三輪善之助 1922「武蔵国分寺村発見の土器」人類学雑誌37-12
- 山内清男 1979「日本先史土器の縄文」先史考古学会

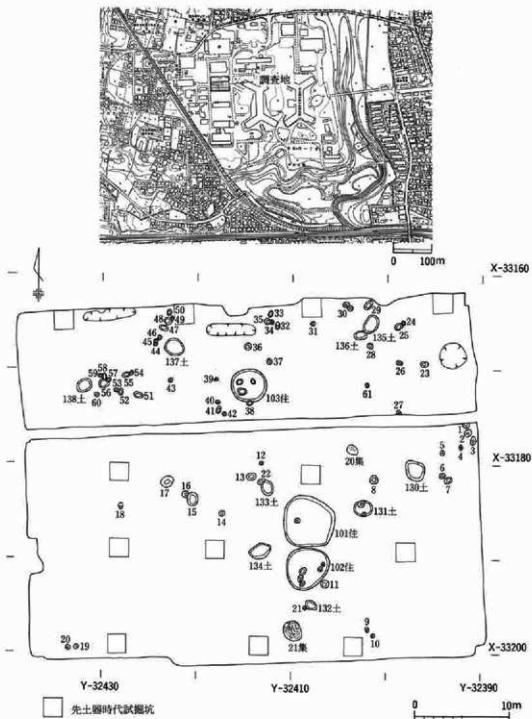


# 圖 面

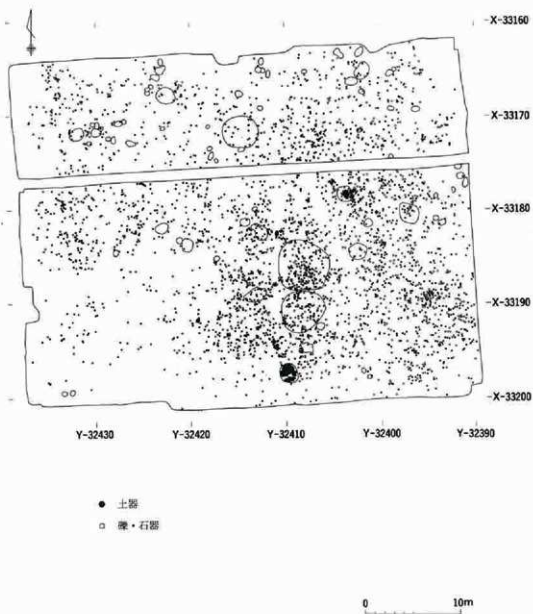




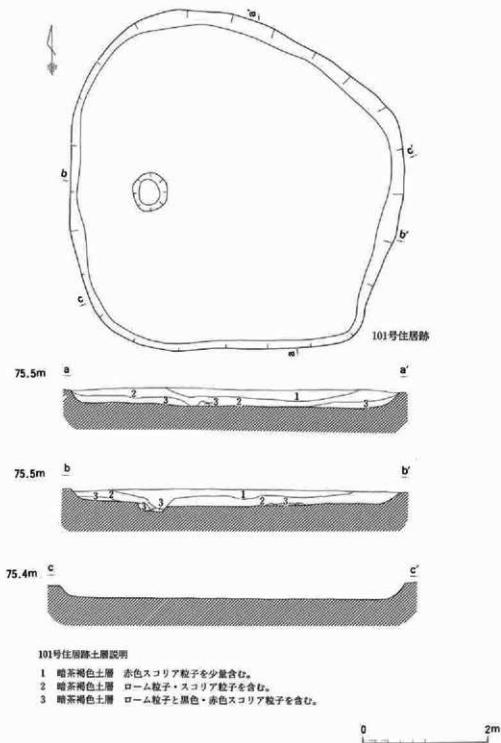
図面 1 K 2-35次調査 調査地全体図



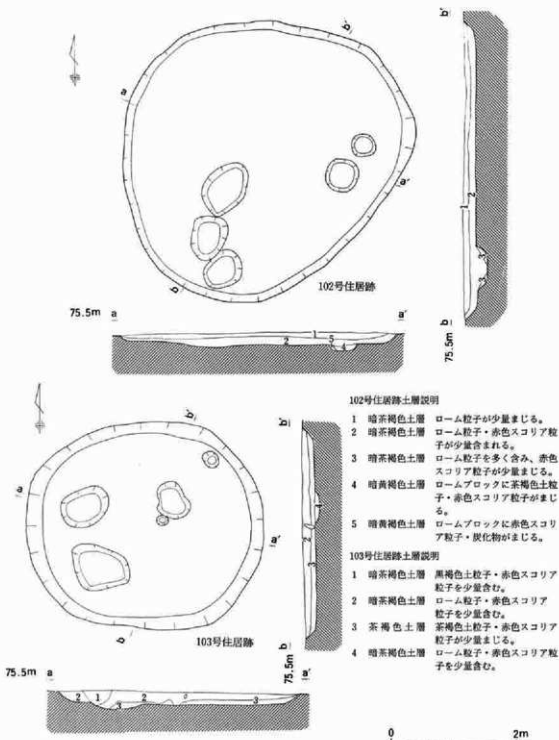
図面2 K 2-35次調査 遺物分布図



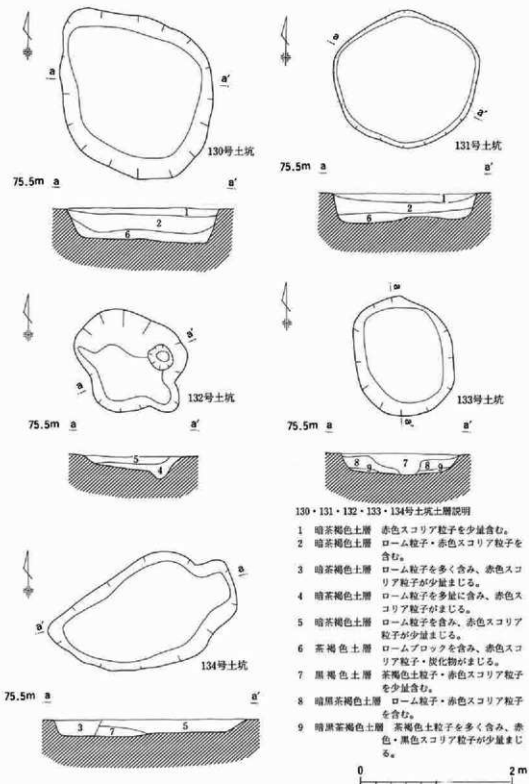
図面3 K 2-35次調査 101号住居跡



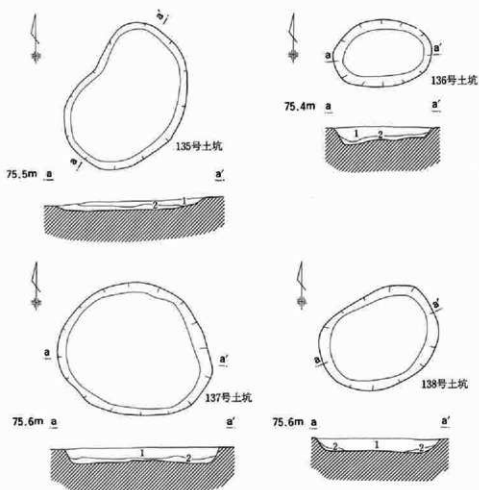
図面4 K 2-35次調査 102・103号住居跡



図面 5 K 2-35次調査 130・131・132・133・134号土坑



図面6 K 2-35次調査 135・136・137・138号土坑

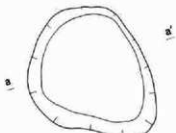
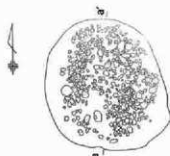


135・136・137・138号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 ローム粒子・赤色スコリア粒子を少量含む。
- 2 暗茶褐色土層 ローム粒子を含み、赤色スコリア粒子が少量まじる。

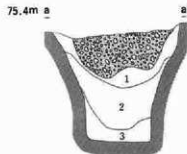


図面7 K2-35次調査 20・21号集石土坑



20号集石土坑

21号集石土坑



20号集石土坑土層説明

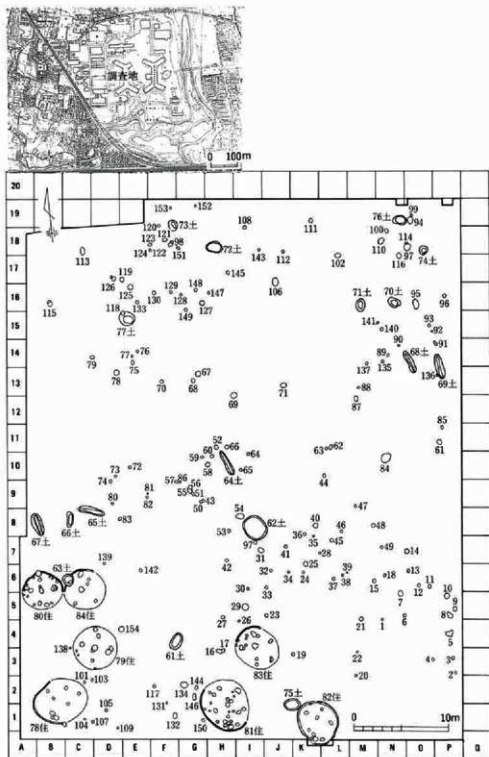
- 1 暗茶褐色土層 ローム粒子・スコリア粒子を多く含み、炭化物が少量まじる。
- 2 暗茶褐色土層 ロームブロック・茶褐色土ブロックを含み、スコリア粒子が少量まじる。
- 3 茶黄褐色土層 ロームブロックを含む。

21号集石土坑土層説明

- 1 土器片・石器礫片堆積部。
- 2 暗褐色土層 ローム粒子・スコリア粒子を少量含み、粘性しまりが悪い。
- 3 暗褐色土層 ローム粒子・スコリア粒子を含む。

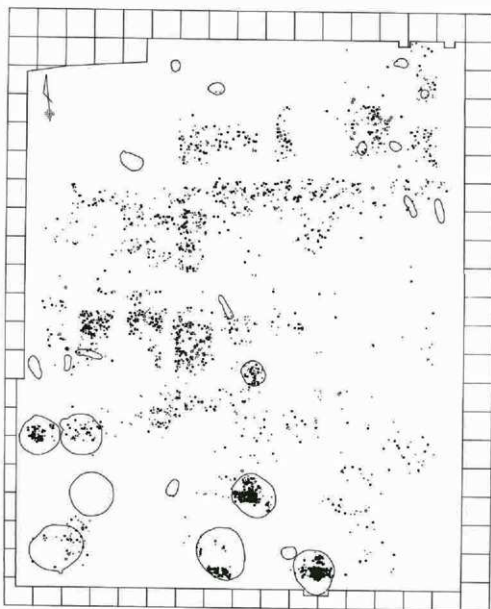


図面8 K2-39次調査 調査地全体図





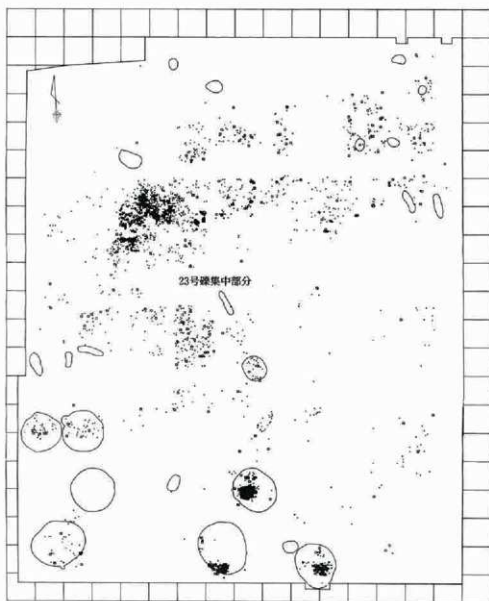
図面9 K2-39次調査 遺物分布図(土器)



- 勝坂・阿玉台
- 加曾利E・曾利
- ・ その他

0 10m

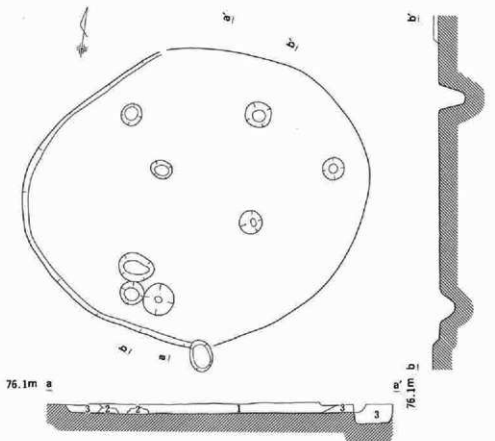
図面10 K 2-39次調査 遺物分布図 (石器)



- 石器
- 穴

0 10m

図面11 K 2-39次調査 78号住居跡

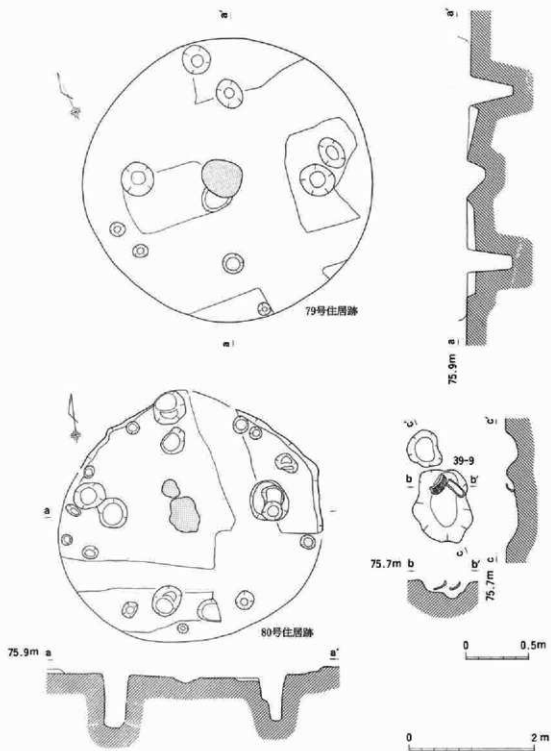


78号住居跡土層説明

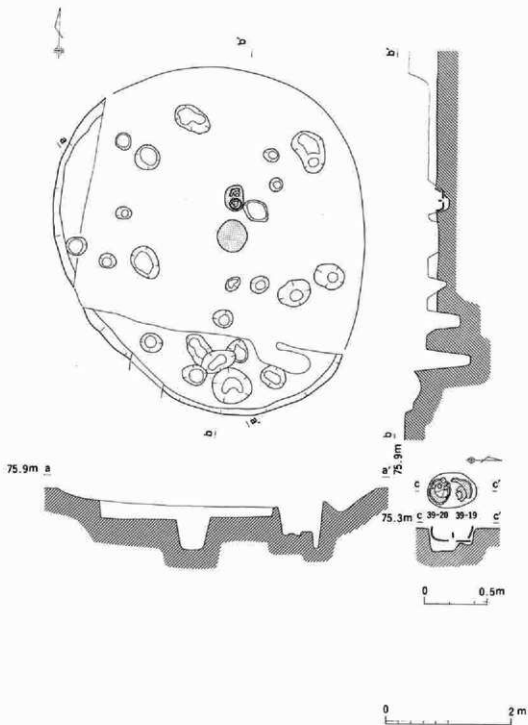
- 1 暗茶褐色土層 細かいローム粒子と大粒の赤色スコリア粒子を含む。
- 2 暗黄褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を多く含み、赤色スコリア粒子がまじる。
- 3 茶褐色土層 ローム粒子・ロームブロック・赤色スコリア粒子を多く含む。

0 2 m

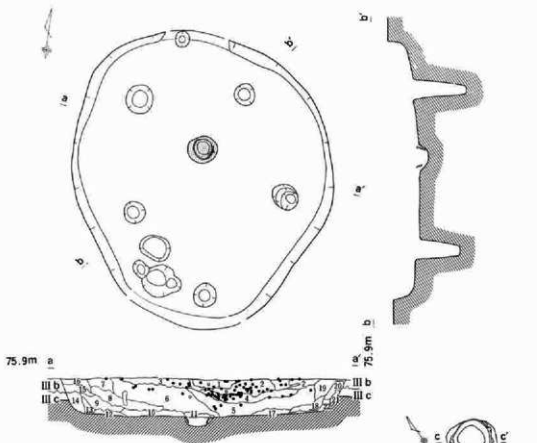
図面12 K 2-39次調査 79・80号住居跡



図面13 K 2-39次調査 81号住居跡



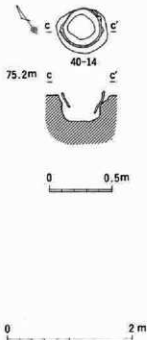
図面14 K 2-39次調査 82号住居跡



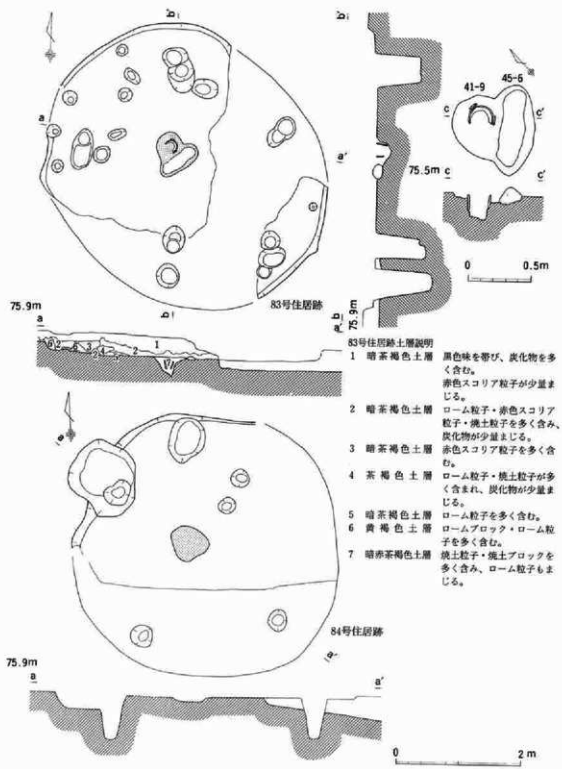
82号住居跡土層説明

- 1 黒茶褐色土層 ローム粒子・赤色スコリア粒子を含む。
- 2 黒茶褐色土層 やや、大粒のローム粒子と、赤色スコリア粒子を含み、炭化物が少量まじる。
- 3 暗茶褐色土層 やや大粒のローム粒子を含む。
- 4 暗茶褐色土層 細かいローム粒子と、赤色スコリア粒子・炭化物がまじる。
- 5 暗茶褐色土層 細かいローム粒子と、大粒のローム粒子が多く含まれ、赤色スコリア粒子・炭化物が少量まじる。
- 6 茶褐色土層 ローム粒子を多く含み、赤色スコリア粒子・炭化物が少量まじる。
- 7 茶褐色土層 細かいローム粒子を含み、赤色スコリア粒子が少量まじる。
- 8 暗黄褐色土層 よごれたロームブロック・ローム粒子を多量に含む。
- 9 茶褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を含む。
- 10 茶褐色土層 細かいローム粒子を含む。
- 11 茶褐色土層 細かいローム粒子を多く含む。
- 12 茶褐色土層 ローム粒子を含み、赤色スコリア粒子が少量まじる。
- 13 茶褐色土層 細かいローム粒子を含む。
- 14 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを含み、茶褐色土粒子がまじる。
- 15 茶褐色土層 ローム粒子を少量含む。
- 16 茶褐色土層 細かいローム粒子を少量含む。
- 17 茶褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 18 茶褐色土層 細かいローム粒子を含む。
- 19 茶褐色土層 ローム粒子・赤色スコリア粒子を少量含む。
- 20 茶褐色土層 ロームブロック・ローム粒子を含み、赤色スコリア粒子が少量まじる。
- 21 黄褐色土層 ロームブロックを多く含む。
- 22 茶褐色土層 ロームブロックを多く含み、赤色スコリア粒子・ローム粒子が少量まじる。

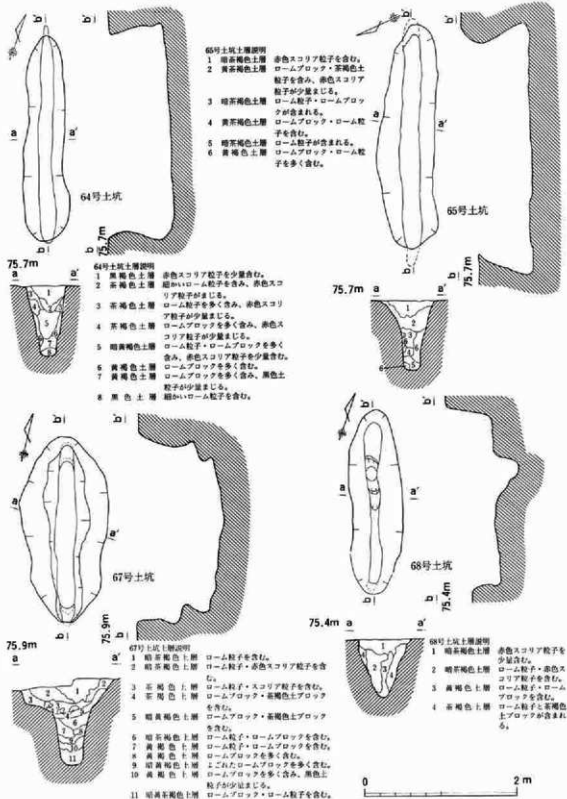
- 土器
- 石器



図面15 K 2-39次調査 83・84号住居跡

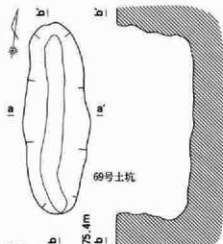


図面16 K 2-39次調査 64・65・67・68号土坑

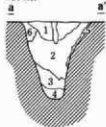




図面17 K 2-39次調査 61・66・69・70号土坑

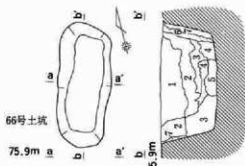


75.4m



69号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を少量含む。
- 2 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を含み、ローム粒子が少量まじる。
- 3 暗黄褐色土層 よごれたロームブロックを含む。
- 4 茶黄褐色土層 ロームブロックに、茶褐色土ブロックがまじる。
- 5 暗黄茶褐色土層 ローム粒子に茶褐色土ブロックがまじる。
- 6 黄褐色土層 ロームブロックを含む。



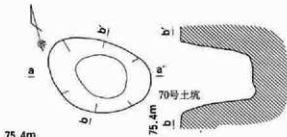
66号土坑

75.9m

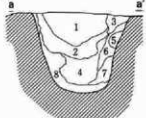


66号土坑土層説明

- 1 茶黒褐色土層 赤色スコリア粒子を含む。
- 2 茶黒褐色土層 赤色スコリア粒子を多く含み、ローム粒子がまじる。
- 3 暗茶褐色土層 ローム粒子・スコリア粒子を多く含む。
- 4 暗茶褐色土層 ローム粒子を多く含み、スコリア粒子がまじる。
- 5 黄茶褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを多く含む。
- 6 暗茶褐色土層 スコリア粒子を少量含む。
- 7 茶褐色土層 茶褐色土ブロックを多く含み、ローム粒子がまじる。



75.4m



70号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を含む。
- 2 暗茶褐色土層 細かいスコリア粒子を含み、ローム粒子が少量まじる。
- 3 暗茶褐色土層 ローム粒子を含む。
- 4 茶褐色土層 ローム粒子を含む。
- 5 暗茶褐色土層 ローム粒子を多く含む。
- 6 茶褐色土層 ローム粒子を多く含む。
- 7 茶黄褐色土層 ロームブロックを多く含む。
- 8 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを多く含む。



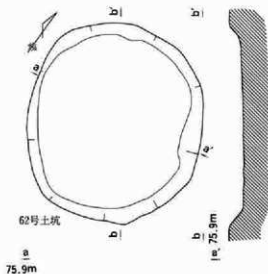
75.9m

61号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を含む。
- 2 茶黒褐色土層 赤色スコリア粒子を含む。
- 3 暗茶褐色土層 ローム粒子・ロームブロック・赤色スコリア粒子がまじる。
- 4 茶褐色土層 ロームブロックを多く含み、赤色スコリア粒子・炭化物が少量まじる。



図面18 K 2-39次調査 62・63・71・72・73号土坑



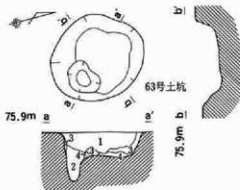
62号土坑

75.9m



62号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 ローム粒子・スコリア粒子を含む。
- 2 茶褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを含み、赤色スコリア粒子がまじる。



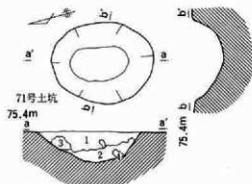
63号土坑

75.9m

75.9m

63号土坑土層説明

- 1 暗茶黒褐色土層 細かいローム粒子・赤色スコリア粒子・炭化物を含む。
- 2 暗茶褐色土層 ローム粒子・赤色スコリア粒子を少量含む。
- 3 暗茶褐色土層 ローム粒子を多量に含む。
- 4 黄褐色土層 ロームブロックを含む。



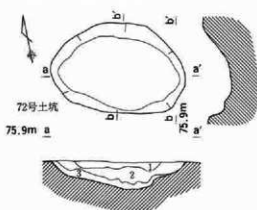
71号土坑

75.4m

75.4m

71号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 細かい赤色スコリア粒子を含む。
- 2 暗茶褐色土層 細かいローム粒子を多く含む。
- 3 暗茶褐色土層 細かいローム粒子を含む。
- 4 暗黄褐色土層 ロームブロックを含む。



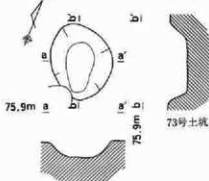
72号土坑

75.9m

75.9m

72号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を含む。
- 2 暗茶褐色土層 ローム粒子・赤色スコリア粒子を少量含む。
- 3 暗茶褐色土層 ローム粒子を含む。



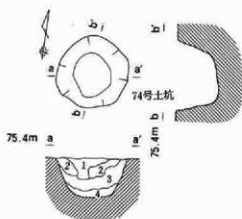
75.9m

75.9m

73号土坑

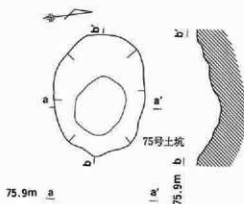


図面19 K 2-39次調査 74・75・76・77号土坑



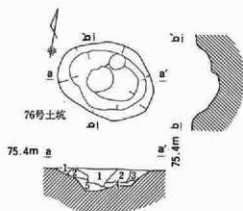
74号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を含む
- 2 暗茶褐色土層 ローム粒子・炭化物を含む。
- 3 暗茶褐色土層 ローム粒子を多く含む、炭化物がまじる。
- 4 暗黄褐色土層 よごれたロームブロックを多く含む。



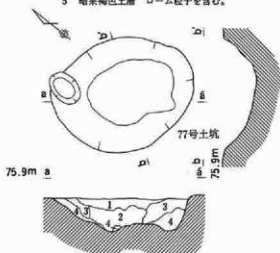
75号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 細かい赤色スコリア粒子・黒色土粒子を含む。
- 2 暗茶褐色土層 ローム粒子・赤色スコリア粒子を含む。
- 3 暗茶褐色土層 ローム粒子を多く含む。
- 4 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを含む。
- 5 暗茶褐色土層 ローム粒子を含む。



76号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を含む。
- 2 暗茶褐色土層 ローム粒子・赤色スコリア粒子を含む。
- 3 暗茶褐色土層 ローム粒子を少量含む。
- 4 茶褐色土層 ローム粒子を多量に含む。
- 5 茶褐色土層 ローム粒子を含む。



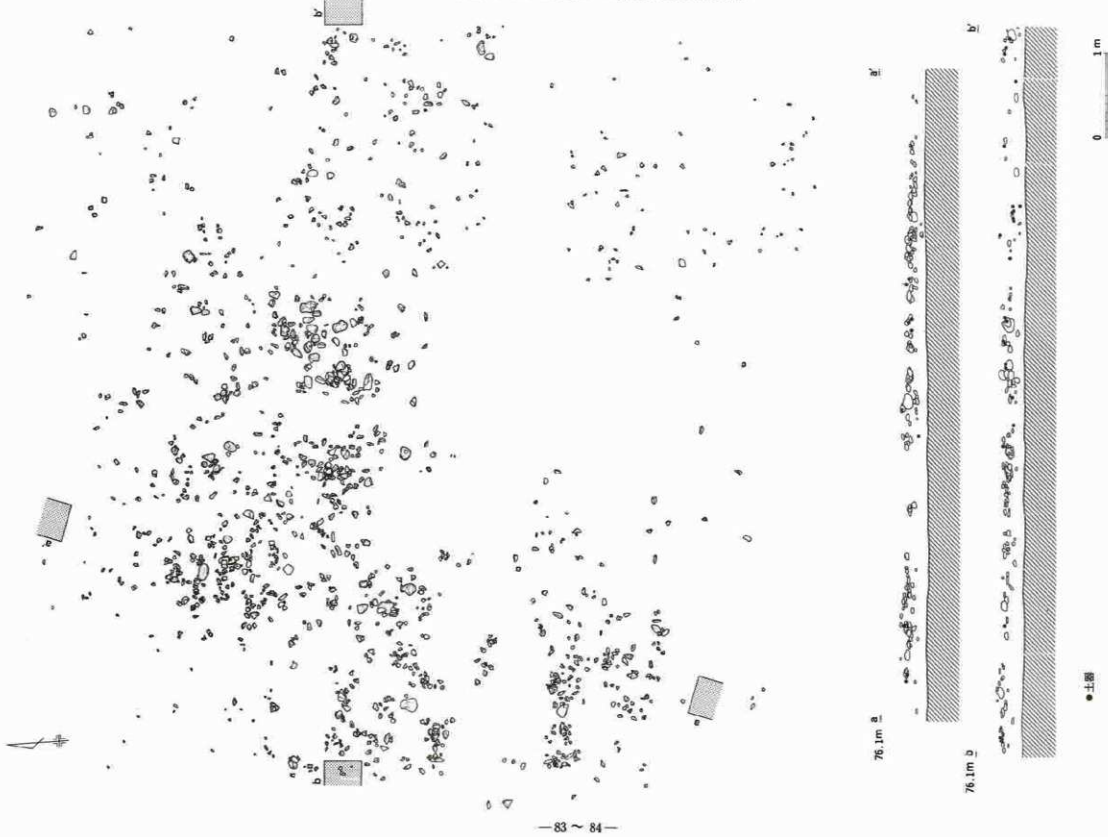
77号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を少量含む。
- 2 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を含む。
- 3 茶褐色土層 大粒の赤色スコリア粒子を含む。
- 4 黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロックを含む。



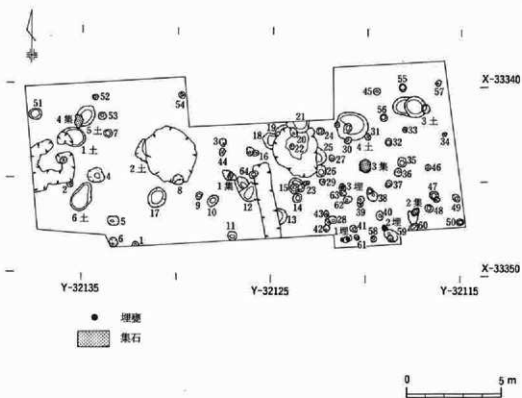
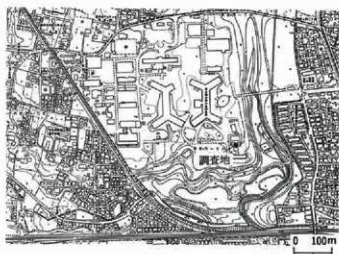


図面20 K 2-39次調査 23号塚集の部分遺物分布図

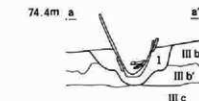
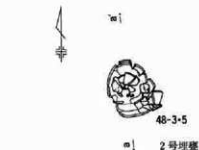
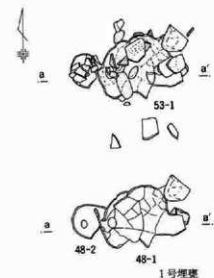




図面21 K5-2次調査 調査地全体図



図面22 K5-2次調査 1・2・3号埋壁



1号埋壁土層説明

1 暗茶褐色土層 細かいローム粒子を少量含む。

2号埋壁土層説明

1 暗茶褐色土層 細かいローム粒子を少量含む。

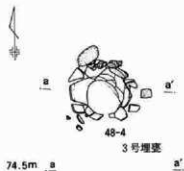
3号埋壁土層説明

1 暗茶褐色土層 III b層に類似した土層で土層下面でローム粒子を多く含む。

III b 暗茶褐色土層 細かいローム粒子・赤色スコリア粒子を少量含む。

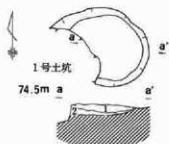
III b' 茶褐色土層 細かいローム粒子・赤色スコリア粒子の他にロームブロックを含む。

III c 茶褐色土層 ローム漸移層



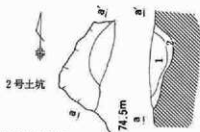


図面23 K5-2次調査 1・2・3・4・5・6号土坑



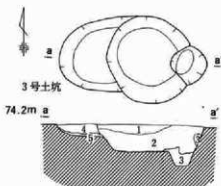
1号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を少量含む。
- 2 暗黄褐色土層 ローム粒子を多く含む。



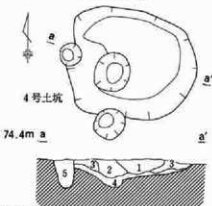
2号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 細かいローム粒子と赤色スコリア粒子を全体に含む。
- 2 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロック・茶褐色土ブロックを含む。



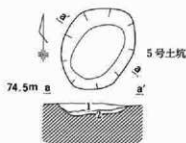
3号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 細かいローム粒子・赤色スコリア粒子を含む。
- 2 暗茶褐色土層 ローム粒子を多く含む、炭化物がまじる。
- 3 暗黄褐色土層 ロームブロックを多く含む、茶褐色土ブロックがまじる。
- 4 暗茶褐色土層 ローム粒子・赤色スコリア粒子を含む。
- 5 暗黄褐色土層 ロームブロックを多く含む。



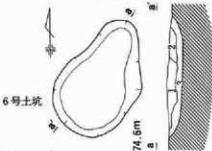
4号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 細かいローム粒子・赤色スコリア粒子を少量含む。
- 2 暗茶褐色土層 ローム粒子を多く含む。
- 3 暗黄褐色土層 ローム粒子を含み、赤色スコリア粒子が少量まじる。
- 4 暗黄褐色土層 ロームブロックを多量に含む、赤色スコリア粒子がまじる。
- 5 暗黄褐色土層 ロームブロックを多く含む、茶褐色土ブロックがまじる。



5号土坑土層説明

- 1 暗茶褐色土層 細かいローム粒子を少量含む、赤色スコリア粒子も少量まじる。
- 2 暗黄褐色土層 よごれたロームブロックを含む。

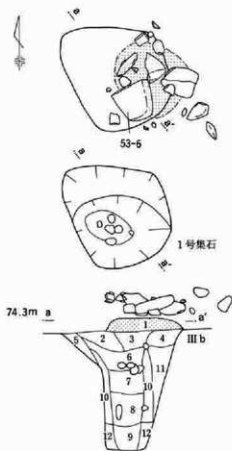


6号土坑土層説明

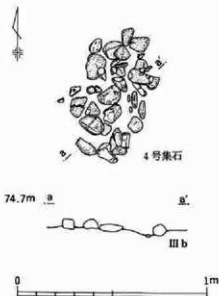
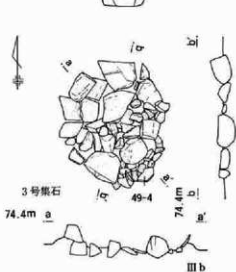
- 1 暗茶褐色土層 細かいローム粒子・赤色スコリア粒子を含む。
- 2 暗茶褐色土層 赤色スコリア粒子を含む。
- 3 暗黄褐色土層 ローム粒子・ロームブロックに茶褐色土ブロックがまじる。



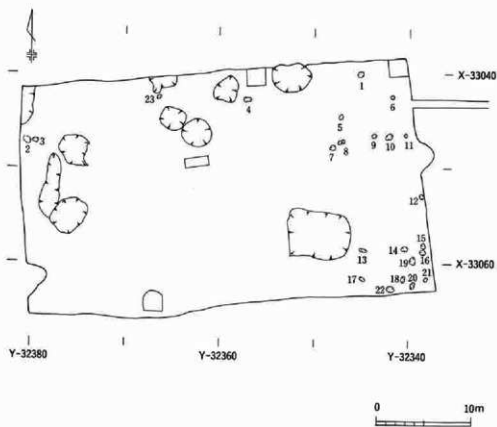
図面24 K5-2次調査 1・2・3・4号集石



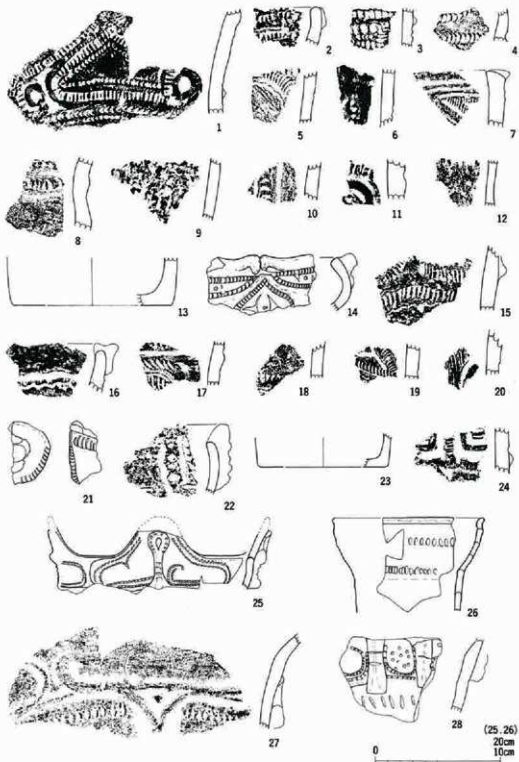
- 1号集石土層説明
- |              |                       |
|--------------|-----------------------|
| 1 赤茶褐色土層     | 焼土ブロック層。              |
| 2 暗茶褐色土層     | スコリア粒子を多量に含む。         |
| 3 茶褐色土層      | スコリア粒子を多量に含む。         |
| 4 暗黄褐色土層     | 焼土粒子・スコリア粒子を含む。       |
| 5 黄褐色土層      | スコリア粒子を少量含む。          |
| 6 茶褐色土層      | スコリア粒子を少量含む。          |
| 7 暗茶褐色土層     | ロームブロック・スコリア粒子を少量含む。  |
| 8 暗茶褐色土層     |                       |
| 9 茶褐色土層      | ロームブロックを含む。           |
| 10 暗茶褐色土層    | ロームブロックを含む。           |
| 11 暗黄褐色土層    | よごれたロームブロックを含む。       |
| 12 暗黄褐色土層    | よごれたロームブロックを多量に含む。    |
| III b 暗茶褐色土層 | 細かいローム粒子・スコリア粒子を少量含む。 |



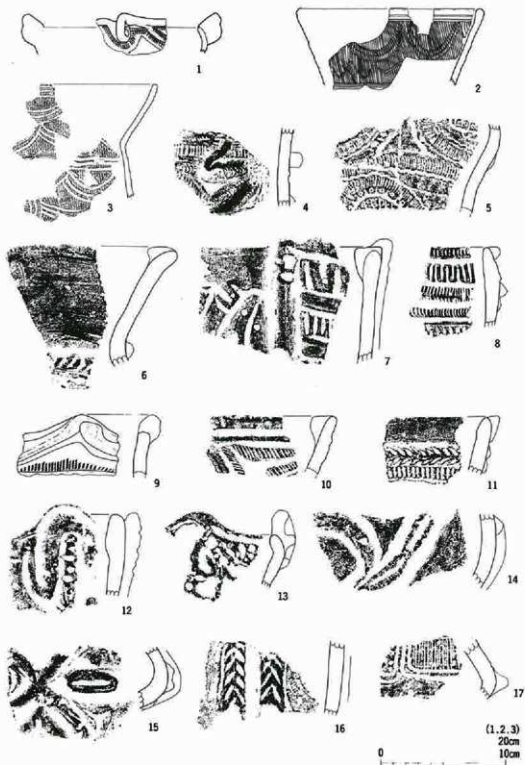
図面25 K5-5次調査 調査地全体図



图面26 K 2-35次調査 101・102・103号住居跡、20号集石土坑出土土器



図面27 K 2-35次調査 21号集石土坑出土土器



図面28 K 2-35次調査 21号集石土坑出土土器

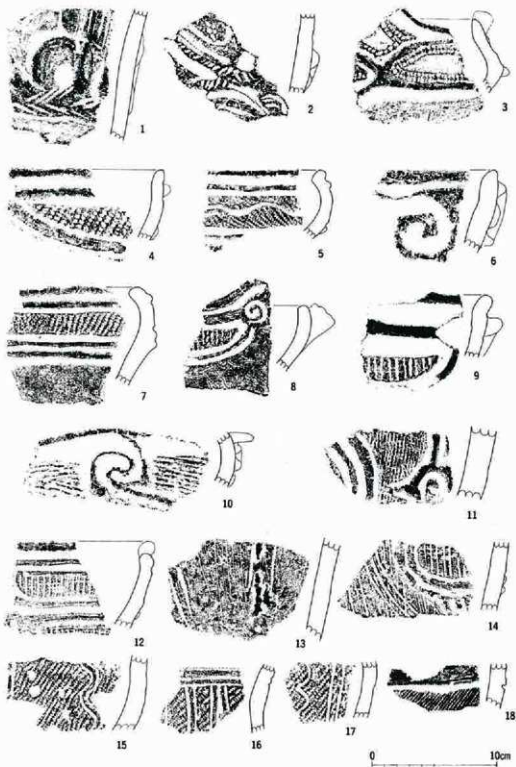
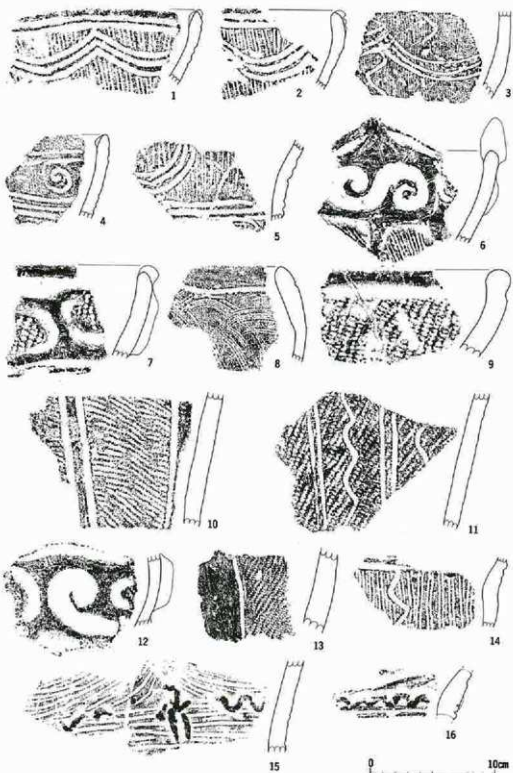
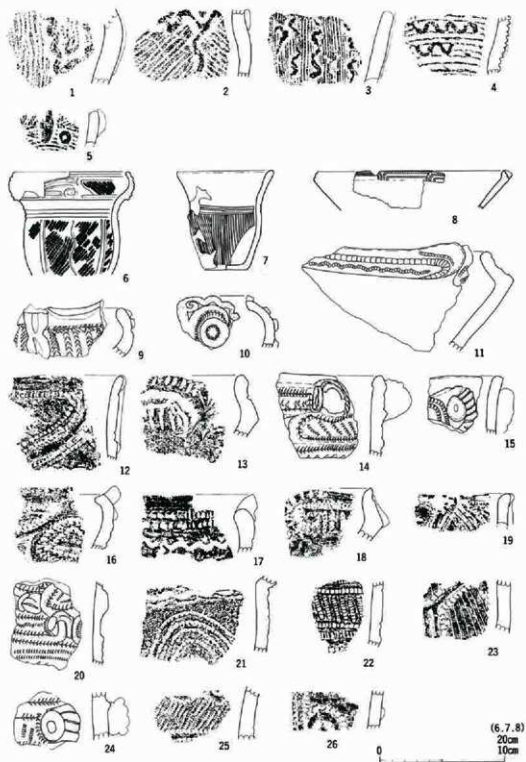


图29 K 2-35次调查 21号集石土坑出土土器

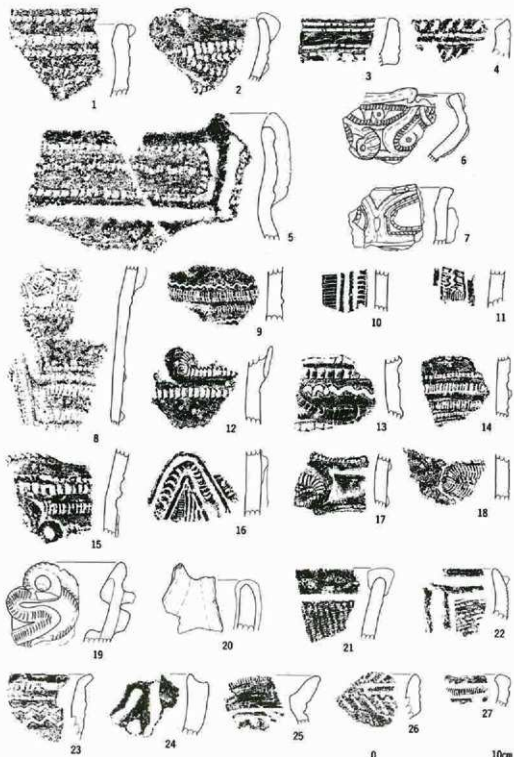


図面30 K 2-35次調査 21号集石土坑、ビット7、遺構外出土土器

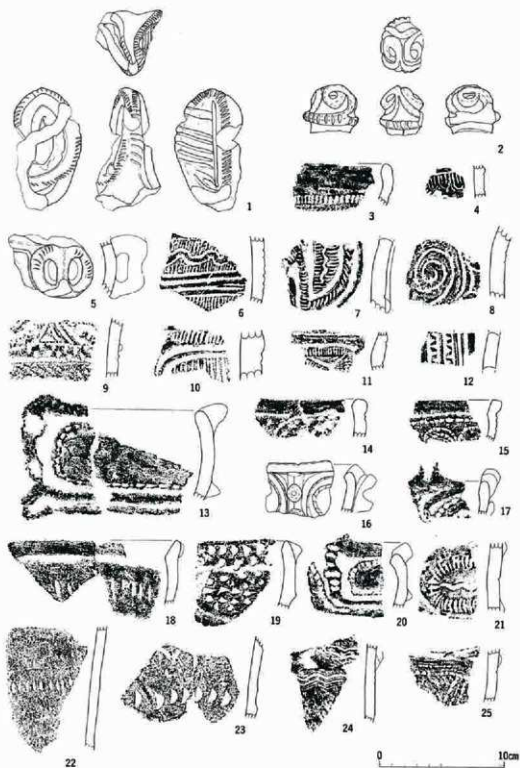




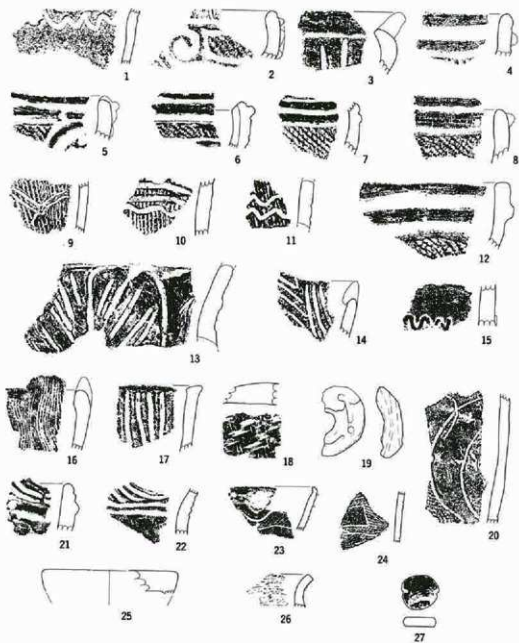
図面31 K 2-35次調査 遺構外出土土器



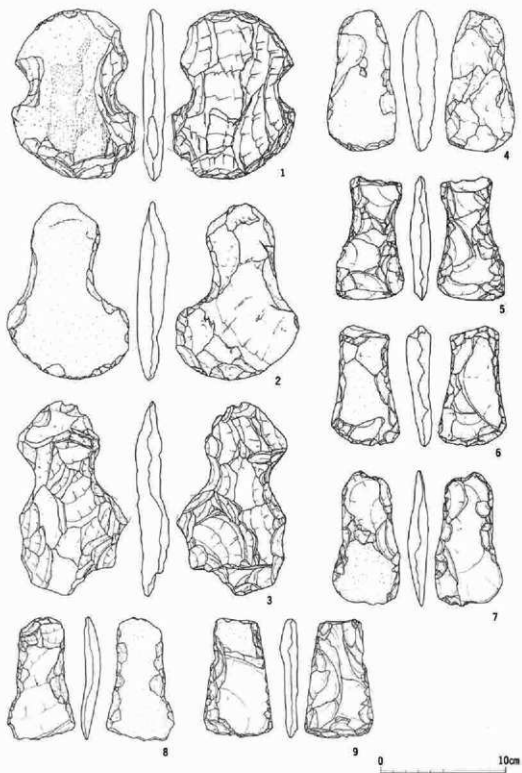
図面32 K 2-35次調査 遺構外出土土器



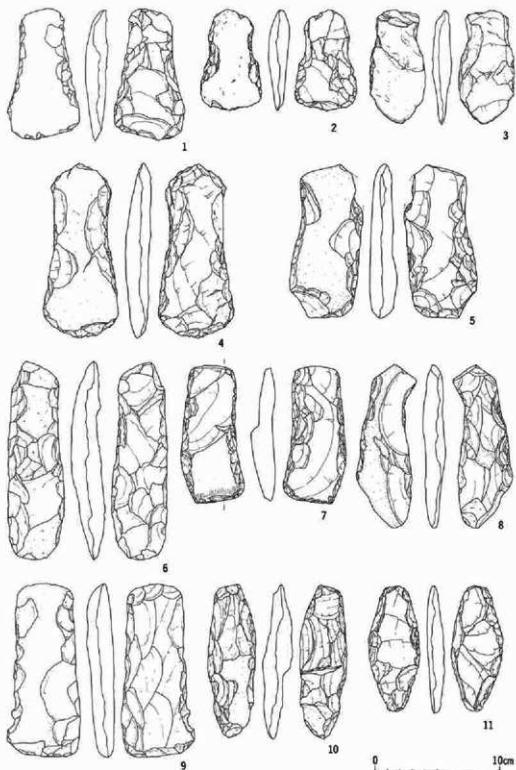
図面33 K 2-35次調査 遺構外出土土器、土製品



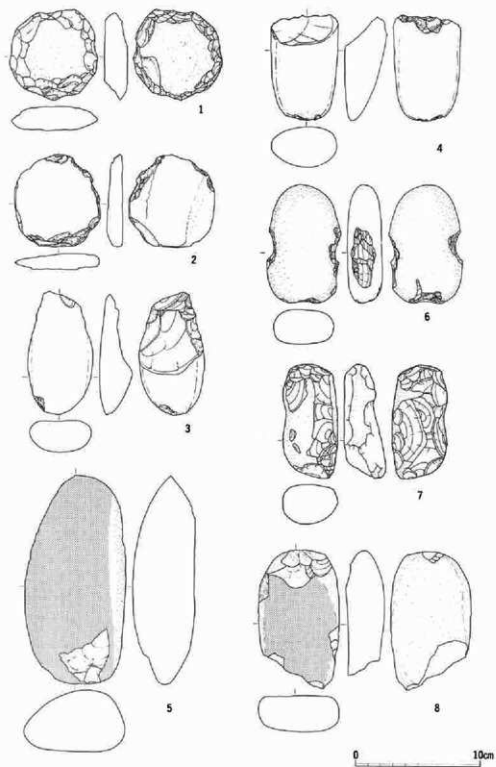
图面34 K 2-35次調査 21号集石土坑出土石器



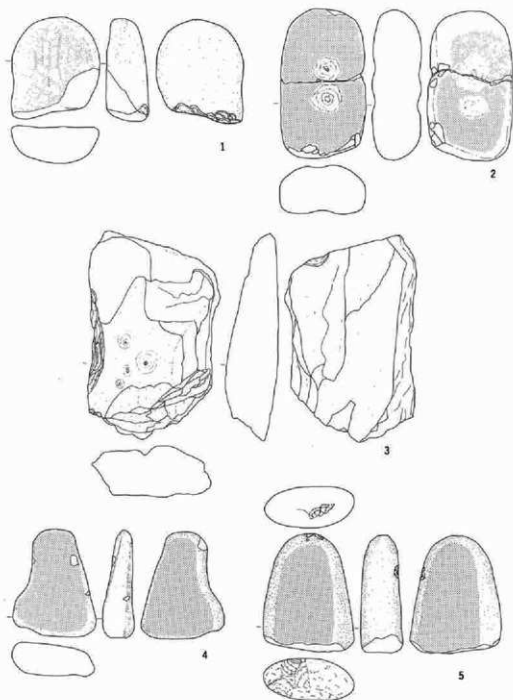
図面35 K 2-35次調査 21号集石土坑出土石器



图面36 K 2-35次調査 21号集石土坑出土石器

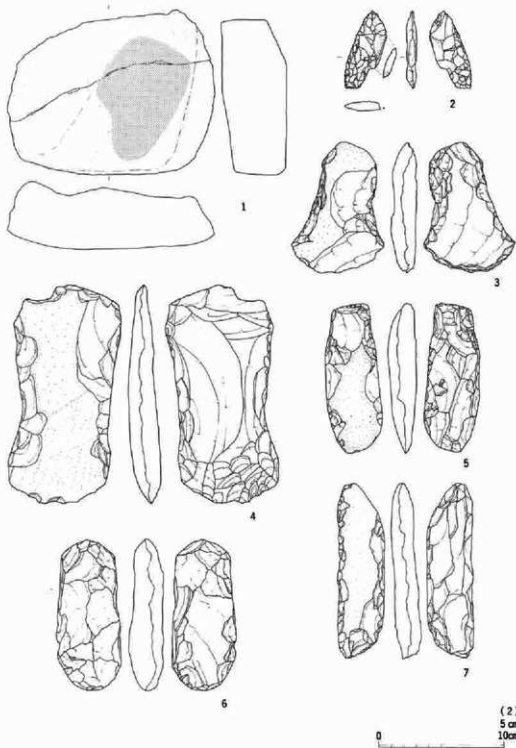


図面37 K 2-35次調査 21号集石土坑出土石器



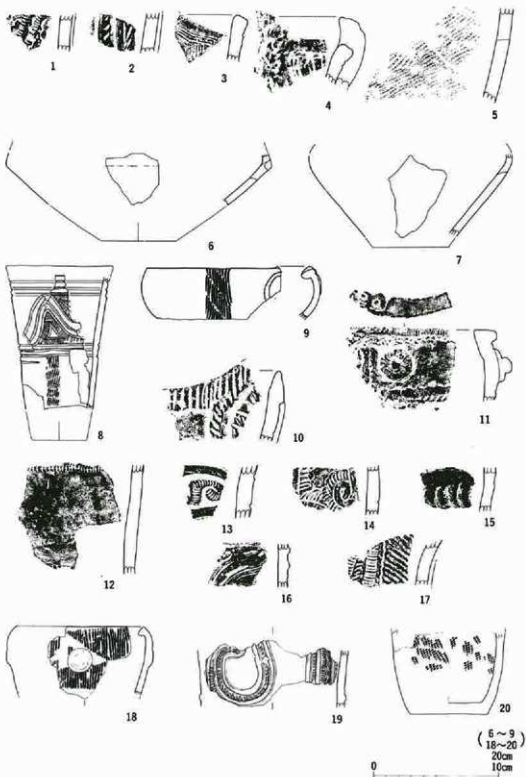
0 10cm

图面38 K 2-35次調査 21号集石土坑、遺構外出土石器

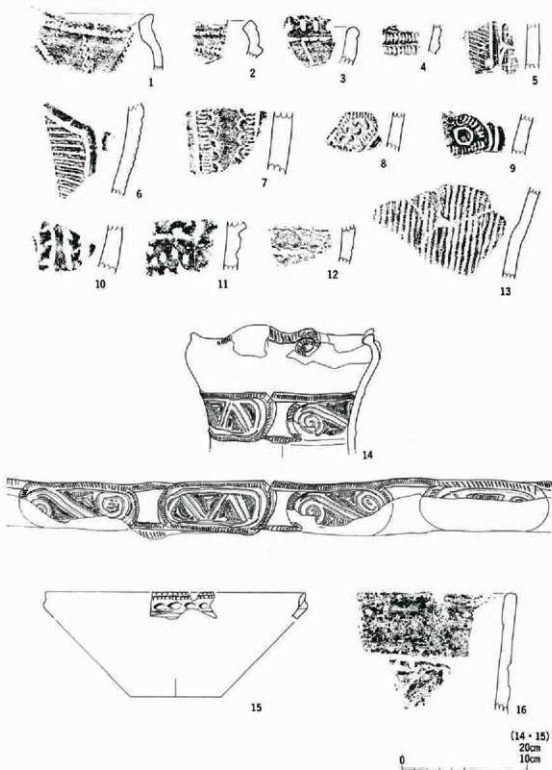




図面39 K 2-39次調査 78・80・81号住居跡出土土器



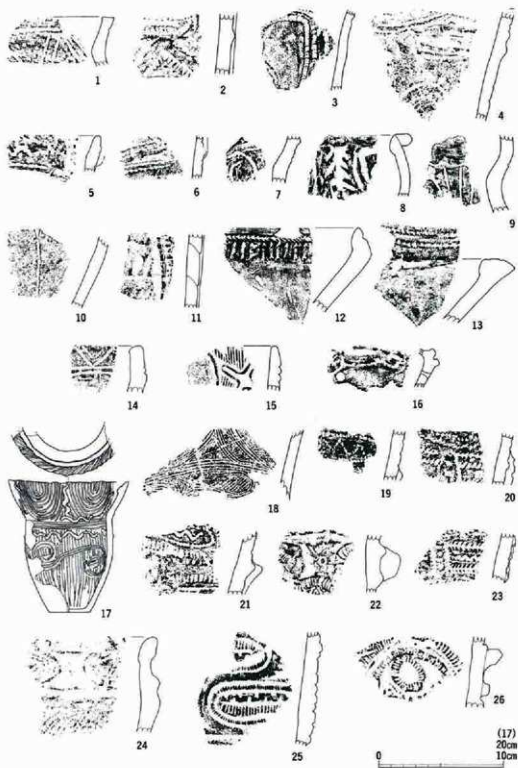
図面40 K 2-39次調査 81・82号住居跡出土土器



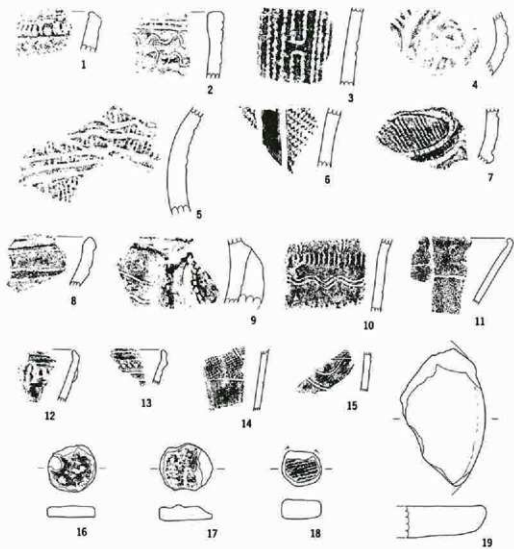
図面41 K 2-39次調査 82・83号住居跡出土土器



図面42 K 2-39次調査 84号住居跡、62号土坑、23号礫集中部分、遺構外出土土器

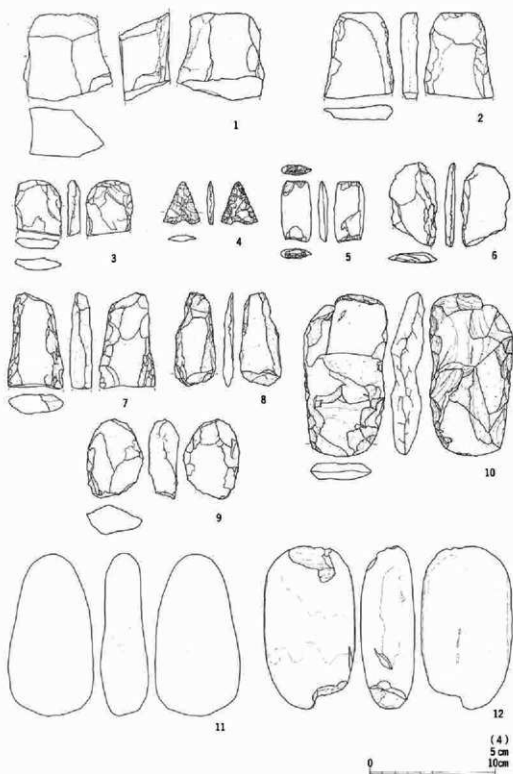


図面43 K 2-39次調査 遺構外出土土器、土製品

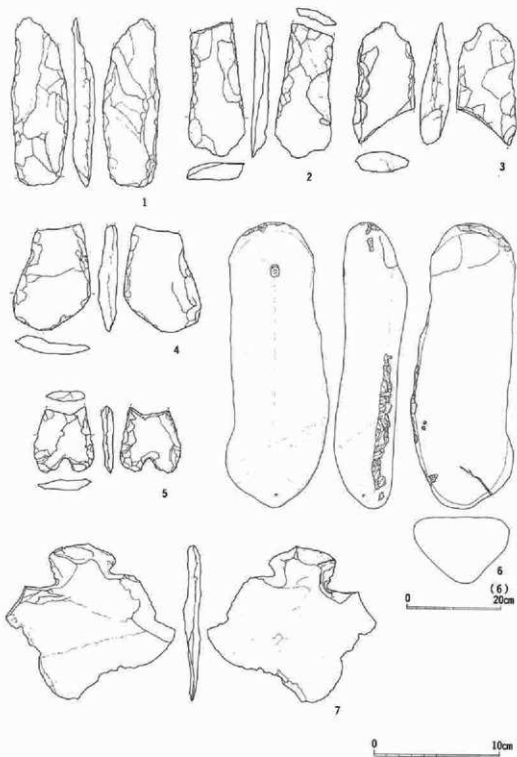


0 10cm

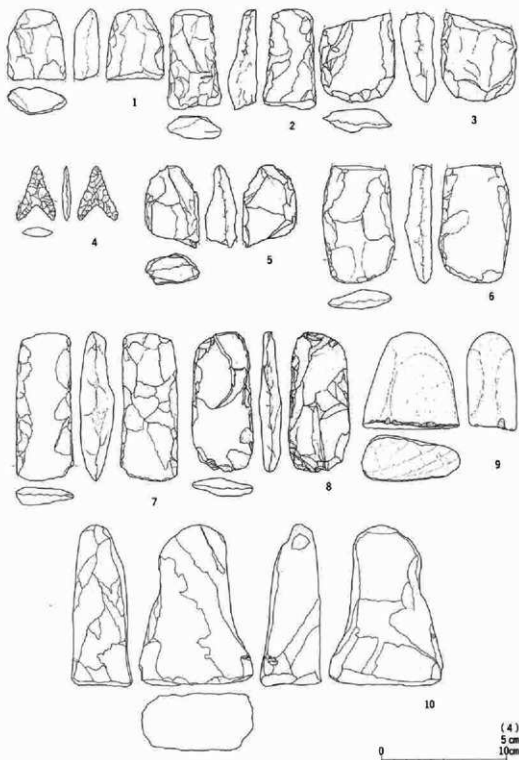
図面44 K 2-39次調査 78・80・81号住居跡出土石器



図面45 K 2-39次調査 83号住居跡出土石器

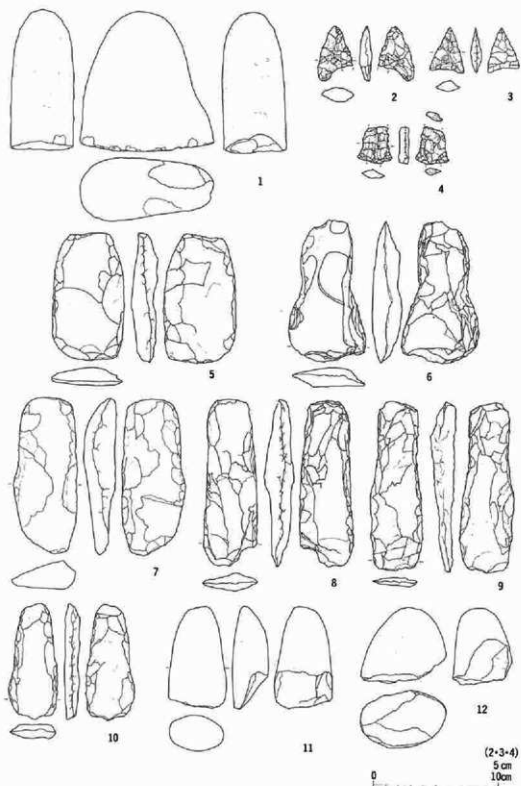


図面46 K 2-39次調査 82・84号住居跡、23号礫集中部分出土石器

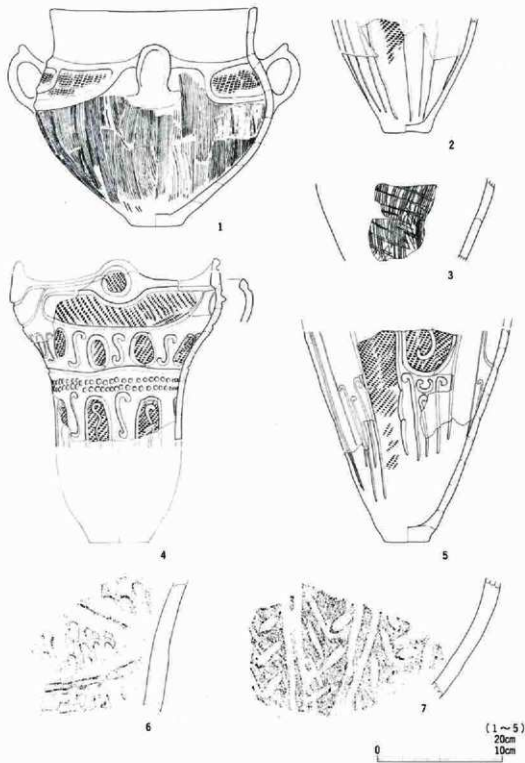




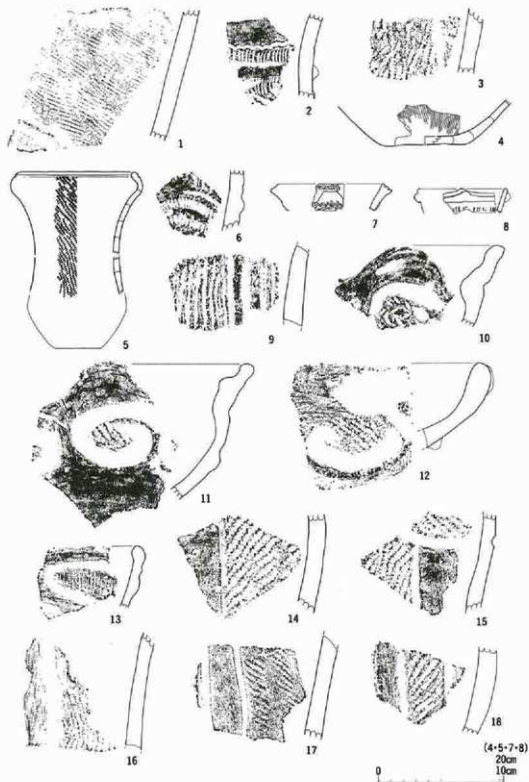
図面47 K 2-39次調査 23号礫集中部分、遺構外出土石器



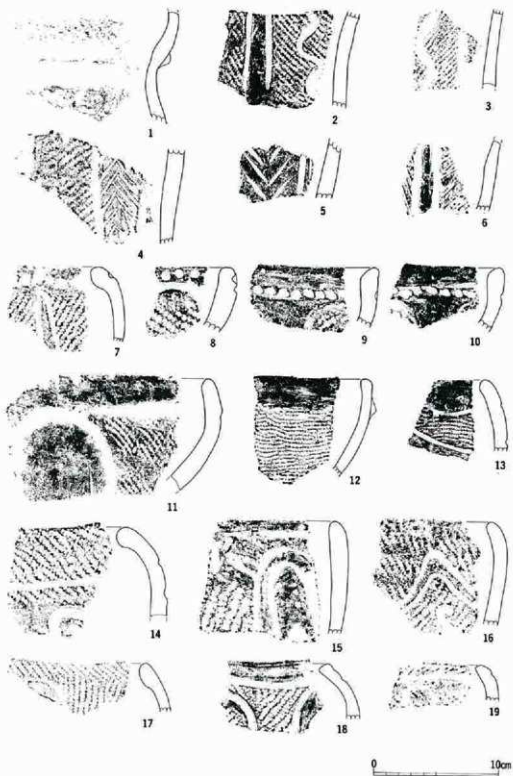
图面48 K5-2次調査 1・2・3号埋甕、3号土坑出土土器



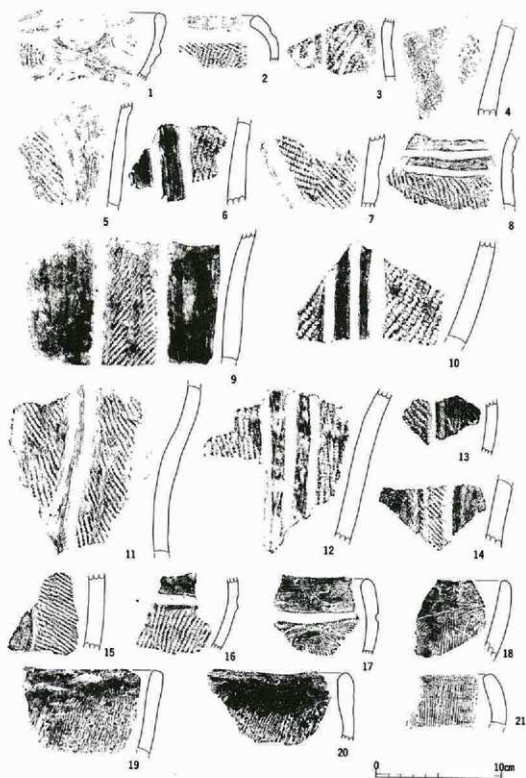
図面49 K5-2次調査 3・4号土坑、1・3号集石、ビット25・26、遺構外出土土器



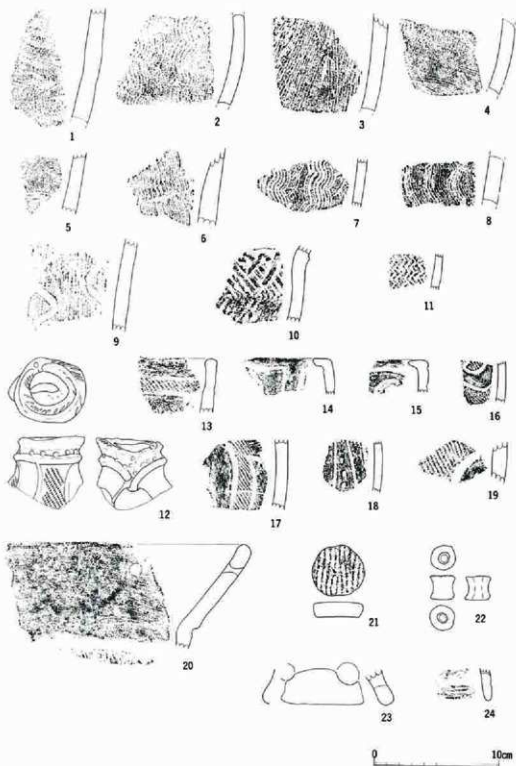
図面50 K 5-2次調査 遺構外出土土器



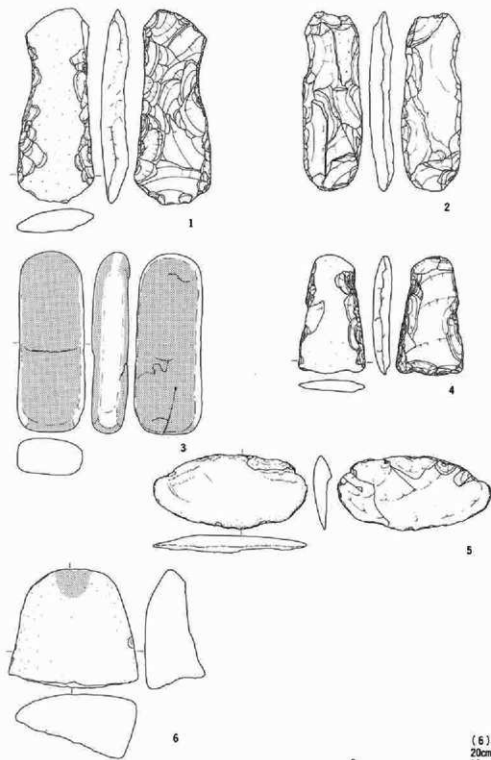
図面51 K5-2次調査 遺構外出土土器



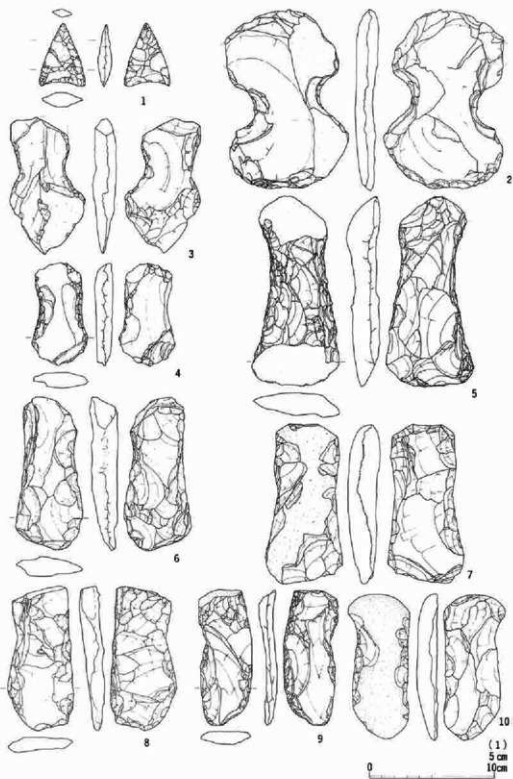
図面52 K 5-2次調査 遺構外出土土器、土製品



図面53 K 5-2次調査 1号埋篋、2・3号土坑、1号集石出土石器

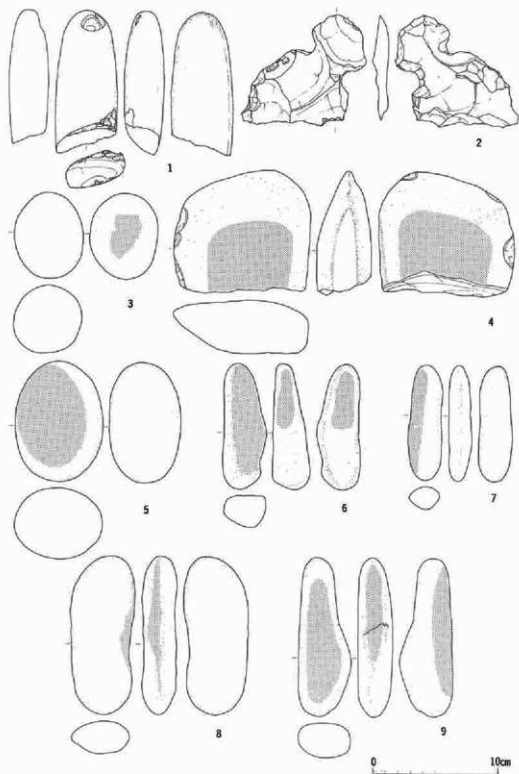


図面54 K5-2次調査 遺構外出土石器

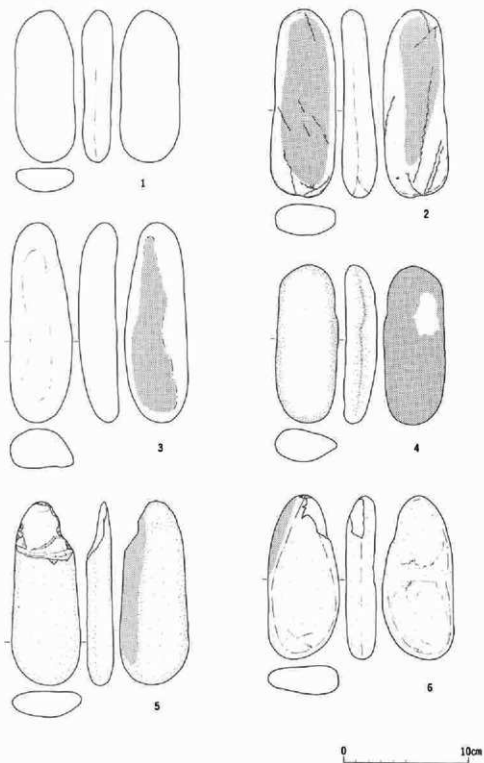




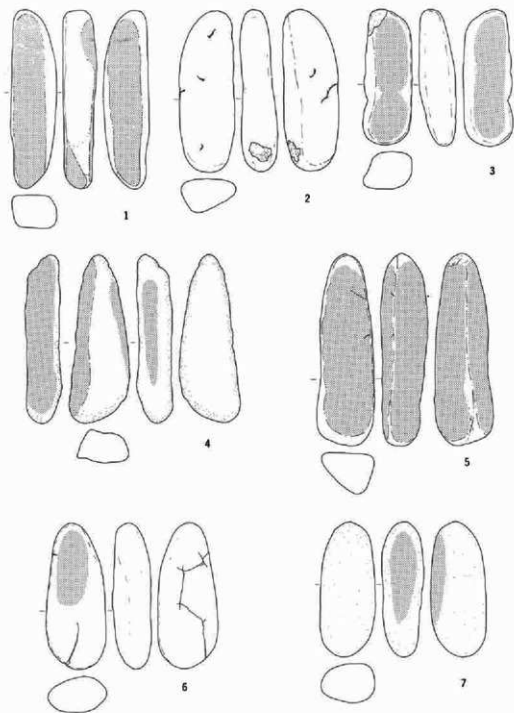
図面55 K 5-2次調査 遺構外出土石器



図面56 K 5-2次調査 遺構外出土石器

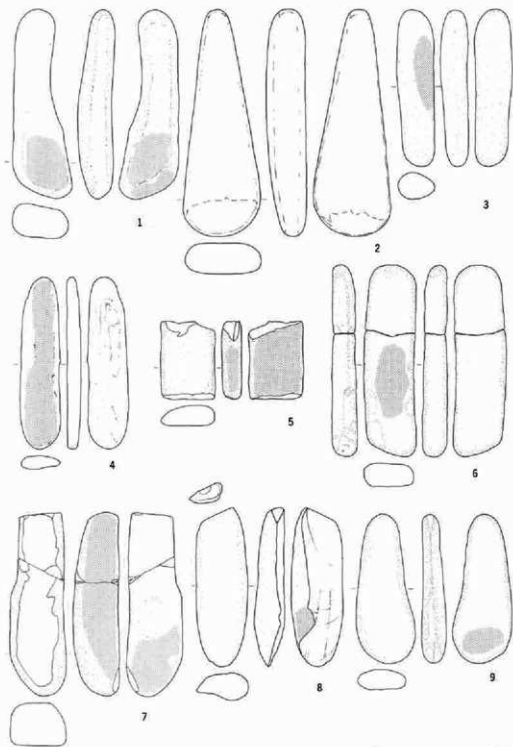


図面57 K 5-2次調査 遺構外出土石器

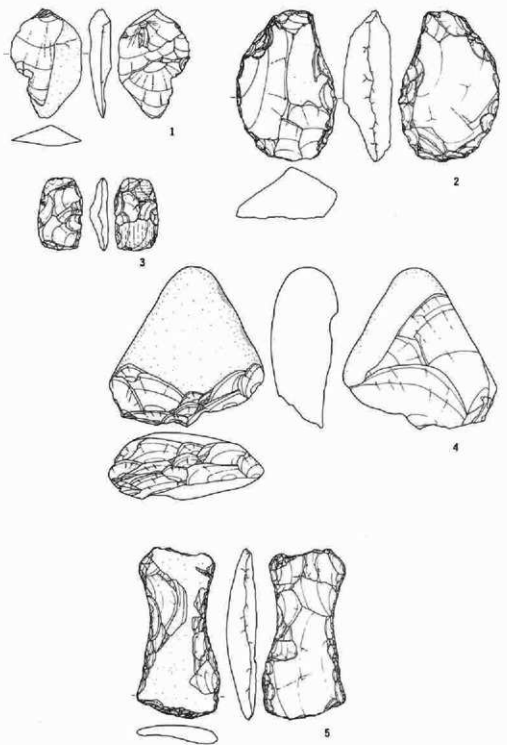


0 10cm

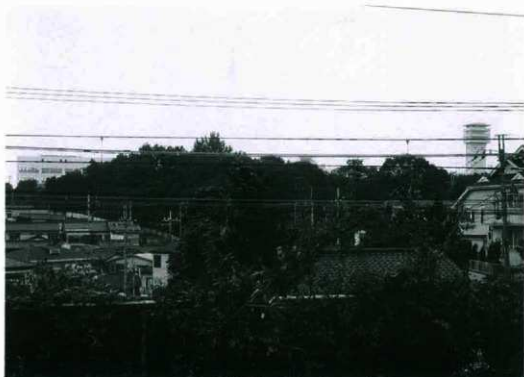
図面58 K 5-2次調査 遺構外出土石器



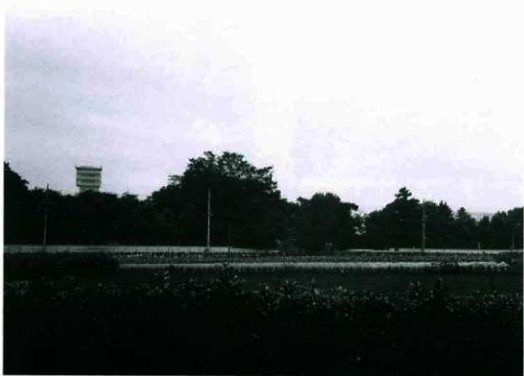
図面59 K5-2・5次調査 遺構外出土石器



# 版 圖



1. 調査地遠景（南から）



2. 調査地遠景（北から）



1. 調査地全景 (ラジコンヘリコプターによる撮影)



2. 作業風景包含層掘削



3. 作業風景遺物実測

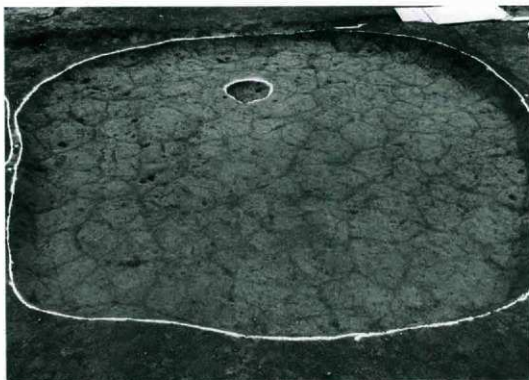


4. 作業風景写真測量



5. 作業風景先土器深掘り





1. 101号住居跡完掘全景（東から）



2. 101号住居跡南北土層断面南側（東から）



3. 101号住居跡南北土層断面北側（東から）



4. 101号住居跡東西土層断面西側（南から）



5. 101号住居跡東西土層断面東側（南から）



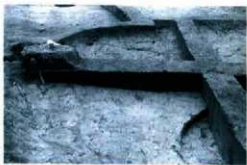
1. 102号住居跡発掘全景（東から）



2. 102号住居跡南北土層断面南側（東から）



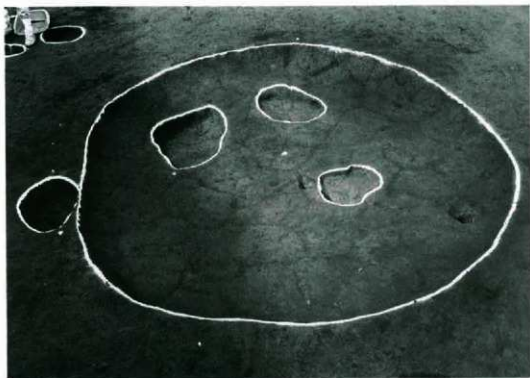
3. 102号住居跡南北土層断面北側（東から）



4. 102号住居跡東西土層断面西側（南から）



5. 102号住居跡東西土層断面東側（南から）



1. 103号住居跡完掘全景（東から）



2. 103号住居跡南北土層断面（東から）



3. 103号住居跡東西土層断面（南から）



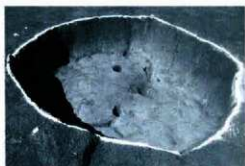
4. 103号住居跡遺物出土状態（南から）



1. 130号土坑全景（東から）



2. 130号土坑東西土層断面（南から）



3. 131号土坑全景（東から）



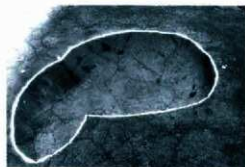
4. 131号土坑東西土層断面（南から）



5. 132号土坑全景（東から）



6. 132号土坑南北土層断面（東から）



7. 133号土坑全景（西から）



8. 133号土坑南北土層断面（西から）



1. 134号土坑全景 (北から)



2. 134号土坑東西土層断面 (北から)



3. 135号土坑全景 (東から)



4. 135号土坑南北土層断面 (東から)



5. 136号土坑全景 (南から)



6. 136号土坑東西土層断面 (南から)



7. 137号土坑全景 (南から)



8. 137号土坑東西土層断面 (南から)



1. 138号土坑全景 (南から)



2. 138号土坑東西土層断面 (南から)



3. 20号集石土坑全景 (東から)



4. 20号集石土坑完掘全景 (南から)



5. 20号集石土坑東西土層断面 (南から)



6. 21号集石土坑全景 (東から)



7. 21号集石土坑完掘全景 (東から)



8. 21号集石土坑南北土層断面 (東から)





1. 調査地全景（南から）



2. 調査地南部（北から）



1. 深掘り土層断面全景（北から）



2. 作業風景包含層掘削



3. 作業風景遺物実測



4. 作業風景先土器深掘り



5. 作業風景先土器深掘り

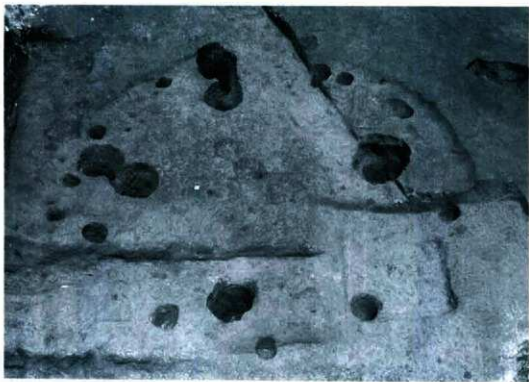




1. 78号住居跡完掘全景（南から）



2. 79号住居跡完掘全景（北から）



1. 80号住居跡完掘全景（南から）



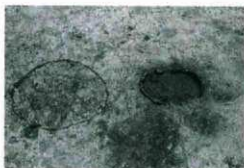
2. 80号住居跡炉跡全景（南から）



3. 80号住居跡遺物出土状態（南から）



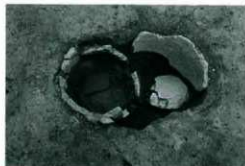
1. 81号住居跡完掘全景（南から）



2. 81号住居跡炉跡全景（東から）



3. 81号住居跡埋壺炉土層断面（東から）



4. 81号住居跡埋壺炉完掘全景（東から）



1. 82号住居跡完掘全景（北から）



2. 82号住居跡土層断面（北から）



3. 82号住居跡埋壺土層断面（東から）



4. 82号住居跡埋壺完掘全景（北から）



5. 82号住居跡遺物出土状態（北から）



1. 83号住居跡発掘全景（北から）



2. 83号住居跡土層断面（北から）



3. 83号住居跡炉跡土層断面（南から）



4. 83号住居跡炉跡発掘全景（南から）



1. 84号住居跡完掘全景（北から）



2. 84号住居跡炉跡土層断面（西から）



3. 84号住居跡炉跡土層断面（南から）



4. 84号住居跡炉跡完掘全景（東から）



1. 64号土坑全景 (北から)



2. 64号土坑土層断面 (北から)



3. 65号土坑全景 (西から)



4. 65号土坑土層断面 (東から)



5. 67号土坑全景 (北から)



6. 67号土坑土層断面 (北から)



7. 68号土坑全景 (南から)



8. 68号土坑土層断面 (南から)





1. 69号土坑全景 (南から)



2. 69号土坑土層断面 (南から)



3. 66号土坑全景 (北から)



4. 66号土坑全景 (東から)



5. 66号土坑土層断面 (東から)



6. 70号土坑全景 (西から)



7. 70号土坑全景 (南から)



8. 70号土坑土層断面 (南から)





1. 61号土坑全景 (北から)



2. 61号土坑土層断面 (北から)



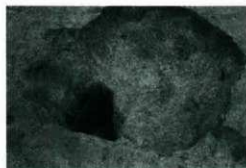
3. 62号土坑全景 (南から)



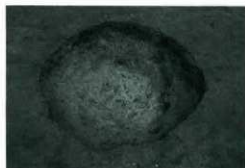
4. 62号土坑東西土層断面 (北から)



5. 62号土坑南北土層断面 (西から)



6. 63号土坑全景 (南から)



7. 71号土坑全景 (南から)



8. 72号土坑全景 (北から)



1. 72号土坑土層断面 (南から)



2. 73号土坑全景 (北から)



3. 74号土坑全景 (南から)



4. 74号土坑土層断面 (南から)



5. 75号土坑土層断面 (東から)



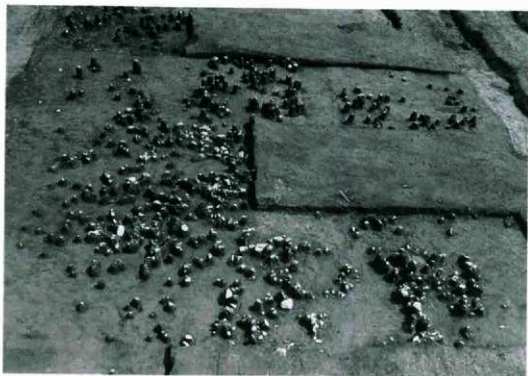
6. 76号土坑全景 (南から)



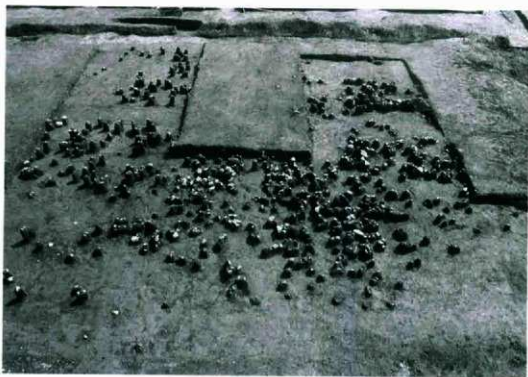
7. 77号土坑全景 (南から)



8. 77号土坑土層断面 (西から)



1. 23号碑集中部分全景 (東から)



2. 23号碑集中部分全景 (南から)



1. 調査地近景（北から）



2. 調査地全景（東から）



1. 調査地全景（西から）



2. 発掘作業風景（東から）



1. 1号埋壙全景（北から）



2. 1号埋壙全景（東から）



3. 2号埋壙全景（北から）



4. 2号埋壙土層断面（北から）



5. 3号埋壙全景（南から）



6. 3号埋壙土層断面（南から）



7. 1号土坑全景（南から）



8. 1号土坑土層断面（南から）





1. 2号土坑全景 (南から)



2. 2号土坑土層断面 (東から)



3. 3号土坑全景 (南から)



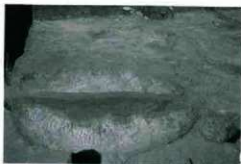
4. 4号土坑全景 (南から)



5. 4号土坑土層断面 (南から)



6. 5号土坑全景 (東から)



7. 5号土坑土層断面 (南から)



8. 6号土坑土層断面 (西から)



1. 1号集石全景 (北から)



2. 1号集石全景 (南から)



3. 2号集石全景 (北から)



4. 2号集石全景 (東から)



5. 3号集石全景 (北から)



6. 3号集石全景 (西から)

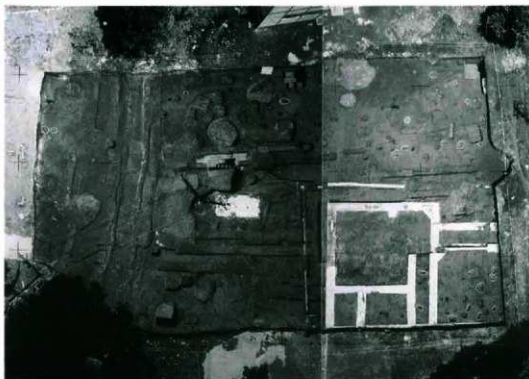


7. 4号集石全景 (西から)



8. 4号集石全景 (北から)



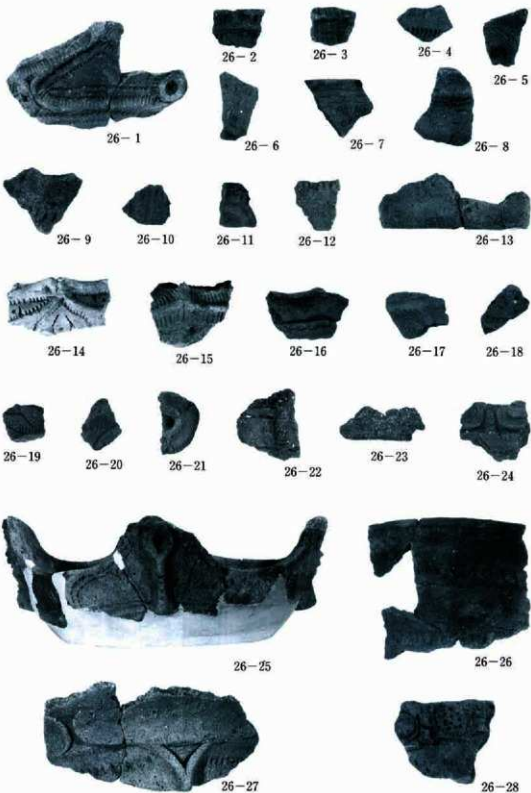


1. 調査地全景 (ラジコンヘリコプターによる撮影)

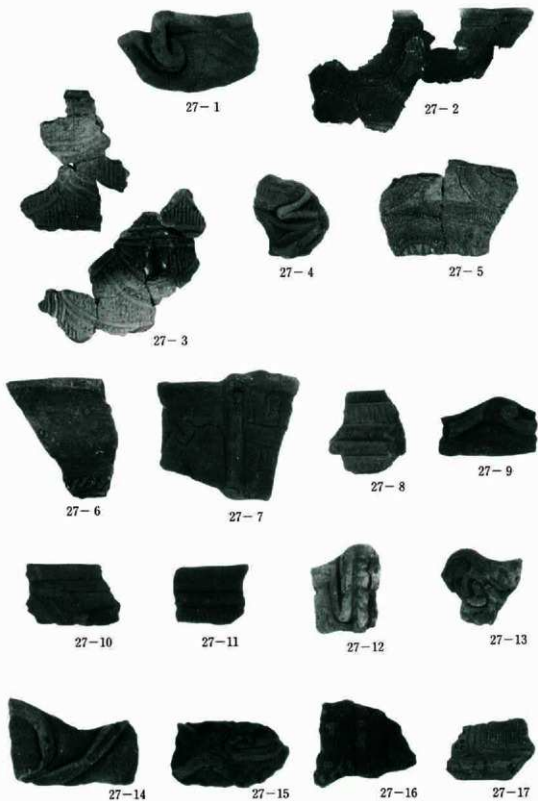


2. 配水管部分全景 (東から)

图版28 K 2-35次調查 101・102・103号住居跡、20号集石土坑出土土器



图版29 K 2-35次调查 21号集石土坑出土土器



图版30 K 2-35次調査 21号集石土坑出土土器



28-1



28-2



28-3



28-4



28-5



28-6



28-7



28-8



28-9



28-10



28-11



28-12



28-13



28-14



28-15



28-16



28-17



28-18

图版31 K 2-35次调查 21号集石土坑出土土器



29-1



29-2



29-3



29-4



29-5



29-6



29-7



29-8



29-9



29-10



29-11



29-12



29-13



29-14



29-15

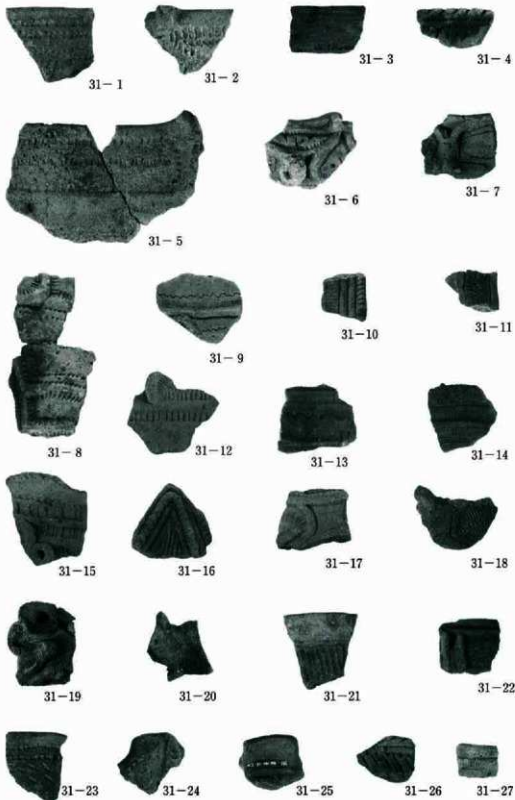


29-16

図版32 K 2-35次調査 21号集石土坑、ビット7、遺構外出土土器



図版33 K2-35次調査 遺構外出土土器





32-1



32-2



32-3



32-4



32-5



32-6



32-7



32-8



32-9



32-10



32-13



32-11



32-12



32-14



32-15



32-16



32-17



32-18



32-19



32-20



32-21



32-22



32-23



32-24



32-25



図版35 K 2-35次調査 遺構外出土土器、土製品



33-1



33-2



33-3



33-4



33-5



33-6



33-7



33-8



33-9



33-10



33-11



33-12



33-13



33-14



33-15



33-16



33-17



33-18



33-19



33-20



33-21



33-22



33-23



33-24



33-25



33-26



33-27



図版37 K 2-35次調査 21号集石土坑出土石器



35-2



35-3



35-4



35-5



35-6



35-7



35-8



35-9



35-10



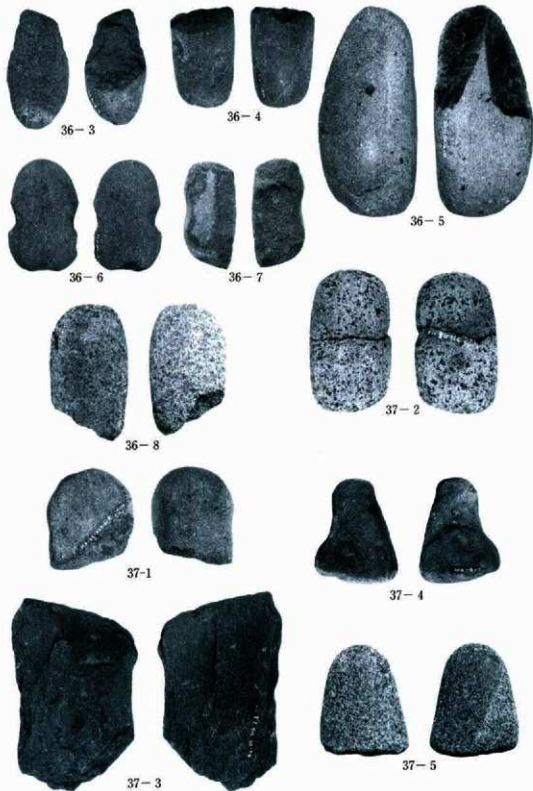
35-11



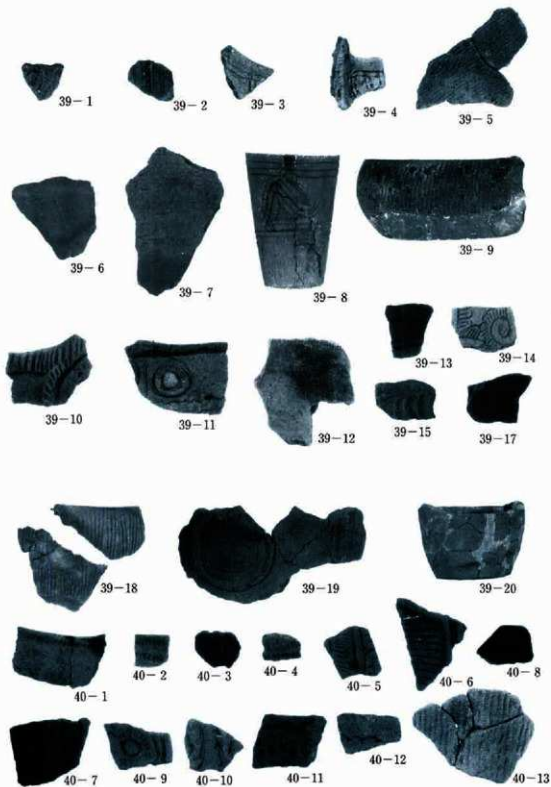
36-1



36-2









40-14



40-14



40-15



40-16



41-1



41-2



41-3



41-6



41-7



41-8



41-5



41-4



41-9



41-10



41-12



41-13

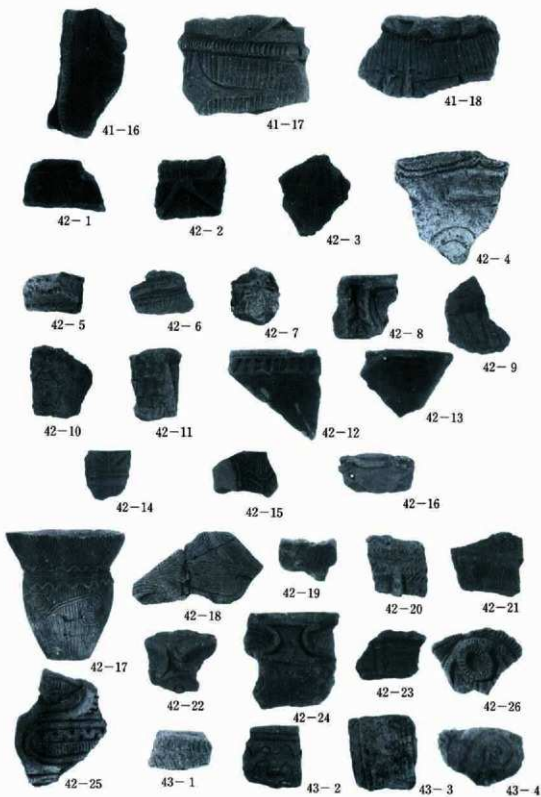


41-14



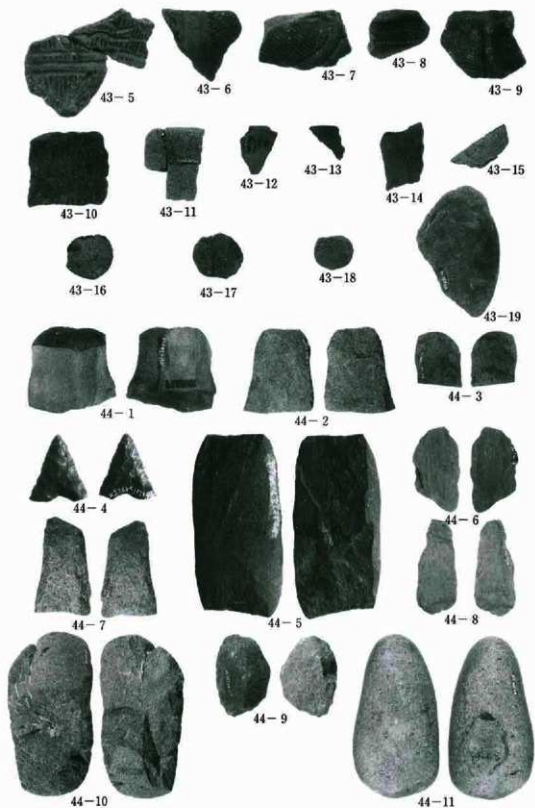
41-15

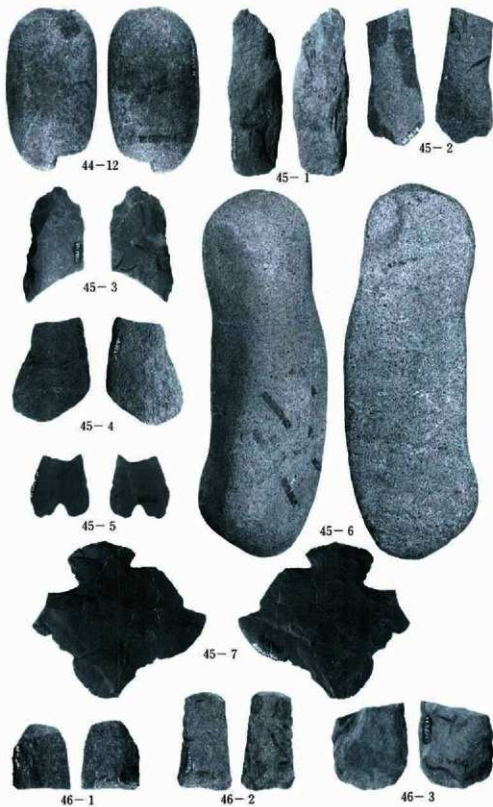
41-11





図版43 K 2-39次調査 遺構外出土土器、土製品、78・80・81号住居跡出土石器





図版45 K 2-39次調査 84号住居跡、23号礫集中部分、遺構外出土石器



46-4



46-5



46-6



46-7



46-8



47-1



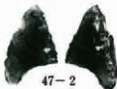
46-10



46-9



47-4



47-2



47-3



47-6



47-12



47-5



47-7



47-9



47-8



47-10



47-11

図版46 K 5-2次調査 1・2・3号埋壺、3・4号土坑、1・3号集石、ビット25・26、遺構外出土土器



48-1



48-2



48-3



48-4



48-5



48-6



48-7



49-1



49-5



49-2



49-3



49-6



49-7



49-4



49-8

図版47 K 5 - 2 次調査 遺構外出土土器



49-9



49-10



49-11



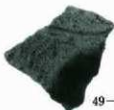
49-12



49-13



49-14



49-15



49-16



49-17



49-18



50-1



50-2



50-3



50-4



50-5



50-6



50-7



50-8



50-9



50-10



50-11



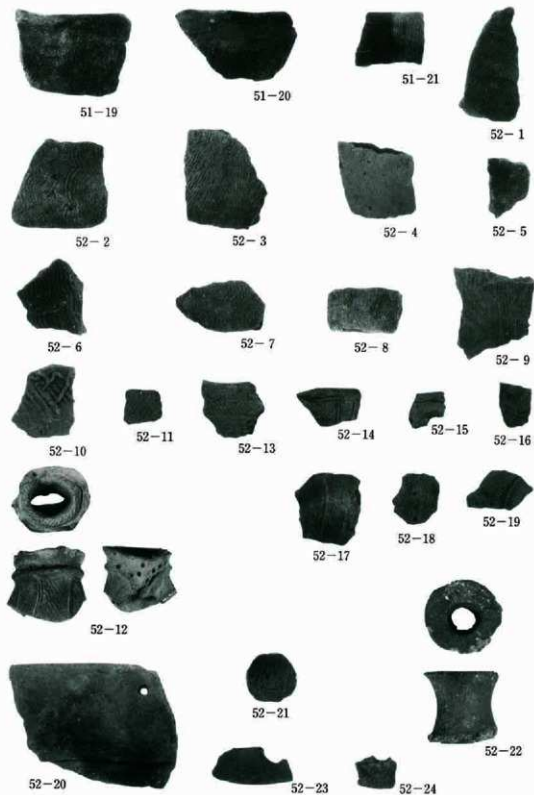
50-12



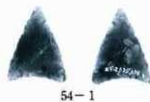
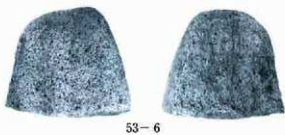
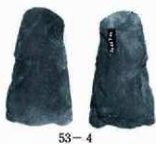
50-13



図版49 K 5-2次調査 遺構外出土土器、土製品

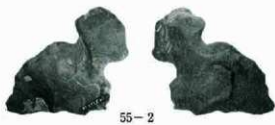
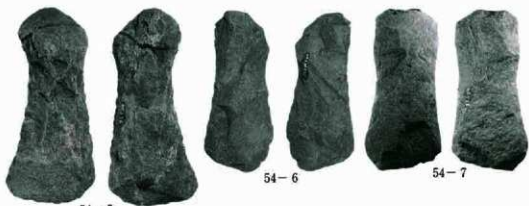


図版50 K 5-2次調査 1号埋壘、2・3号土坑、1号集石、遺構外出土石器





図版51 K 5-2次調査 遺構外出土石器





55-4



55-6



55-7



55-8



55-9



56-1



56-2



56-3



56-4



56-5



56-6





57-1



57-2



57-3



57-4



57-5



57-6



57-7



58-1



58-2



58-3



58-4



58-5



58-6



58-8



58-7



58-9



59-3



59-2



59-1



59-4



59-5



## 国分寺市文化財調査報告刊行目録

※ ( ) 初版刊行年月

- 第1集 恋ヶ窪遺跡発掘調査概要(昭和40年3月刊) 国分寺市文化財専門委員会編
- 第2集 恋ヶ窪堂址調査報告(刊行年不明) 泉町廃寺址遺跡調査団編著
- 第3集 武蔵国分寺図譜(昭和41年12月刊) 滝口宏編著
- 第4集 武蔵国分尼寺(昭和49年4月刊) 滝口宏著
- 第5集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報I(昭和51年6月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第6集 // II(昭和51年7月刊) //
- 第7集 武蔵国分寺遺跡調査会年報I(年報1974)(昭和54年3月刊) //
- 第8集 恋ヶ窪遺跡調査報告I(昭和54年3月刊) 恋ヶ窪遺跡調査団編著
- 第9集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報III(昭和52年11月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第10集 // IV(昭和55年2月刊) //
- 第11集 恋ヶ窪遺跡調査報告II(昭和55年10月刊) 恋ヶ窪遺跡調査団編著
- 第12集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報V(昭和56年3月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第13集 // VI(昭和57年3月刊) //
- 第14集 恋ヶ窪遺跡調査報告III(昭和57年3月刊) 恋ヶ窪遺跡調査団編著
- 第15集 武蔵国分寺遺跡発掘調査概報VII(昭和57年9月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第16集 武蔵国分寺遺跡調査会年報II(第1分冊 昭和59年3月刊、第2分冊 昭和57年3月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第17集 花沢東遺跡(昭和59年3月刊) 恋ヶ窪遺跡調査団編著
- 第18集 武蔵国分寺跡遺物整理報告書—昭和三十一年・三十三年度—(昭和60年4月刊) 日本考古学協会仏教遺跡調査特別委員会編
- 第19集 武蔵国分寺跡発掘調査概報VIII(昭和60年3月刊) 武蔵国分寺遺跡調査団編著
- 第20集 // IX(昭和60年3月刊) //
- 第21集 多摩関坂遺跡(昭和55年4月刊) 恋ヶ窪遺跡調査団編著
- 第22集 武蔵国分寺跡発掘調査概報X(昭和62年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第23集 // XI(昭和62年3月刊) //
- 第24集 恋ヶ窪南遺跡発掘調査概報I(昭和62年3月刊) //
- 第25集 恋ヶ窪遺跡調査報告IV(昭和63年3月刊) //
- 第26集 武蔵国分寺跡調査報告書(昭和62年3月刊) 滝口宏編
- 第27集 武蔵国分寺跡発掘調査概報XII(昭和63年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第28集 // XIII(昭和63年9月刊) //
- 第29集 // XIV(平成元年3月刊) //
- 第30集 // XV(平成元年3月刊) //
- 第31集 // XVI(平成2年3月刊) //
- 第32集 国分寺市の民俗1(平成3年3月刊) 国分寺市民俗調査団編著
- 第33集 武蔵国分寺跡発掘調査概報XVII(平成3年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第34集 国分寺市No.37遺跡調査概報I(平成3年3月刊) //
- 第35集 国分寺市の民俗2(平成4年3月刊) 国分寺市民俗調査団編著
- 第36集 恋ヶ窪廃寺跡発掘調査概報I(平成元年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著
- 第37集 国分寺市の民俗3(平成5年2月刊) 国分寺市民俗調査団編著
- 第38集 国分寺市の民俗4(平成6年3月刊) 国分寺市教育委員会編
- 第39集 武蔵国分尼寺跡I 平成4年度発掘調査概報(平成6年3月刊) 国分寺市遺跡調査団編著

国分寺市文化財調査報告 第40集

恋ヶ窪遺跡調査報告VI

— 日立中央研究所研究棟・食堂・プール更衣室建設工事に伴う調査 —

---

---

発行日 第一刷 平成4年2月29日  
第二刷 平成6年3月31日  
編著者 国分寺市遺跡調査団  
◎ (団長 滝口 宏)  
発行所 国分寺市遺跡調査会  
東京都国分寺市教育委員会  
〒185 国分寺市戸倉1-6-1  
TEL 0423-25-0111(代表)  
印刷所 コロニー東村山印刷所

---

---

令和4年(2022)3月9日 デジタル版作成  
底本はB5版。